

2025 年度 4 月期入学
修 士 課 程
外国人留学生学生募集要項
(2025年度10月期入学含む)

Guidelines for International Applicants
to the 2025 Master's Program
【April 2025 Admission】
(Including October 2025 Admission)

京都大学大学院工学研究科
Graduate School of Engineering, Kyoto University

〒615-8530 京都市西京区京都大学桂
TEL 075-383-2040, 2041

Kyoto daigaku-Katsura, Nishikyo-Ku, Kyoto, 615-8530, JAPAN
Phone: +81-75-383-2040 or +81-75-383-2041
E-Mail: 090kdaigakuin-nyushi@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

目 次

Part A	全入試区分共通部分	4
I.	募集人員	4
II.	出願資格と出願資格の審査	4
i.	出願資格	4
ii.	出願資格の確認（出願資格（3）（4）（5）（6））	5
iii.	出願資格の審査（出願資格（9）（10））	5
III.	出願要領	6
i.	出願手続	6
ii.	出願書類	7
IV.	入学者選抜方法	9
i.	学力検査	9
ii.	受験票	9
V.	合格者発表	9
VI.	入学料及び授業料と入学手続	9
VII.	注意事項	10
VIII.	共通部分に関する問合せ先	10
IX.	入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）について	10
X.	修士課程入学後の教育プログラムについて	11
XI.	博士課程教育リーディングプログラムについて	11
XII.	卓越大学院プログラムについて	11
XIII.	スーパーグローバルコースについて	11
XIV.	大学院修士課程ダブルディグリープログラムについて	11
XV.	表 修士課程入学後の教育プログラムと入試区分・専攻	12
XVI.	試験日程一覧（修士課程）	13
Part B	入試区分別入学試験詳細	24

Contents

Part A	Common Part for All Divisions/Departments	14
I.	Number to Be Accepted.....	14
II.	Eligibility and Its screening.....	14
i.	Eligibility.....	14
ii .	Eligibility Confirmation (under requirement (3) (4) (5) (6)).....	15
iii.	Eligibility Screening (under requirements (9)(10)).....	15
III.	Application.....	16
i.	Application Procedures.....	16
ii.	Application Documents.....	17
IV .	Selection Methods.....	19
i.	Academic Examination.....	19
ii.	Examination Voucher.....	19
V.	Announcement of Entrance Examination Results.....	19
VI.	Admission Fee, Tuition and Admission Procedure.....	19
VII .	Notes.....	20
VIII.	Contact Information for Inquiries Regarding Common Part for All Divisions/Departments	20
IX.	Admission Policy.....	20
X.	Educational Programs in Master's Program.....	21
XI.	Program for Leading Graduate Schools.....	21
XII.	Doctoral Program for World-leading Innovative & Smart Education.....	21
XIII.	Top Global Course.....	21
XIV.	Master's Double Degree Program.....	21
XV.	Table: Educational Program and Division/Department.....	22
XVI.	List of Examination Schedule (Master's Program).....	23
Part B	Details of Entrance Examinations of each Division/Department	24

Part A: 全入試区分共通部分

※本募集要項の記載内容については日本語版が優先となります。

京都大学大学院工学研究科の修士課程は、大学院設置基準第4条第4項にいう博士課程の前期2年の課程です。

I. 募集人員

①2025年度4月期入学：各入試区分とも若干名

入 試 区 分	分 属 専 攻
社会基盤・都市社会系	社会基盤工学専攻 都市社会工学専攻
都市環境工学	都市環境工学専攻
建 築 学	建築学専攻
機 械 工 学 群	機械理工学専攻 マイクロエンジニアリング専攻 航空宇宙工学専攻
原 子 核 工 学	原子核工学専攻
材 料 工 学	材料工学専攻
電 気 系	電気工学専攻 電子工学専攻
材 料 化 学	材料化学専攻
物質エネルギー化学	物質エネルギー化学専攻
分 子 工 学	分子工学専攻
高 分 子 化 学	高分子化学専攻
合 成 ・ 生 物 化 学	合成・生物化学専攻
化 学 工 学	化学工学専攻

②2025年度10月期入学：各入試区分とも若干名

入 試 区 分	分 属 専 攻
社会基盤・都市社会系	社会基盤工学専攻 都市社会工学専攻
都市環境工学	都市環境工学専攻

注：

- ・社会基盤・都市社会系、機械工学群及び電気系では、各系・群ごとに一括募集を行い、合格者決定後、各専攻に配属します。
- ・各専攻の内容については、「入試区分別入学試験詳細」を参照してください。
- ・社会基盤・都市社会系および都市環境工学を志望し、かつ、融合工学コース「人間安全保障工学分野」の履修を希望する者は、入学時期を2025年度4月期あるいは2025年度10月期のいずれかから選択することができます。出願後は入学時期の変更はできないので、該当者は事前に受入予定教員とよく相談のうえ入学時期を決定すること。

II. 出願資格と出願資格の審査

i. 出願資格

外国の国籍を持ち、在留資格「留学」を有する者、又は入学時に「留学」を取得できる見込みの者で（注）、かつ次の各号のいずれかに該当する者、又は次の各号のいずれかに2025年度4月期入学を志望する者においては2025年3月末までに、2025年度10月期入学を志望する者においては2025年9月末までに該当する見込みの者

- (1) 日本の大学又は専門職大学を卒業した者
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者（ii参照）
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者（ii参照）

(5) 我が国において、外国の大学（専門職大学に相当する外国の大学を含む。以下同じ。）の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者（ii 参照）

(6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が指定するものに限る。）において、修業年限が 3 年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者（ii 参照）

(7) 文部科学大臣が指定する専修学校の専門課程を文部科学大臣が定める日以後に修了した者

(8) 文部科学大臣の指定した者（昭和 28 年文部省告示第 5 号）

(9) 日本の大学又は専門職大学に 3 年以上在学した者（学校教育法第 102 条第 2 項の規定により、これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む。）であって、京都大学大学院工学研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者（iii 参照）

(10) 京都大学大学院工学研究科において、個別の入学資格審査により、大学又は専門職大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22 歳に達した者（iii 参照）

注：重国籍者で日本国籍を有する場合は、在留資格「留学」を取得できませんので、ご注意ください。該当者は出願前に大学院掛（VIII 参照）へ問い合わせてください。

ii. 出願資格の確認（出願資格(3)(4)(5)(6) 外国の大学を卒業した者等（京都大学大学院工学研究科研究生は除く））

出願資格(3)(4)(5)(6)により出願を希望する者（外国の大学を卒業した者及び卒業見込みの者又は外国において学士の学位を取得した者及び取得見込みの者（京都大学大学院工学研究科研究生は除く））は、事前に確認のため、必ずアドミッション支援オフィス（Admissions Assistance Office/AAO）で手続きを行ってください。詳しくは、以下のホームページに掲載していますので確認してください。

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/international/students1/study1/graduate/graduateinfo/ku-aa0>

その後、履歴書（III-ii-⑤）を、2024 年 12 月 3 日（火）午後 5 時までに大学院掛（VIII 参照）へメールで提出してください（件名は「出願資格確認」としてください）。

iii. 出願資格の審査（出願資格(9)(10)）

出願資格(9)又は(10)により出願を希望する者には、出願に先立ち出願資格の審査を行いますので、次の書類を大学院掛（VIII 参照）へ提出してください。郵送する場合は、封筒の表に「工学研究科修士課程出願資格認定申請」と朱書きし、必ず「書留」にしてください。

提出期限：2024 年 12 月 10 日（火）午後 5 時（必着）

[出願資格審査提出書類]

(1) 出願資格認定申請・調書	(出願資格(9)又は(10)該当者) 様式は工学研究科ホームページからダウンロードしてください。
(2) 推薦書	(出願資格(9)該当者) 在籍する大学が作成し、厳封したものを提出してください。(様式随意)
(3) 成績証明書	(出願資格(9)該当者) 在籍する大学が作成し、厳封したものを提出してください。 (出願資格(10)該当者) 最終出身学校が作成し、厳封したものを提出してください。
(4) 教育課程表	(出願資格(9)該当者) 在籍する学科等の開講科目の講義内容等が記載されているものを提出してください。

1. 出願資格(9)により出願資格の認定申請をした者には、書類審査を行います。
2. 出願資格(10)により出願資格の認定申請をした者には、書類審査並びに大学卒業程度の学力について筆記試験又は口頭試問若しくはその両方を行います。
3. 試験及び試問は、2025 年 1 月 6 日（月）に京都大学大学院工学研究科において行います。
4. 資格審査の結果は、2025 年 1 月 7 日（火）に申請者あて郵送により通知します。

Ⅲ. 出願要領

i. 出願手続

出願手続は、下記期限内に「①インターネット出願システムでの出願登録および入学検定料納入」および「②出願書類の提出（郵送または持参）」をすることにより完了します。

インターネット出願システムのページには、以下の URL からアクセスのうえ、「試験一覧 < 出願情報の登録 >」一覧のうち『2025 年度 4 月期入学修士課程外国人留学生（2025 年度 10 月期入学含む）』を選択してください。

<https://www.webshutsugan.com/kyoto-u-daigakuin/>

- (1) 出願者は、角型 2 号の封筒（240 mm×332 mm）にインターネット出願システムから印刷した宛名ラベルを貼り、全ての出願書類（III-ii 参照）を封入し、書留速達扱いにて郵便局の窓口より郵送（郵便ポストへの投函不可）又は持参してください（※宛名ラベルは出願登録完了後に印刷できます）。海外から発送する場合は、追跡可能な国際郵便サービス（EMS, UPS, DHL, FedEx など）で送ってください。
- (2) 出願書類に不備があるもの及び出願期間後に郵送、提出された出願書類は受理しませんので注意してください。
- (3) 出願書類受理後は、出願事項の変更は認めませんので注意してください。
- (4) 次に該当する場合には納付済の検定料を返還します。
 1. 検定料は納付したが京都大学大学院工学研究科に出願しなかった（出願書類等を提出しなかった又は出願が受理されなかった）場合
 2. 検定料を誤って二重に納付した場合※検定料返還を希望する場合は、以下の事項を大学院掛（Ⅶ参照）にメールでお知らせください。
①志願者氏名、②郵便番号、③住所、④電話番号、⑤検定料の納入方法、⑥納入した金融機関名又はコンビニエンスストア名及び支店名
- (5) 志望する入試区分（専攻・系・群）によっては、独自の書類の提出を課していることがあります。「入試区分別入学試験詳細」をよく読んで対応してください。
- (6) 複数の入試区分への出願は認めません。
- (7) 障害等があり、受験上あるいは修学上の合理的配慮を必要とする場合は、協議しますのでご相談ください。なお、内容によっては対応に時間を要することもありますので、相談を希望する者は、出願前の早い時期に大学院掛（Ⅶ参照）へ申し出てください。
- (8) 社会基盤・都市社会系および都市環境工学を志望し、かつ、融合工学コース「人間安全保障工学分野」の履修を希望する者は、入学時期を 2025 年度 4 月期あるいは 2025 年度 10 月期のいずれかから選択することができます。該当者はインターネット出願システム上で、4 月期入学と 10 月期入学のいずれかを選択してください。

① インターネット出願システムでの出願登録および入学検定料納入期間：

2024 年 12 月 24 日（火）～2025 年 1 月 14 日（火）午後 5 時

② 出願書類提出期間（郵送または持参）：

2024 年 12 月 24 日（火）～2025 年 1 月 15 日（水）午後 5 時（必着）

- ① の期間中にインターネット出願の登録と入学検定料の納入を済ませ、なおかつ②の期間中に出願書類が本研究科に到着していなければなりません。ただし、2025 年 1 月 13 日（月）以前の日本の発信局消印がある書留速達郵便に限り、期限後に到着した場合においても受理します。
- 受付方法：原則郵送とする（郵便局窓口にて書留速達郵便を申し込むこと）。ただし、所用により大学に來ている場合は専用ボックスに提出してもよい。（対面での受付は行わない）
- 書類に不備があった場合は再提出を求める場合があるため、締切まで余裕をもって提出すること。
- 送付先：〒615-8530 京都市西京区京都大学桂 京都大学工学研究科教務課大学院掛
- 専用ボックス受付時間：出願書類提出期間中の平日の午前 9 時～午後 5 時（※ただし、2024 年 12 月 28 日（土）～2024 年 1 月 5 日（日）の冬季休業期間中を除く）
- 専用ボックス設置場所：桂キャンパス B クラスター事務管理棟 1 階教務課大学院掛窓口前
- 持参による提出の場合も、インターネット出願システムより出力できる郵送用の宛名ラベルを貼付した封筒に入れ、封をした状態で専用ボックスに入れてください。

ii. 出願書類

※各入試区分において、下記の書類とは別に書類を求める場合があるので、注意してください。
 詳細は、入試区分別入学試験詳細を参照してください。

【A 全員提出が必要】

① 志願票・写真票 ※出願登録を完了しないと印刷できません。	インターネット出願システムの出願登録完了画面から A4 で印刷してください。 写真票には、上半身脱帽正面向きで出願前 3 か月以内に単身で撮影した写真 1 枚（縦 4 cm×横 3 cm）を枠内に貼り付けてください。 ※おって、大学から送付する受験票に写真を貼付する必要があるため、あらかじめ同じ写真をもう 1 枚準備しておいてください。
② 受験票送付用封筒 ※海外への発送は行いません（下記注意参照）。	工学研究科ホームページからダウンロードした受験票送付用ラベルに 410 円切手（速達）を貼付のうえ、受験票発送時の連絡先、志望入試区分を記入し、<u>長形 3 号の封筒（120 mm×235 mm）に貼り付けてください。</u> <u>※カラーで印刷してください。白黒の場合は上部に朱書きで速達とわかるように線を引いてください。</u>
③ 合格者受験番号一覧送付用封筒 ※海外への発送は行いません（下記注意参照）。	工学研究科ホームページからダウンロードした合格者受験番号一覧送付用ラベルに 110 円切手を貼付のうえ、合格者発表時の連絡先、入試区分を記入し、<u>長形 3 号の封筒（120 mm×235 mm）に貼り付けてください。</u>
④ 在留カード（両面）のコピー	出願時に提出できない者は、パスポートのコピー（顔写真のあるページ）を提出し、入学時までには必ず在留カード（両面）のコピーを提出してください。
⑤ 履歴書	工学研究科ホームページから様式をダウンロードし、履歴に空白期間のないように記載してください。重国籍者はすべての国籍を記載してください。A4 で印刷してください。
⑥ 入学検定料 ※京都大学総長が指定する災害による災害救助法適用地域において、主たる家計支持者が被災された方で、罹災証明書等を得ることができる場合は入学検定料を免除または返還することがあります。対象となる災害及び要件については、京都大学ホームページ（「入学検定料の免除について」 http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/admissions/fees_exemption）を参照してください。 詳しくは、工学研究科 教務課 大学院掛まで問い合わせてください。	入学検定料 30,000 円 支払い方法は、インターネット出願時に以下のいずれかを選択してください。 ・コンビニエンスストア ・クレジットカード ・金融機関 ATM [Pay-easy] ・ネットバンキング ※入学検定料の他に支払い手数料（650 円）が必要となります。 ※出願書類受理後の入学検定料の払い戻しには応じません。（左記「総長が指定する災害」による免除対象者を除く） <u>※国費留学生については、入学後に検定料を返還します。ただし、検定料支払い時の手数料は返還されません。また、検定料返還時にかかる振込手数料は受験者の負担となります。出願時点で国費留学生であり、かつ、京都大学工学部・工学研究科以外に在籍している者は「国費留学生証明書」を提出してください。出願時点で国費留学生として選考中である者は「第一次選考合格証明書」等を提出してください。なお、現在国費留学生であっても入学時に延長されない場合は、入学検定料は返還されません。</u>

注意：海外在住の場合は、日本の切手や封筒の入手及び工学研究科から送付する書類の受け取りについて、研究室あるいは日本に在住している知人に代理受領を依頼するなど、予め手配しておいてください。

【B 外国の大学を卒業した者及び卒業見込みの者（京都大学大学院工学研究科研究生は除く）は、上記Aに加えて以下の書類が必要】

⑦ 成績証明書	本紙（オリジナル）を提出してください。 なお出願時点で大学を卒業している場合は、卒業日以降に発行された成績証明書を提出してください。
⑧ 卒業（見込）証明書および学位授与証明書	本紙（オリジナル）を提出してください。 なお、卒業証明書等で学位取得が確認できる場合は学位授与証明書の提出は不要です。
⑨ 推薦書	出身大学（卒業見込者は在学大学）の指導教員等が作成したもの。推薦者が所属する機関の公式なレターヘッドが印刷された用紙を使用して、以下（１）～（６）の内容が記載されていること。 （１）出願者の学力、研究者や専門家としての適性、人物像、学業や研究の成果等についての総合的な所見 （２）出願者氏名 （３）出願者との関係 （４）推薦者の所属、身分、連絡先（Eメールアドレス含む） （５）推薦者の自筆による署名 （６）作成年月日 注：必要に応じて推薦者に推薦内容を照会することがあります。

※ 日本語または英語以外で書かれている証明書を提出する場合は、日本語訳（または英語訳）を添付してください。

※（再掲）外国の大学を卒業した者及び卒業見込みの者又は外国において学士の学位を取得した者及び取得見込みの者は、事前に出願資格の確認が必要です（Ⅱ－ⅱ参照）。

【C 日本の大学（京都大学工学部を除く）を卒業した者及び卒業見込みの者は、上記Aに加えて以下の書類が必要】

⑦ 成績証明書	本紙（オリジナル）を提出してください。 なお出願時点で大学を卒業している場合は、卒業日以降に発行された成績証明書を提出してください。
⑧ 卒業（見込）証明書	本紙（オリジナル）を提出してください。

【D 出願資格（2）に該当する者は、上記Aに加えて以下の書類が必要】

⑦ 成績証明書	本紙（オリジナル）を提出してください。 高等専門学校修了（見込）者は本科及び専攻科の両方が必要です。 なお出願時点で当該学校を修了している場合は、修了日以降に発行された成績証明書を提出してください。
⑧ 卒業（見込）証明書	本紙（オリジナル）を提出してください。
⑩ 学士の学位授与証明書	大学評価・学位授与機構に学士の学位を申請する予定の者は、学校長名の学位授与申請予定である旨の証明書を提出してください。

IV. 入学者選抜方法

入学者の選抜は、出願書類の内容、学力検査の成績を総合して行います。

i. 学力検査

(1) 学力検査日： 2025年2月12日（水）・13日（木）

なお、詳細については、「入試区分別入学試験詳細」を参照してください。ただし、融合工学コース人間安全保障工学分野志望者の試験日程は別途通知します。

(2) 試験当日は、特に指定のない場合は試験開始 20 分前までに当該試験室前に集合してください。

ii. 受験票

受験票は、「受験票送付用封筒」に記入された住所へ 2 月上旬に郵送します。

V. 合格者発表

日時： 2025年2月21日（金）15時

上記日時に、「合格者受験番号一覧」を工学研究科ホームページに掲載するとともに郵送します。ただし、合格者には「合格通知書」のみを送付します。電話等による問い合わせには応じません。

VI. 入学料及び授業料と入学手続

入学料：282,000 円

※国費留学生として入学予定の者は不要

授業料：半期額 267,900 円（年額：535,800 円）

※国費留学生として在学中は不要

注：入学料及び授業料は予定額ですので、改定されることがあります。入学時及び在学中に改定された場合には、改定時から新入学料及び新授業料が適用されます。

入学手続：

①2025 年度 4 月期入学予定者

1. 入学日は 2025 年 4 月 1 日です。
2. 合格者の入学手続の詳細については、2025 年 3 月上旬に郵送により通知します。
3. 事情により入学を辞退する者は、直ちにその旨を各専攻事務室（クラスター事務区教務掛）に届け出てください。
4. 2025 年 4 月 1 日までに留学ビザを取得しておいてください。
5. 入学手続期限は 2025 年 3 月中旬の予定です。
6. 入学手続き日等の情報は 2025 年 1 月下旬に京都大学大学院工学研究科ホームページに掲載予定です。

②2025 年度 10 月期入学予定者

1. 入学日は 2025 年 10 月 1 日です。
2. 合格者の入学手続の詳細については、2025 年 9 月上旬に郵送により通知します。
3. 事情により入学を辞退する者は、直ちにその旨を各専攻事務室（クラスター事務区教務掛）に届け出てください。
4. 2025 年 10 月 1 日までに留学ビザを取得しておいてください。
5. 入学手続期限は 2025 年 9 月中旬の予定です。

Ⅶ. 注意事項

(1) 個人情報の取扱いについて

個人情報については、「個人情報の保護に関する法律」及び「京都大学における個人情報の保護に関する規程」に基づいて取り扱います。

入学者選抜を通じて取得した氏名、性別、生年月日、住所、その他の個人情報については、①入学者選抜（出願処理、選抜実施）関係、②合格者発表関係、③入学手続業務を行うために利用します。

入学者選抜を通じて取得した個人情報（成績判定に関する情報を含む）は、入学者のみ①教務関係（学籍管理、修学指導、教育課程の改善等）、②学生支援関係（保健管理、就職支援、授業料免除・奨学金申請等）、③授業料徴収に関する業務を行うために利用します。

なお、入学者選抜を通じて取得した個人情報を電算処理する場合、当該電算処理に係る業務を外部の業者等に行わせるために当該業者に個人情報を提供することがあります。ただし、この場合には、当該業者に対して個人情報保護法の趣旨に則った保護管理の業務を契約により課します。

(2) 安全保障輸出管理について

京都大学では、外国人留学生等への教育・研究内容が、国際的な平和及び安全の維持を妨げることが無いよう、「外国為替及び外国貿易法」に基づく安全保障輸出管理を行っています。規制事項に該当する場合は、希望する教育が受けられない場合や研究ができない場合がありますので、注意してください。

(3) 長期履修学生制度について

工学研究科では、仕事・出産・育児・介護・身体等の障害などの事情に基づき、標準修業年限の2倍までの間で計画的に教育課程を履修することを認める長期履修学生制度を導入しています。希望者は、詳細を工学研究科ホームページ-入学案内ページで確認のうえ、12月末までに申請してください。

Ⅷ. 共通部分に関する問合せ先

〒615-8530 京都市西京区京都大学桂

京都大学工学研究科教務課大学院掛

TEL 075-383-2040・2041

E-Mail 090kdaigakuin-nyushi@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

大学院入試に関する情報については、工学研究科及び各専攻のホームページに随時掲載しております。風雪等による入試日程への影響が懸念される場合にも、下記ホームページから実施についての告知を行います。

- ・工学研究科のホームページ：<http://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/>
- ・各専攻のホームページ：上記の URL よりアクセスしてください。

Ⅸ. 入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）について

(1) 工学研究科の理念・目的

工学は、真理を探究し、その真理を核として人類の生活に直接・間接に関与する科学技術を創造する役割を担っており、地球社会の持続的な発展と文化の創造に対して大きな責任を負っています。京都大学大学院工学研究科は、この認識のもとで、学問の基礎や原理を重視して自然環境と調和のとれた科学技術の発展を先導するとともに、高度の専門能力と創造性、ならびに豊かな教養と高い倫理性・責任感を兼ね備えた人材を育成することをめざしています。

(2) 望む学生像

工学研究科修士課程では、次のような入学者を求めます。

- 工学研究科が掲げる理念と目的に共感し、これを実現しようとする意欲を有する人。
- 専門分野とこれに関連する諸分野において真理を探究するために必要な基礎知識を有し、それを踏まえた論理的思考と既成概念にとらわれない判断力を有する人。
- 科学技術および社会の諸課題について、知識を総合しその解決に取り組む中で創造的に新しい科学技術の世界を開拓しようとする意欲と実行力に満ちた人。
- 他者の意見を理解し、自らの意見や主張をわかりやすく表明できるコミュニケーションの基礎的能力を持った人。

入学者選抜では、個別学力検査を実施し、学修を希望する専門分野の基礎的知識とそれを踏まえた論理的な思考能力に重点をおきつつ、英語の能力も含めて評価・選抜しています。

なお、各評価方法等の詳細については、本募集要項に明記しています。

X. 修士課程入学後の教育プログラムについて

京都大学大学院工学研究科では2008年4月入学者から、従来の修士課程教育プログラムに加えて、博士学位の修得を目指す諸君を対象に新たな教育プログラム『大学院博士課程前後期連携教育プログラム』を創設しました。修士課程（博士前期課程）入試に合格し入学を許可された諸君は、所定の審査の後、教育プログラムのいずれかを選択することになります。

各プログラムの詳細については、工学研究科HP（「工学研究科教育プログラム」）をご確認ください。

<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/education/graduate/dosj69>

XI. 博士課程教育リーディングプログラムについて

京都大学では、優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへ導くため、2012年度から博士課程教育リーディングプログラムを開始しました。

工学研究科が参画しているプログラム（5年一貫コース）の内容については、工学研究科HP（「博士課程教育リーディングプログラム」）をご確認ください。

<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/education/programs/hakase>

XII. 卓越大学院プログラムについて

京都大学では、国内外の大学・研究機関・民間企業等と組織的な連携を行いつつ、世界最高水準の教育力・研究力を結集した5年一貫の博士課程学位プログラムを構築するため、2019年度から卓越大学院プログラムを開始しました。

プログラムの内容については、工学研究科HP（「卓越大学院プログラム」）をご確認ください。

<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/education/programs/takuetsu>

XIII. スーパーグローバルコースについて

京都大学では、先見性を重視する本学の精神にもとづき、戦略性、創造性、展開性ならびに継続性をもって世界で活躍するグローバル人材を育成するトップ型日本モデルとして、スーパーグローバル大学創成支援「京都大学ジャパングートウェイ構想」を2014年度より開始しました。

工学研究科では、この事業に6専攻（材料化学専攻、物質エネルギー化学専攻、分子工学専攻、高分子化学専攻、合成・生物化学専攻、化学工学専攻）が参画しており、その一環として「スーパーグローバルコース」を設置しました。当コースの履修生は、上記の化学系6専攻入試の合格者で博士後期課程への進学を目指す学生から選抜され、選抜された学生は、融合工学コース物質機能・変換科学分野所属となります。

コースの内容については、工学研究科HP（「スーパーグローバルコース」）をご確認ください。

<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/education/programs/sgu>

XIV. 大学院修士課程ダブルディグリープログラムについて

京都大学では、協定大学と双方がそれぞれ学位を授与するダブルディグリープログラムを提供しています。

工学研究科では2022年度4月より、中国清華大学深セン国際研究生院との修士課程ダブルディグリープログラムを開始しました。本ダブルディグリープログラムは、京都大学（日本）と清華大学（中国）の両方で、計3年間学び、修了時に二つの修士学位が取得できるプログラムです。対象は、都市環境工学専攻修士課程の学生であり、本入試に合格し、入学後、1か月以内に、本プログラム参加希望者の募集をします。ただし、中国国籍の学生は対象になりません。

プログラムの内容については、京都大学オンサイトラボラトリー、環境技術共同研究・教育センターHPをご確認ください。

<https://crecet.env.kyoto-u.ac.jp/ddp/>

XV. 表 修士課程入学後の教育プログラムと入試区分・専攻

教育プログラム		対応する入試区分・専攻
連携プログラム	融合工学コース	高等教育院
		a. 応用力学分野
		b. 物質機能・変換科学分野
		c. 生命・医工融合分野
		d. 融合光・電子科学創成分野
		e. 人間安全保障工学分野
		f. デザイン学分野
		g. 総合医療工学分野
	高度工学コース	社会基盤工学専攻
		都市社会工学専攻
		都市環境工学専攻
		建築学専攻
		機械理工学専攻
		マイクロエンジニアリング専攻
		航空宇宙工学専攻
		原子核工学専攻
		材料工学専攻
		電気工学専攻
		電子工学専攻
		材料化学専攻
		物質エネルギー化学専攻
		分子工学専攻
		高分子化学専攻
		合成・生物化学専攻
		化学工学専攻
		社会基盤工学専攻
		都市社会工学専攻
		都市環境工学専攻
		建築学専攻
		機械理工学専攻
		マイクロエンジニアリング専攻
		航空宇宙工学専攻
		原子核工学専攻
		材料工学専攻
		電気工学専攻
		電子工学専攻
		材料化学専攻
		物質エネルギー化学専攻
		分子工学専攻
		高分子化学専攻
		合成・生物化学専攻
		化学工学専攻
修士プログラム		社会基盤工学専攻
		都市社会工学専攻
		都市環境工学専攻
		建築学専攻
		機械理工学専攻
		マイクロエンジニアリング専攻
		航空宇宙工学専攻
		原子核工学専攻
		材料工学専攻
		電気工学専攻
		電子工学専攻
		材料化学専攻
		物質エネルギー化学専攻
		分子工学専攻
		高分子化学専攻
		合成・生物化学専攻
		化学工学専攻

※ 本表の「対応する入試区分・専攻」に属する全講座・分野には、必ずしも志望する教育プログラムが開講されているとは限らないので、「入試区分別入学試験詳細」で確認してください。

XVI. 試験日程一覧（修士課程）

詳細については、入試区分別入学試験詳細を参照してください。

入 試 区 分		2 月 12 日（水）		2 月 13 日（木）	
		時 間	科 目	時 間	科 目
社会基盤・都市社会系 社会基盤工学専攻 都市社会工学専攻 (TEL075-383-2967)		9:00～	口頭試問Ⅰ 口頭試問Ⅱ	9:00～	口頭試問Ⅰ 口頭試問Ⅱ
都市環境工学専攻 (TEL075-383-2967)		10:30～ 12:00 13:00～	筆記試験 口頭試問	9:00～17:00	口頭試問
建築学専攻 (TEL075-383-2967)		14:00～16:30	専門科目	な し	
機械工学群 機械理工学専攻 マイクロエンジニアリング専攻 航空宇宙工学専攻 (TEL075-383-3521)		10:00～12:00 14:30～	専門科目 口頭試問	な し	
原子核工学専攻 (TEL075-383-3521)		10:00～12:00 13:00～14:00 14:30～	専門科目 工学基礎 口頭試問	な し	
材料工学専攻 (TEL075-383-3521)		10:00～11:30	専門科目	10:00～	口頭試問
電気系 電気工学専攻 電子工学専攻 (TEL075-383-2077)	修士課程 教育プログラム	な し		10:00～12:00 10:00～12:00	口頭試問（数学） 口頭試問（電磁気学）
材料化学専攻 (TEL075-383-2077)		10:00～11:00 12:30～15:30 16:00～18:00	英語 専門科目Ⅰ 専門科目Ⅱ	9:00～	口頭試問
物質エネルギー化学専攻 (TEL075-383-2077)		10:30～11:30 13:00～16:00	英語 物理化学、無機化学	9:00～12:00 13:00～	有機化学、分析化学 口頭試問
分子工学専攻 (TEL075-383-2077)		10:30～11:30 13:00～16:00	英語 専門科目Ⅰ	9:00～12:00 13:00～	専門科目Ⅱ 口頭試問
高分子化学専攻 (TEL075-383-2077)		10:00～12:00 13:00～16:00	英語 専門科目Ⅰ	9:00～12:00 13:00～	専門科目Ⅱ 専門科目Ⅲ 口頭試問
合成・生物化学専攻 (TEL075-383-2077)		10:30～11:30 13:00～16:00	英語 専門科目Ⅰ	10:30～12:00 13:00～	専門科目Ⅱ 口頭試問
化学工学専攻 (TEL075-383-2077)		9:00～11:30 12:30～15:00 15:30～17:30	専門科目Ⅰ 専門科目Ⅱ 外国語（英語、日本語）	9:00～	面接

Part A: Common Part for All Divisions/Departments

※The Japanese language version of the information provided here is to be given precedence.

The Master's Program at the Graduate School of Engineering, Kyoto University refers to the two-year program prior to the Doctoral Program, as stipulated in Article 4-4 of the University Establishment Standards.

I. Number to Be Accepted

①April 2025 Admission: A Few for each Division

Division	Department
Civil and Earth Resources Engineering / Urban Management	Civil and Earth Resources Engineering Urban Management
Environmental Engineering	Environmental Engineering
Architecture and Architectural Engineering	Architecture and Architectural Engineering
Mechanical Engineering	Mechanical Engineering and Science Micro Engineering Aeronautics and Astronautics
Nuclear Engineering	Nuclear Engineering
Materials Science and Engineering	Materials Science and Engineering
Electrical and Electronic Engineering	Electrical Engineering Electronic Science and Engineering
Material Chemistry	Material Chemistry
Energy and Hydrocarbon Chemistry	Energy and Hydrocarbon Chemistry
Molecular Engineering	Molecular Engineering
Polymer Chemistry	Polymer Chemistry
Synthetic Chemistry and Biological Chemistry	Synthetic Chemistry and Biological Chemistry
Chemical Engineering	Chemical Engineering

②October 2025 Admission: A Few for each Division

Division	Department
Civil and Earth Resources Engineering / Urban Management	Civil and Earth Resources Engineering Urban Management
Environmental Engineering	Environmental Engineering

Notes:

- The divisions of Civil and Earth Resources Engineering/Urban Management, Mechanical Engineering, Electrical and Electronic Engineering do lumping recruitment in each division, and then assign the successful applicants to the departments.
- For further information on each division /department, refer to “Details of Entrance Examinations of Each Division”.
- Those who apply to Division of Civil and Earth Resources Engineering / Urban Management or Division of Environmental Engineering and wish to take to Interdisciplinary Engineering Course: “Human Security Engineering” can choose their admission time from April 2025 or October 2025. Such applicants must consult with their prospective supervisor in advance to decide the admission time since it cannot be changed once their application accepted.

II. Eligibility and Its Screening

i. Eligibility

Applicants must have non-Japanese citizenship and hold the residence status of “College Student” at the time of admission (*refer to Note below), and satisfy any of the following eligibility (or will satisfy any of the following eligibility by the end of March 2025 for those who wish April 2025 admission or by the end of September 2025 for those who wish October 2025 admission).

- (1) A person who has graduated from a Japanese university or Professional and Vocational University (hereinafter, referred to as PVU).
- (2) A person who has received a bachelor's degree according to the provisions of Article 104, Paragraph 7 of the School Education Law.
- (3) A person who has completed a 16-years of formal school education in a foreign country. * ii
- (4) A person who has completed a 16-years of education by correspondence courses of a foreign-affiliated educational institution in Japan. * ii
- (5) A person who has completed a program (limited to a program whose graduates are regarded as having completed a 16-year course in the respective foreign country) of a foreign-affiliated educational institution in Japan which is accredited under the school education system of the respective foreign country as offering a

undergraduate program of the foreign university (this includes the school equivalent to PVU in that country, the same shall apply hereinafter) and which is designated by the Minister of Education, Culture, Sports, Science and Technology(hereinafter, referred to as the MEXT). * ii

- (6) A person who has received a degree equivalent to a bachelor's degree by completing a three-year or longer program at a foreign university or other foreign educational institution. The university or educational institution must have been accredited by the respective foreign government or a person certified by the appropriate foreign governmental agency, or have been so designated by the MEXT. (This includes a person who has completed an appropriate program offered by the respective foreign educational institution through distance learning while residing in Japan, and a person who has completed an appropriate foreign educational program at an educational institution in Japan as specified in the previous item.) * ii
- (7) A person who has completed the required course of study in a higher professional school designated by the MEXT after a date specified by the MEXT.
- (8) A person designated by the MEXT (under Notification No.5, Minister of Education, 1953).
- (9) A person having attended a Japanese university/PVU for at least 3 years (including a person designated by the MEXT as satisfying Article 102 Paragraph 2 of the School Education Act) and having been recognized by the Graduate School of Engineering, Kyoto University as having achieved excellent grades in certain determined classes. * iii
- (10) A person who has reached the age of 22, and has been recognized by the individual screening in the Graduate School of Engineering, Kyoto University as having academic abilities equivalent or superior to those of university/PVU graduates. * iii

Note: Please note that if you have multiple citizenships and have Japanese citizenship, you cannot obtain the residence status of "College Student". Applicable persons must contact the Graduate Student Section(refer to VIII) before applying to our program.

ii . Eligibility Confirmation (under requirements (3)(4)(5)(6)) (Except Research students of Graduate School of Engineering, Kyoto University)

A person who has graduated or is expected to graduate from a foreign university, or a person who has received or is expected to receive a bachelor's degree from a foreign university, are required to contact the Admissions Assistance Office (AAO) for a preliminary screening. For details, refer to the following website.

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/international/students1/study1/graduate/graduateinfo/ku-aao>

After contacting the AAO, submit the Resume form prescribed in III-ii-⑤ to the Graduate Student Section (refer to VIII)

by 5:00 pm, 3 December 2024 by e-mail. The subject of the Email is to be "Eligibility Confirmation".

ii i. Eligibility Screening (under requirements (9)(10))

Those who intend to apply under requirement (9) or (10) above are subject to screening prior to Application. The documents below must be submitted to the Graduate Student Section (refer to VIII). When mailing, use registered mail and mark "For eligibility screening for application to Master's Program in Graduate School of Engineering" in red on the envelope. The documents must arrive by 5:00 pm, 10 December 2024.

[Documents necessary for eligibility screening]

(1) Eligibility statement	(Applicants under requirement (9) or (10)) Download the designated form from our website of Graduate School of Engineering.
(2) Recommendations	(Applicants under (9)) To be prepared and sent in a sealed envelope by the university at which the applicant has been enrolled (any format is acceptable).
(3) Academic transcript	(Applicants under (9)) To be prepared and sent in a sealed envelope by the university at which the applicant has been enrolled. (Applicant under (10)) To be prepared and sent in a sealed envelope by the last university at which the applicant is or was enrolled.
(4) Curriculum	(Applicants under (9)) The curriculum including class descriptions is to be provided by the university department at which the applicant has been enrolled.

1. Applicants under (9) above are screened by the submitted documents.
2. Applicants applied under (10) above are screened by both the submitted documents and either a written or oral examinations (or both) for evaluating their academic abilities.
3. The written and/or oral examinations will be conducted on 6 January 2025 at the Graduate School of Engineering, Kyoto University.
4. The screening results will be mailed on 7 January 2025.

III. Application

i. Application Procedures

The application procedure will be completed when you register your information and make payment for entrance exam fee on the Kyoto University Online Application (①) and submit the application documents in paper by mail or bringing (②) within the designated periods prescribed below.

Access the Kyoto University Online Application at the following URL and choose the “International Applicants to the 2025 Master’s Program 【April 2025 Admission】 (Including October 2025 Admission)” in the list of “Application schedule (Registration of application details)”.

<https://www.webshutsugan.com/kyoto-u-daigakuin-en/top/>

- (1) You should paste the label that you can print from the registration completion screen of the Kyoto University Online Application on the square shape envelope (Size 240 mm × 332 mm), and enclose all the completed application documents (III-ii) by registered express mail or direct submission. Overseas applicants must send the documents by registered express mail (e.g. EMS, UPS, DHL or FedEx).
- (2) Incomplete documents or those mailed or submitted after the designated period will not be accepted.
- (3) No changes are allowed in applications once they have been received.
- (4) The entrance exam fee will be returned to the applicant under the following circumstances only.
 1. The fee was paid but the applicant did not apply for the Graduate School of Engineering, Kyoto University. (No application was made for the Graduate School of Engineering, or an application was not accepted by the Graduate School of Engineering).
 2. The applicant inadvertently made a double payment of the fee.※If you wish to request a refund of entrance exam fee, please send us the following information by email (for contact information, refer to VIII) : ①Name of Applicant, ②Postal Code, ③Address, ④Phone Number, ⑤Payment Method of Entrance Exam Fee, ⑥Bank or Convenience Store You Used for Payment and Its Branch Name.
- (5) In some divisions/departments, additional documents are required. Read “Details of Entrance Examinations of Each Division/Department” carefully so that you can prepare complete application documents.
- (6) Simultaneous applications to multiple divisions and/or departments are not allowed.
- (7) Persons with disabilities who need reasonable accommodation are invited to consult with the Graduate School of Engineering when taking the entrance examination and attending courses. Those persons are advised to contact the Graduate Student Section (refer to VIII) well in advance since it may require some time for the university to prepare for appropriate correspondence.
- (8) Those who apply to Division of Civil and Earth Resources Engineering / Urban Management or Division of Environmental Engineering and wish to take Interdisciplinary Engineering Course: “Human Security Engineering” can choose their Admission Time from April 2025 or October 2025. Such applicants must choose April Admission or October Admission on the Kyoto University Online Application.

① Registration and Payment Period on the Kyoto University Online Application :
24 December, 2024, Tuesday to 14 January, 2025, Tuesday 5:00 pm

② Application Documents Submission Period:
24 December, 2024, Tuesday to 15 January, 2025, Wednesday 5:00 pm (must arrive)

Applicants must register and make payment on the Kyoto University Online Application within the aforementioned period① and all the documents must arrive at Graduate School of Engineering within the aforementioned period②. The application documents postmarked by Japan Post on or before 13 January, 2025 and sent by registered express mail will also be accepted even if they arrive after the deadline.

- The submission methods: please send the documents by registered express, which you need deposit at a Japan Post office. Applicants can also submit the documents to the designated box installed on the 1st Floor of Cluster B Administration Complex, Katsura Campus. We do not accept face-to-face application.
- Please submit the documents well in advance, since we might require applicants to deal with some problems regarding the procedure after submission.
- Shipping address: Graduate Student Section, Educational Affairs Division, Graduate School of Engineering, Kyoto University Katsura, Nishikyo-Ku, Kyoto 615-8530, JAPAN
- Acceptance hours by the designated box*: 9 : 00am - 5 : 00pm on weekdays in the aforementioned period② (except for winter holidays: from 28 December, 2024 to 5 January, 2025)
- Be sure to enclose all the documents in an envelope with the address label that can be downloaded from the Kyoto University Online Application, seal it and put in the designated box.

ii. Application Documents

*In some divisions/departments, documents and procedures other than prescribed below may be required. For further information, refer to “Details of Entrance Examinations of Each Division/Department”.

【A. All applicants are required to submit the following documents ① to ⑥】

① Application form / Photograph card *You can't print out this form unless completing registration on website.	Please submit the designated form that you can print from the registration completion screen of the Kyoto University Online Application. Affix a photograph taken within 3 months (Single, Upper body front facing without hat) size (4 cm×3 cm). <u>※ You will need to affix the same photograph on an examination voucher which we will send you later, so prepare a total of 2 photographs in advance.</u>
② Return envelope for receiving an examination voucher *We will not ship overseas. Read *note below.	Please affix a ¥410 postage stamp (for sending in express mail) and write the name of the division you apply and the mailing address <u>in Japan</u> on a label for sending examination voucher, which can be downloaded from our website of Graduate School of Engineering, and paste it to a long type envelope (Size 120 mm×235 mm). <u>※ Please print the label in color. In the case of black and white print, draw a Red line under the letter of “速達” on the top.</u>
③ Return envelope for receiving a result of entrance examination *We will not ship overseas. Read *note below.	Please affix an ¥110 postage stamp, and write the name of the division you apply and the mailing address <u>in Japan</u> to a label for sending the result of entrance examination, which can be downloaded from our website of Graduate School of Engineering, and paste the label to a long type envelope (Size 120 mm×235 mm).
④ Photocopy of both sides of Residence card	Applicants who do not have a residence card at the time of application need to submit a photocopy of his/her passport page with face photograph, then submit a photocopy of both sides of Residence card by the enrollment date.
⑤ Resume	Download the designated form from our website of Graduate School of Engineering. Those who have multiple citizenships must list all the nationalities. Print it on A4 size. Fill out all items without blank.
⑥ Entrance exam fee ※ For households in regions where the Disaster Relief Act is effective and whose principal wage-earner has been adversely affected by the disasters listed in the website below, an exemption/refund may be made to the payment of Entrance Examination Fees for cases where a <i>risai shomeisho</i> (Disaster Victim Certificate) has been issued. For the list of the disasters and requirements of an exemption, refer to http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/admissions/fees_exemption For further details, contact the administrative office at the Graduate School of Engineering.	Entrance exam fee: ¥30,000 Select one payment method among four listed below when you apply to the Kyoto University Online Application. • Convenience Store • Credit Card • Bank ATM [Pay-easy] • Internet Banking ※ Applicants are required to pay a processing fee (650 yen) as well as entrance exam fee. ※ Entrance exam fee will not be refunded once your application is accepted, except for the cases given in left . <u>※ We will refund the entrance exam fee to the international students who receive Japanese Government (Monbukagakusho) MEXT Scholarship after enrollment. We do not refund a processing fee. Bank transfer fee will be borne by the applicants when refunding. Those who enroll as MEXT scholarship student in other than Faculty/Graduate School of Engineering, Kyoto University must submit a MEXT Scholarship Student certificate. Those who are applying to MEXT scholarship must submit a Passing Certificate of the First Screening, etc.. We do not refund the entrance exam fee in case current MEXT scholarship students cannot extend their status as MEXT scholarship student after the enrollment.</u>

*Note: We do not ship overseas, therefore, applicants who reside overseas must arrange how to prepare Japanese standard envelopes and postage stamps and how to receive the return envelopes from us, for example, asking your prospective hosting laboratory or acquaintance in Japan to prepare such materials and to receive them on behalf of you.

【B. Applicants who have graduated or are expected to graduate from a foreign university should submit the following documents ⑦to⑨, in addition to those specified above A】 (Except Research Students of Graduate School of Engineering, Kyoto University)

⑦ Academic transcript	Submit the original of the document. If you are no longer enrolled in the university at the time of application, submit the academic transcripts issued on or after the date of your graduation.
⑧ Certificate of (Expected) Graduation and Certificate of Bachelor's Degree Conferment	Submit the original of the document. If the Certificate of (Expected) Graduation shows that bachelor's degree has been conferred, they don't need to submit a Certificate of Bachelor's Degree Conferment.
⑨ Letter of recommendation	Submit a letter of recommendation from the supervisor of your current/former degree program. There is no official form for letters but it should be written on the official letterhead of the recommender's institution and include the following: (1) General remarks and overall impressions of the applicant (academic ability, aptitude for research or professional skills, character, quality of previous work, etc.) (2) Name of the applicant (3) Recommender's relationship with the applicant (4) Recommender's institution, position, and contact information including email address (5) Recommender's signature (in his/her own handwriting) (6) Date of issue Note: The recommender might be contacted to inquire about the contents of the recommendation letter.

※ If the certificate is not written in English or Japanese, its English or Japanese translation must be attached. (A translation by the applicant is acceptable.)

※ Reminder: A person who has graduated or is expected to graduate from a foreign university, or a person who has received or is expected to receive a bachelor's degree from a foreign university needs to go through an aforementioned Eligibility Confirmation process (refer to II- ii).

【C. Applicants who have graduated or are expected to graduate from a Japanese university (excluding Faculty of Engineering of Kyoto University) should submit the following documents ⑦,⑧, in addition to those specified above A】

⑦ Academic transcript	Submit the original of the document. If you are no longer enrolled in the university at the time of application, submit the academic transcripts issued on or after the date of your graduation.
⑧ Certificate of (Expected) Graduation	Submit the original of the document.

【D. Applicants who meet the eligibility II-i-(2) should submit the following documents ⑦,⑧,⑩, in addition to those specified above A】

⑦ Academic transcript	Submit the original of the document. If you are no longer enrolled in the college of technology at the time of application, submit the academic transcripts issued on or after the date of your graduation. For the graduate/ the expected graduate from a college of technology, both of the documents for regular course and advanced course are required.
⑧ Certificate of (Expected) Graduation	Submit the original of the document.
⑩ Certificate of Bachelor's Degree Conferment	Submit a "Certificate of Expected Bachelor's Degree Conferment" signed or stamped by the head of the academic institution if you intend to apply for a bachelor's degree with the National Institution for Academic Degrees.

IV. Selection Methods

Applicants shall be selected on the basis of the submitted documents and their results of the academic examination.

i. Academic Examination

(1) Dates 12-13 February, 2025

*For further information, refer to “Details of Entrance Examinations of Each Division/Department”. Applicants wishing to apply for Interdisciplinary Engineering Course Program, Postgraduate Integrated Course Program of Human Security Engineering will be separately notified of their examination dates.

(2) Unless otherwise indicated, applicants must arrive at the designated room for the entrance examination by 20 minutes before the posted time.

ii. Examination Voucher

The examination voucher will be mailed to the applicant in early-February to the addresses written on the return envelope for receiving examination voucher.

V. Announcement of Entrance Examination Results

Date and Time: 15:00, 21 February, 2025

The list of successful applicants' examination numbers will be posted on the website of the Graduate School of Engineering, Kyoto University and mailed to the applicants. To successful applicants, only the letter of acceptance will be mailed. Inquiries by telephone is not available.

VI. Admission Fee, Tuition and Admission Procedure

Admission fee: ¥282,000

*International students expected to receive MEXT Scholarship are exempt from this fee.

Tuition: ¥267,900 for each semester (annually ¥535,800)

*International students receiving MEXT Scholarship are exempt from this fee.

Notes: The amounts quoted above are tentative and may be revised. If the amounts are amended at the time of admission or while the individual is registered as a student, the new amounts shall apply from the time of the amendment.

Admission Procedure:

① For April 2025 Admission

(1) Enrolment Date: April 1, 2025

(2) Instructions on admission procedure will be mailed to each successful applicant in early-March 2025.

(3) Notify the cluster office for each division/department immediately if the successful applicant declines admission.

(4) Successful applicants must obtain their student visas by 1 April, 2025.

(5) The deadline for admission procedure is scheduled in mid-March 2025.

(6) Information regarding dates for enrollment procedure will be uploaded on the website of the Graduate School of Engineering, Kyoto University in late-January 2025.

② For October 2025 Admission

(1) Enrolment Date: October 1, 2025

(2) Instructions on admission procedure will be mailed to each successful applicant in early-September 2025.

(3) Notify the cluster office for each division/department immediately if the successful applicant declines admission.

(4) Successful applicants must obtain their student visas by 1 October, 2025.

(5) The deadline for admission procedure is scheduled in mid-September 2025.

VII. Notes

(1) Handling of Personal Information

Personal information will be handled in accordance with “Act on the Protection of Personal Information” and “The personal information policy at Kyoto University”.

Name, gender, date of birth, address and other personal information provided through application is used for ① entrance examinations (application procedures and screening), ② announcement of successful applicants, ③ admission procedures.

In addition, personal information (including information relating to performance evaluation) of enrolled students provided through application is used for ① students affairs (management of students' ID, academic supervision, improvement of educational curriculum, etc.), ② offering support to students (securing student health care, career support, application for tuition exemption and scholarship, etc.), ③ collecting tuition fees.

Personal information provided through application may be provided to outside contractors for electronic data processing. In such cases, Kyoto University will conclude a contract with said outside contractor to ensure that personal information is managed and protected appropriately, in accordance with the Private Information Protection Law.

(2) Security Export Control

In Kyoto University, Security Export Control for the purpose of maintaining the peace and security of Japan and the international community is conducted in accordance with “Foreign Exchange and Foreign Trade Act”. International applicants who fall under any of the conditions set out in said regulations may be unable to enter their desired course or program.

(3) Long-Term Study Program

The Graduate School of Engineering provides the long-term study program that allow students to extend their study period up to twice of the standard study period for completion under certain circumstances/conditions such as work, childbirth, childcare, nursing to other family in special need and disabilities. If you wish to apply please confirm the details in the page of admissions of our website, and apply by the end of December.

VIII. Contact Information for Inquiries Regarding Common Part for All Divisions/Departments

Graduate Student Section, Educational Affairs Division,

Graduate School of Engineering, Kyoto University

Address: Kyoto daigaku-Katsura, Nishikyo-Ku, Kyoto 615-8530, JAPAN

Phone: +81-75-383-2040 or +81-75-383-2041

E-Mail: 090kdaigakuin-nyushi@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

Information on the entrance exam is uploaded on the website of the Graduate School of Engineering and each department as needed. For those examinees who will have difficulty in taking the entrance exam due to the inclement weather or emergencies, we will notice on the implementation of examination for Graduate School of Engineering, which will be posted on the following website.

- The website of the Graduate School of Engineering: <http://www.t.kyoto-u.ac.jp/en/>
- The website of each department: Please access from above URL.

IX. Admission Policy

(1) Philosophy and Objectives

The pursuit of the truth is the essence of learning. Engineering is an academic field that impacts the lives of people, and is greatly responsible for the sustainability of social development and the formation of culture. The Graduate School of Engineering at Kyoto University, based on the above premise, is committed to the development of science and technology with an emphasis on disciplinary fundamentals and basic principles while harmonizing with the natural environment. At the same time, we aim to assist students in their pursuit of a rich education with specialized knowledge, as well as the ability for its creative application, while nurturing high ethical standards and sense of responsibility.

(2) Student Profile

The Graduate School of Engineering welcomes the following students:

- Individuals who agree the philosophy and objectives of the Graduate School of Engineering and those who achieve these things actively.
- Individuals who have the basic education to pursue the truth and also have the judgment with logical

thinking and beyond established concepts in specialized fields and related fields.

- Individuals who have a strong desire and initiative to pioneer new fields of science technology while integrating knowledge and keeping on solving, regarding the science technology and the social issues.
- Individuals with basic communication ability who understand other opinions and also express own opinions and assertions in an easy to understand.

Entrance examination will be performed individual academic exam, evaluate and select the applicants including English ability, with emphasis on the basic knowledge of specialized field and those who have logical thinking abilities.

For detail of evaluation methods, it is mentioned in the guidelines.

X. Educational Programs in Master's Program

As of April 2008, the Graduate School of Engineering instituted a new Integrated Master's-Doctoral Course Program for students who look beyond the master's to doctoral degree. Applicants to the Master's Program who have passed the entrance examination and also passed a qualifying evaluation may choose one of the programs.

For further details, please refer to the following website:

<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/en/education/graduate/dosj69>

XI. Program for Leading Graduate Schools

This program was started in 2012 in order to develop talented students into future leaders globally active across wide range of sectors in industry, academia and government, with a broad perspective and creativity.

For further details, please refer to the following website:

<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/en/education/programs/hakase>

XII. Doctoral Program for World-leading Innovative & Smart Education

Kyoto University's new Doctoral program for World-leading Innovative & Smart Education was launched in 2019 in order to create new 5-year doctoral programs that bring together world-class educational and research capabilities while incorporating with other universities, research institutes, and private companies in Japan and/or abroad through systematic collaboration.

For further details, please refer to the following website:

<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/en/education/programs/takuetsu>

XIII. Top Global Course

The Japan Gateway: Kyoto University Top Global Program was launched in 2014 as a "Top Type" model university in Japan to foster global talent that will take active roles around the world with strategic vision, creativity, ability to develop ideas, and continuity.

Currently six chemistry-related departments from the Graduate School of Engineering participate in this program and have established "Top Global Course" in 2015. The members are selected from the students who pass the entrance examination of one of six chemistry-related departments and plan to study at the doctoral course. The selected students will belong to the Postgraduate Integrated Course Program of Materials Engineering and Chemistry in the Interdisciplinary Engineering Course.

For further details, please refer to the following website:

<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/en/education/programs/sgu>

XIV. Master's Double Degree Program

Kyoto University offers a double degree program in which both partner universities award degrees to each other.

In April 2022, the Graduate School of Engineering launched a master's double degree program with the Shenzhen International Graduate School of Tsinghua University in China. This double degree program allows students to study for a total of three years at both Kyoto University (Japan) and Tsinghua University (China), and to obtain two master's degrees upon completion. The program is open to master's degree students in the Department of Environmental Engineering who have passed this entrance examination and who wish to participate in the program within one month of their enrollment. However, students of Chinese nationality are not eligible.

For details of the program, please refer to the HP of Kyoto University On-Site Laboratory, Cooperative Research and Education Center for Environmental Technology.

<https://crecet.env.kyoto-u.ac.jp/ddp/?lang=en>

XV. Table: Educational Program and Division/Department

Educational Program		Division/Department
Integrated Master's-Doctoral Course Program	Interdisciplinary Engineering Course	Advanced Engineering Education Center
		a Postgraduate Integrated Course Program of Applied Mechanics
		b Postgraduate Integrated Course Program of Materials Engineering and Chemistry
		c Postgraduate Integrated Course Program of Engineering for Life Science and Medicine
		d Postgraduate Integrated Course Program of Interdisciplinary Photonics and Electronics Science
		e Postgraduate Integrated Course Program of Human Security Engineering
		f Postgraduate Integrated Course Program of Design Science
		g Postgraduate Integrated Course Program of Integrated Medical Engineering
	Advanced Engineering Course	Department of Civil and Earth Resources Engineering
		Department of Urban Management
		Department of Environmental Engineering
		Department of Architecture and Architectural Engineering
		Department of Mechanical Engineering and Science
		Department of Micro Engineering
		Department of Aeronautics and Astronautics
		Department of Nuclear Engineering
		Department of Materials Science and Engineering
		Department of Electrical Engineering
		Department of Electronic Science and Engineering
		Department of Material Chemistry
		Department of Energy and Hydrocarbon Chemistry
		Department of Molecular Engineering
		Department of Polymer Chemistry
		Department of Synthetic Chemistry and Biological Chemistry
		Department of Chemical Engineering
	Master's Course Program	Department of Civil and Earth Resources Engineering
		Department of Urban Management
		Department of Environmental Engineering
		Department of Architecture and Architectural Engineering
		Department of Mechanical Engineering and Science
		Department of Micro Engineering
		Department of Aeronautics and Astronautics
		Department of Nuclear Engineering
		Department of Materials Science and Engineering
		Department of Electrical Engineering
		Department of Electronic Science and Engineering
		Department of Material Chemistry
		Department of Energy and Hydrocarbon Chemistry
		Department of Molecular Engineering
		Department of Polymer Chemistry
		Department of Synthetic Chemistry and Biological Chemistry
		Department of Chemical Engineering

※ Each research laboratory at each department does not necessarily provide all educational programs listed on the table above. For detailed information, please refer to “Details of Entrance Examinations of Each Division/Department” to check whether your preferred educational program is available at each laboratory.

XVI. List of Examination Schedule (Master's Program)

For further information, refer to “Details of Entrance Examinations of Each Division/Department”.

Division		February 12 (Wed)		February 13 (Thu)	
		Time	Subject	Time	Subject
Division of Civil and Earth Resources Engineering/Urban Management Department of Civil and Earth Resources Engineering Department of Urban Management		9:00~	Oral Exam I Oral Exam II	9:00~	Oral Exam I Oral Exam II
Department of Environmental Engineering		10:30~12:00 13:00~	Written Exam Oral Exam	9:00~17:00	Oral Exam
Department of Architecture and Architectural Engineering		14:00~16:30	Specialized Subjects (Written Exam)	—	
Division of Mechanical Engineering Department of Mechanical Engineering and Science Department of Micro Engineering Department of Aeronautics and Astronautics		10:00~12:00 14:30~	Specialized Subjects Oral Exam	—	
Department of Nuclear Engineering		10:00~12:00 13:00~14:00 14:30~	Specialist Subjects Fundamental Engineering Oral Exam	—	
Department of Materials Science and Engineering		10:00~11:30	Specialized Subjects	10:00~	Oral Exam
Division of Electrical and Electronic Engineering Department of Electrical Engineering Department of Electronic Science and Engineering	Master's Course Program	—		10:00~12:00 10:00~12:00	Oral Exam (Mathematics) Oral Exam (Electromagnetism)
Department of Material Chemistry		10:00~11:00 12:30~15:30 16:00~18:00	English Specialized subject I Specialized subject II	9:00~	Oral Exam
Department of Energy and Hydrocarbon Chemistry		10:30~11:30 13:00~16:00	English Physical Chemistry, Inorganic Chemistry	9:00~12:00 13:00~	Organic Chemistry, Analytical Chemistry Oral Exam
Department of Molecular Engineering		10:30~11:30 13:00~16:00	English Specialized subject I	9:00~12:00 13:00~	Specialized subject II Oral Exam
Department of Polymer Chemistry		10:00~12:00 13:00~16:00	English Subject Test I	9:00~12:00 13:00~	Subject Test II Subject Test III Oral Exam
Department of Synthetic Chemistry and Biological Chemistry		10:30~11:30 13:00~16:00	English Specialized Subject I	10:30~12:00 13:00~	Specialized Subject II Oral Exam
Department of Chemical Engineering		9:00~11:30 12:30~15:00 15:30~17:30	Chemical Engineering I Chemical Engineering II Foreign Language (English, Japanese)	9:00~	Interview

Part B: 入試区分別入学試験詳細

Details of Entrance Examinations of Each Division/Department

➤ 社会基盤・都市社会系（社会基盤工学専攻・都市社会工学専攻） Division of Civil and Earth Resources Engineering/Urban Management (Department of Civil and Earth Resources Engineering, Department of Urban Management)	25
➤ 都市環境工学専攻 Department of Environmental Engineering	33
➤ 建築学専攻 Department of Architecture and Architectural Engineering	38
➤ 機械工学群（機械理工学専攻・マイクロエンジニアリング専攻・航空宇宙工学専攻） Division of Mechanical Engineering (Department of Mechanical Engineering and Science, Department of Micro Engineering, Department of Aeronautics and Astronautics)	42
➤ 原子核工学専攻 Department of Nuclear Engineering	54
➤ 材料工学専攻 Department of Materials Science and Engineering	58
➤ 電気系（電気工学専攻・電子工学専攻） Division of Electrical and Electronic Engineering (Department of Electrical Engineering, Department of Electronic Science and Engineering)	62
➤ 材料化学専攻 Department of Material Chemistry	66
➤ 物質エネルギー化学専攻 Department of Energy and Hydrocarbon Chemistry	70
➤ 分子工学専攻 Department of Molecular Engineering	75
➤ 高分子化学専攻 Department of Polymer Chemistry	79
➤ 合成・生物化学専攻 Department of Synthetic Chemistry and Biological Chemistry	83
➤ 化学工学専攻 Department of Chemical Engineering	88

※入試区分によっては、出願書類以外にこの「入試区分別入学試験詳細」により提出書類を指示している場合がありますので、注意してください。なお、「入試区分別入学試験詳細」で指示された提出書類については、出願書類とは別に、志望する入試区分の事務室（クラスター事務区教務掛）に直接提出してください。

※Depending on Divisions/Departments, applicants are requested to submit other documents besides application documents above. For details, please refer to page onward. Please be care noted that other documents required by each division need to be submitted to the cluster office in each division/department.

社会基盤・都市社会系（社会基盤工学専攻・都市社会工学専攻）

社会基盤工学専攻と都市社会工学専攻は合同で入学試験を実施し、受験生は両専攻の中から志望研究室や志望教員を選択できる。

I. 専攻別志望区分

以下に示す研究内容を参照し、予め志望区分の教員と十分に連絡をとり、研究計画等について相談した上で、インターネット出願システムの志望情報入力画面で第1志望の志望区分を選択すること。

(1) 社会基盤工学専攻

志望 区分	研 究 内 容 (担当教員) (2024 年 10 月 現在)	対応する教育プログラム		
		連携プログラム (融合工学コース)	連携プログラム (高度工学コース)	修士プログラム
1	応用力学：粒子法による流体解析、流体構造連成解析、乱流モデリング、海底トンネルの安定性評価、剛塑性有限要素法の開発と応用（西藤潤准教授・Khayyer, Abbas 准教授）	人間安全保障工学 分野	志望区分 44 以 外の任意の志望 区分を選択する ことができます。	任意の志望区分 を選択すること ができます。
2	構造材料学：コンクリートを含む土木材料の諸性質、コンクリート構造を含む土木構造物の耐久性能・維持管理、設計法・シナリオデザイン（山本貴士教授）			
3	構造力学：鋼・複合構造物の力学性状と合理的設計法、構造物の残存性能の非破壊評価、鋼構造物の維持管理と耐久性向上（北根安雄教授）			
4	橋梁工学：構造物の空気力学、空力不安定現象、流体関連振動、耐風安定化対策、耐風設計法、飛来塩分の輸送・付着機構、風災害の防止と安全性評価（八木知己教授・松宮央登准教授）	応用力学分野、 人間安全保障工学 分野		
5	構造ダイナミクス：構造物の動的応答と制御（免震・制振）、耐震設計法、構造デザイン、構造物の更新技術（高橋良和教授）			
6	水理環境ダイナミクス：移動床水理学、混相流の力学、群集挙動の力学、開水路流れの水理学、河床・河道変動の力学、破堤の水理（原田英治教授・音田慎一郎准教授）			
7	水文・水資源学：水循環、水文予測、リアルタイム水文予測、水工計画、水資源管理（立川康人教授）	人間安全保障工学 分野		
8	地盤力学：地盤や岩盤の静的・動的挙動の解明、計算地盤力学、土と流体の相互作用、土と建設機械の相互作用、岩盤斜面の安定性評価、歴史的な地盤構造物の保全（肥後陽介教授・橋本涼太准教授）			
9	社会基盤創造工学：車両-橋梁連成系の構造動力学、橋梁構造物の環境振動、橋梁ヘルスマニタリング、移動橋梁点検、スマートセンシングシステム、走行荷重作用下の高架橋の耐震性能評価（金哲佑教授）			
10	空間情報学：リモートセンシング、地理情報システム、デジタル写真測量、都市空間の 3 次元データの生成と時空間解析（須崎純一教授）			
11	景観設計学：景観デザイン、都市デザイン、土木施設アーキテクチャ、風土・景観環境、地域計画、都市形成史（川崎雅史教授・山口敬太准教授）			
12	沿岸都市設計学：沿岸都市の水理構造物設計、粒子法、数値波動力学、数値流体力学、数値流砂水理学、混相流の計算力学、都市群集行動のマイクロモデル（後藤仁志教授・五十里洋行准教授）			

志望 区分	研 究 内 容 (担当教員) (2024 年 10 月現在)	対応する教育プログラム		
		連携プログラム (融合工学コース)	連携プログラム (高度工学コース)	修士プログラム
13	応用地球物理学：地球物理学的手法による浅部から深部にいたる地下構造調査や社会的に影響のある地学現象のモデル化、地下情報可視化技術（福山英一教授・武川順一准教授）	人間安全保障工学 分野	志望区分 44 以外の任意の志望区分を選択することができます。	任意の志望区分を選択することができます。
14	地殻開発工学：二酸化炭素地中貯留、放射性廃棄物処分、エネルギー資源開発等の岩盤工学プロジェクトへの貢献を目的とした岩石の力学・水理特性の研究（奈良禎太准教授）			
15	計測評価工学：資源開発に関わる岩盤構造物や地下環境の保全のための計測評価技術、石油・天然ガスおよび鉱物資源の環境調和型開発技術、CCS や CCUS などのカーボンニュートラルに貢献する技術（村田澄彦教授）			
16	砂防工学：流砂系の総合的土砂管理、山地流域における土砂動態の予測・モニタリング、土砂災害の機構と防止対策、水・土砂・河川生態系構造の解明（中谷加奈教授・山野井一輝准教授）			
17	防災水工学：洪水流と河床変動の 3 次元構造、土砂生産と洪水への影響予測、土砂移動現象の観測と実験、河川堤防決壊のメカニズム、都市の内外水氾濫の水理、河川環境保全（川池健司教授・竹林洋史准教授）			
18	地盤防災工学：大地震時の地盤・構造物系の被災程度予測、降雨や地震による地盤の複合災害予測、複合材料を含む地盤の力学的挙動解明（渦岡良介教授・上田恭平准教授）			
19	水文気象工学：気候変動による降雨場への影響評価、気象レーダーを用いた降雨予測、レーダー水文学、降雨場の衛星リモートセンシング、都市域の水・熱循環とその予測、河川流域の形成過程（中北英一教授・山口弘誠准教授）			
20	海岸防災工学：極端な高潮・高波・津波のモデリング、ハザード・リスク評価および観測、気候変動による沿岸部への影響評価と適応策、巨大津波リスクの長期評価（森信人教授・馬場康之准教授・志村智也准教授）			
21	防災技術政策：リアルタイム洪水予測、地球温暖化・土地利用変化が及ぼす流域水循環への影響評価、降雨流出・洪水氾濫解析、水災害に対する戦略的対策策定（佐山敬洋教授・田中智大准教授・Lahournat, Florence 講師）			
22	水際地盤学：河海の水災害メカニズム、水際域の土砂動態、河川・沿岸環境の保全技術、水理流体力学、先進実験水理学（山上路生教授）			
23	計算工学：自由水面流れの数値計算、流体・構造連成解析、水理分野の大規模高速計算、離散化と数値解法（差分法・有限体積法・有限要素法）、並列計算、数値可視化 ※今年度、本区分は募集無し			
24	国際環境基盤マネジメント：構造ヘルスマニタリング、非破壊検査、水工構造物の設計基準検討、気候変動を考慮した水工構造物の長期対策（金善玟准教授・張凱淳准教授）			

(2) 都市社会工学専攻

志望 区分	研 究 内 容 (担当教員) (2024 年 10 月現在)	対応する教育プログラム		
		連携プログラム (融合工学コース)	連携プログラム (高度工学コース)	修士プログラム
26	構造物マネジメント工学：構造物の劣化メカニズム、状態診断と機能回復、高性能材料・低環境負荷材料の物性値及び部材の耐荷性能と耐久性能（杉浦邦征教授・安琳准教授）	人間安全保障工学分野	志望区分 44 以外の任意の志望区分を選択することができます。	任意の志望区分を選択することができます。
27	地震ライフライン工学：地震工学、防災工学、耐震工学（古川愛子准教授）			
28	河川流域マネジメント工学：流域水動態の理解と予測、河川と流域のマネジメント（市川温教授）			
29	土木施工システム工学：地盤挙動の把握とモデル化－ミクロからマクロまで－、土構造物の設計・施工・維持管理、自然ハザードに対する土構造物の安定性評価、応力センシング技術のイノベーション（岸田潔教授）			
30	ジオフロントシステム工学：岩盤を対象とした熱・水理・力学・化学連成現象のモデル化、バイオグラウト開発、斜面防災モニタリング・センシング、海底地すべり－津波励起メカニズム、海底地盤工学（安原英明教授・岩井裕正准教授）			
31	地球資源システム：深部掘削における原位置応力状態の解明とその計測技術、高温高压条件下における岩石の物理的性質の評価、石油・天然ガスの掘削坑壁安定性、地熱システムの数値モデリング、地表変動を用いた地下のモニタリング（林為人教授・石塚師也講師）			
32	計画マネジメント論：社会資本政策、民営化や公共調達制度などのインフラ産業論、リスク・ガバナンス、プロジェクト・マネジメント、災害レジリエンス政策、ソーシャル・キャピタル（大西正光教授）			
33	都市地域計画：都市計画学、都市政策論、公共交通政策論、都市交通計画（宇野伸宏教授・松中亮治准教授）			
34	都市基盤システム工学：国土計画、都市論、都市再生・保全、都市強靱化、地盤と構造物の動的・静的相互作用、セルローズ系地盤改良材（大庭哲治教授・澤村康生准教授）			
35	交通情報工学：交通・物流システムの最適化、ビッグデータや ITS を利用した交通マネジメント、交通手段のシェアリングと総合化、交通ネットワーク信頼性解析、交通工学における実験的アプローチ（山田忠史教授・Schmöcker, Jan-Dirk 准教授）			
36	交通行動システム：公共心理学研究、社会的ジレンマについての研究、行動的意思決定研究、実践的まちづくり社会科学研究、行動論的交通需要分析（藤井聡教授・川端祐一郎准教授）			
37	地殻環境工学：リモートセンシングや数値地質学による鉱物・水・エネルギー資源の分布形態解析、地殻のガス・流体貯留機能評価の高精度化、浅部から深部に至る地殻環境の評価と時空間モデリングの技術（小池克明教授・柏谷公希准教授）			
38	耐震基礎：地震工学、地震動予測、耐震設計法、地盤-構造物の動的解析、土木構造物の地震応答性状、新耐震構造（後藤浩之教授）			
39	地域水環境システム：複合的環境動態モデル、総合流域管理、気候変動の洪水や渇水への影響評価（田中賢治教授・萬和明准教授）			
40	水文循環工学：水資源システムのマネジメント、地球水動態、水害対応行動のモデリング、水災害の防止と軽減（堀智晴教授）			

志望 区分	研 究 内 容 (担当教員) (2024 年 10 月現在)	対応する教育プログラム		
		連携プログラム (融合工学コース)	連携プログラム (高度工学コース)	修士プログラム
41	災害リスクマネジメント：災害リスクの分析・評価方法、自然と産業の複合災害のマネジメント、化学的事故、インフラストラクチャと地域資産の持続可能なマネジメント (Cruz, Ana Maria 教授・松田曜子准教授)	人間安全保障工学分野	志望区分 44 以外の任意の志望区分を選択することができます。	任意の志望区分を選択することができます。
42	自然・社会環境防災計画学：水資源のリスクマネジメント、流砂系総合土砂管理、生物多様性保全、流域生態系管理 (Kantoush, Sameh Ahmed 教授・小林草平准教授)			
43	都市耐水：都市複合災害、水・構造システムの動的連成応答、極端事象に対する構造物の設計法、動的応答の制御、都市施設の性能経年劣化評価と管理、都市水害、防災水理学、津波防災、地下空間の水防災 (五十嵐晃教授・米山望准教授)			
44	社会基盤親和技術論：地盤汚染と廃棄物の適正処理、環境リスク評価、都市セキュリティのための基盤創成技術、環境地盤工学 (勝見武教授・高井敦史准教授)	*	*	
45	国際都市開発：都市・地域貨物輸送、ヒューマニタリアンロジスティクス、計算破壊力学・数値モデル、岩石の破壊の評価、粒状材料の物理性研究 (Qureshi, Ali Gul 准教授・Zhu, Fan 准教授)	人間安全保障工学分野	志望区分 44 以外の任意の志望区分を選択することができます。	

・*印の志望区分には、連携プログラム（融合工学コース・高度工学コース）の設定はない。

II. 募集人員

2025 年度 4 月期入学および 2025 年度 10 月期入学ともに若干名

※融合工学コース「人間安全保障工学分野」の履修を希望する者は、入学時期を 2025 年度 4 月期あるいは 2025 年度 10 月期のいずれかから選択することができる。出願後は、入学時期の変更はできないので、事前に受入予定教員とよく相談のうえ入学時期を決定すること。該当者はインターネット出願システム上で、4 月期入学と 10 月期入学のいずれかを選択すること。

III. 出願資格

本募集要項の Part A: II から始まる各専攻に共通の要項（以下「募集要項」と略す）を参照。

本学地球工学科を卒業したもの（卒業見込みを含む）に関しては、8 月に実施の試験（一般学力選考）を受験することを強く推奨する。

IV. 学力検査日程

桂キャンパス C クラスタ C1 棟 171 号室 他

月日	時間 試験科目
2 月 12 日（水）または 2 月 13 日（木） のいずれか 1 日	9:00～ 口頭試問 I、口頭試問 II

志願者には、口頭試問に関する場所・日時の詳細を郵送その他の方法で通知する。

○学力検査に関する注意事項

- ・ 試験開始時刻 15 分前までに指定された場所に集合すること。
- ・ 試験室には必ず受験票を携帯し、係員の指示に従うこと。

- ・ 携帯電話等の電子機器類は、なるべく試験室に持ち込まないこと。持ち込む場合には、電源を切り、かばんにしまって所定の場所に置くこと。身につけている場合、不正行為と見なされることがあるので注意すること。
- ・ 時計のアラームは確実に切っておくこと。
- ・ 口頭試問における口頭発表では、コンピュータと接続可能な液晶プロジェクターは用意するが、コンピュータは用意しないので各自が持参すること。ただし、プレゼンテーション目的以外の電子機器の使用は一切認めない。また、発表資料の印刷物を 5 部持参すること。
- ・ 口頭試問のスケジュールを変更する場合、該当者に事前に通知する。

V. 入学試験詳細

(1) 試験科目

- (a) 英語 (200 点/1000 点) : TOEFL、TOEIC または IELTS の成績により評価する。英語を母国語とする受験者は、成績証明書の代わりに「英語を母国語とする旨の宣誓書」(様式-M3)を提出してもよい。「英語を母国語とする旨の宣誓書」が提出された場合、口頭試問Ⅱにおいて英語力の判定を行う。

○英語の学力評価について

- ・ TOEIC、IELTS、TOEFL の成績により英語の学力を評価する (ただし、2023 年 2 月 1 日以降に実施された試験に限る)。下記の指定されたいずれかの提出物を、期日までに提出または郵送(書留便)すること。2025 年 1 月 30 日 (木) 午後 4 時以後は受け付けないので注意されたい。

<TOEIC>

- ・ 公式認定証 (Official Score Certificate) の原本のほかにデジタル公式認定証 (Digital Official Score Certificate) を印刷したものも認める。ただし、いずれの場合も紙媒体として提出すること。TOEIC Listening & Reading 公開テストのみ受け付ける。TOEIC-IP などの団体試験の成績証明書は無効となるので注意されたい。

<IELTS>

- ・ 追加成績証明書 (紙媒体) が期日までに社会基盤・都市社会系 入試担当に届くように、IELTS 公式テストセンターに発行・直送の申請手続きをとること。成績証明 (原本) のコピーは受け付けない。IELTS (Academic Module) のみ受け付ける。Paper-based IELTS と Computer-delivered IELTS のいずれも認めるが、IELTS Online のスコアは認められないので留意すること。

<TOEFL>

- ・ Institutional Score Report が期日までに社会基盤・都市社会系に届くように、TOEFL 実施機関 (米国 Educational Testing Service) に送付依頼の手続きをとること。送付依頼手続きに必要な、社会基盤・都市社会系の Institution Code は「C092」である。また、Institutional Score Report の社会基盤・都市社会系への到着に関する問い合わせには回答しない。
- ・ TOEFL-iBT (internet-Based Test) のみ受け付ける。TOEFL iBT Paper Edition および TOEFL iBT Home Edition のスコアは認められないので留意すること。また、TOEFL-iBT テストの MyBest スコアも認めない。TOEFL-ITP などの団体試験の成績証明書は無効となるので注意されたい。
- ・ 後日書類に不正が認められた場合には合格を取り消すことがある。

(b) 口頭試問Ⅰ (500 点/1000 点)

専門科目の基礎学力 (構造力学、水理学、土質力学、計画理論、資源工学)、または数学について 20 分程度の口頭試問を日本語または英語で行う。口頭試問Ⅰでは、上記の専門科目 5 科目のうちの 1 科目あるいは数学を選択して解答すること。いずれの科目を選択する場合においても、様式-M5 を提出すること。

- ・ 専門科目の受験を希望する場合

出願時に、受験を希望する科目を専門科目 5 科目および数学の中から 1 科目を選択すること（様式－M5）。ただし、試験において、出願時に様式－M5 で選択した受験科目を変更することはできない。

科目名		出題範囲
専門科目	構造力学	力のつりあい、断面力、影響線、応力とひずみ、材料の力学的性質、断面の性質、構造物の安定性および静定・不静定、静定構造、構造物の変形、柱の弾性座屈、不静定構造、弾性方程式法、仕事・エネルギーと仮想仕事、エネルギー原理
	水理学	流体運動の基礎、静水力学、完全流体の力学、水の波、粘性と乱れ、次元解析と相似律、管路の定常流、開水路の定常流
	土質力学	土の分類と物理的性質、土中の水理、圧密、土のせん断強さ、土の締固め、土圧、支持力、地盤内応力、斜面の安定、地盤改良、地盤の液状化、地盤の振動特性
	計画理論	線形計画法、非線形計画法、動的計画法、ゲーム理論、ネットワーク手法、費用便益分析、重回帰モデル、都市・地域計画、交通計画
	資源工学	岩石・岩盤の力学・水理、地質調査法と鉱床学、弾性波・電気・電磁探査の原理・データ解析と解釈
数学		微積分学、線形代数、ベクトル解析、複素関数、フーリエ変換、ラプラス変換、微分方程式、確率・統計

(c) 口頭試問Ⅱ（300 点/1000 点）

卒業研究の内容あるいは現在の主要な研究の内容に関する口頭試問を日本語または英語で行う。パソコン・液晶プロジェクター等を用いた 5 分以内の発表の後、口頭試問を行う（発表とあわせて 10 分程度）。

(2) 有資格者及び合格者決定法

総得点（1000 点満点）が 500 点以上の者を有資格者とし、有資格者の中から合格者を決定する。

(3) 合格者の発表

募集要項「V. 合格者発表」のとおり。

VI. 出願要領

(1) 別途提出書類について

全ての受験生は、工学研究科に提出する出願書類以外に、下記の書類を郵送（書留便）または窓口で提出すること。準備に時間を要する書類もあるので、注意すること。

(a) 書類提出期限

2025 年 1 月 15 日（水）午後 5 時（必着）

(b) 提出先

〒615-8540 京都市西京区京都大学桂
 京都大学大学院工学研究科 C クラスター事務区教務掛
 （社会基盤・都市社会系 入試担当） TEL：075-383-2967

(c) 提出書類（様式は工学研究科ホームページからダウンロードすること）

- 別途提出書類届（様式－M1）
- 日本語あるいは英語で記述した研究経過・計画書 5 部（A4 紙 3 頁以内。様式－M2 に必要事項を記入し表紙とすること。希望指導教員の承認印もしくはサインが必要）

- TOEIC または IELTS 試験の紙媒体の成績証明書。あるいは、英語を母国語とする旨の宣誓書（様式－M3）。何らかの理由で、TOEIC または IELTS 試験の紙媒体の成績証明書を上記期限までに提出できない者は、「入試別途書類（修士・英語）」と朱書した封筒で、2025 年 1 月 30 日（木）午後 4 時必着で、京都大学大学院工学研究科 C クラスター事務区教務掛（社会基盤・都市社会系 入試担当）に提出しなければならない。郵送の場合は書留便とすること。
- 日本滞在中の学費及び生活費の経費負担を証明する書類。但し、国費留学生または外国政府派遣留学生（自国政府派遣留学生）である志願者については提出の必要はない。
- 入学後の教育プログラム履修志望調書（様式－M4）（希望指導教員の承認印もしくはサインが必要）
- 口頭試問 I における受験希望専門科目調書（様式－M5）（希望指導教員の承認印もしくはサインが必要）

(2) 事前コンタクトについて

事前コンタクトにおいては、希望指導教員が志願者の希望する学習・研究内容と、希望指導教員の研究活動との整合性の有無を判断する。

VII. 入学後の教育プログラムの選択

修士課程入学後には 3 種類の教育プログラムが準備されており、入試区分「社会基盤・都市社会系」の入試に合格することにより履修できる教育プログラムは以下の通りである。

- 博士課程前後期連携教育プログラム（融合工学コース）
- 博士課程前後期連携教育プログラム（高度工学コース）
- 修士課程教育プログラム

いずれの教育プログラムを履修するかは、受験者の志望と入試成績に応じて決定する。志望の調査は、出願時に「入学後の教育プログラム履修志望調書」（様式－M4）により志望調査を実施する。

修士課程教育プログラムの中には、英語科目のみで必要単位を修得する「社会基盤工学専攻 環境基盤マネジメント国際コース」「都市社会工学専攻 都市地域開発国際コース」がある。これらのコースを希望する場合は「入学後の教育プログラム履修志望調書（様式－M4）」から該当するコースを選択すること。なお、上記国際コースを第一志望とする場合は、口頭試問では英語のみを用い、研究経過・計画書は英語で記述すること。また、当該入試における上記国際コースの募集の有無について、事前に希望指導教員を通じて確認すること。

なお、10 月期入学を希望する者が入試区分「社会基盤・都市社会系」の入試に合格することにより履修できる教育プログラムは、「博士課程前後期連携教育プログラム（融合工学コース）人間安全保障工学分野」に限られる。

VIII. 教育プログラムの内容について

【融合工学コース】

募集要項「X. 修士課程入学後の教育プログラムについて」を参照すること。

【高度工学コース】【修士課程教育プログラム】

○社会基盤工学専攻

新たな産業と文明を開き、環境と調和して、安心・安全で活力ある持続可能な社会を創造するためには、人類が活動する領域とそこにある社会基盤構築物を対象とした技術革新が欠かせません。社会基盤工学専攻では、最先端技術の開発、安全・安心で環境と調和した潤いのある社会基盤整備の実現、地下資源の持続的な利用に重点を置き、社会基盤整備を支援する科学技術の発展に貢献します。

そのために、地球規模の環境問題とエネルギー問題を深く理解し、国際的かつ多角的な視野から新たな技術を開拓する工学基礎力、さらに実社会の問題を解決する応用力を有する人材を育成します。すなわち、1) 工学基礎に基づく最先端科学技術の高度化、2) 自然災害のメカニズム解明と減災技術の高度化、3) 社会インフラの統合的計画・設計技術とマネジメント技術の高度化、4) 発展的持続性社会における地下資源エネルギーの利用、5) 低炭素社会実現に向けた諸問題解決に対し、高い工学基礎力を有する高度技術者を育成します。

高度工学コースでは、さらに博士後期課程での高度かつ先端的な基盤研究、実社会の諸課題に即応する応用技術研究を通して、深い工学基礎力を有する国際的な研究者・技術者を育成します。

○都市社会工学専攻

高度な生活の質を保証し、持続可能で国際競争力のある都市システムを実現するためには、都市システムの総合的なマネジメントが欠かせません。都市社会工学専攻では、地球・地域の環境保全を制約条件として、マネジメント技術、高度情報技術、社会基盤技術、エネルギー基盤技術などの工学技術を統合しながら、社会科学、人文科学の分野を包含する学際的な視点から、都市システムの総合的マネジメントの方法論と技術体系の構築を目指します。

そのために、社会科学、人文科学の分野を含む総合的かつ高度な素養を身につけた、高い問題解決能力を有する人材を育成します。すなわち、1) 都市情報通信技術の革新による社会基盤の高度化、2) 高度情報社会における災害リスクのマネジメント、3) 都市基盤の効率的で総合的なマネジメント、4) 国際化時代に対応した社会基盤整備、5) 有限エネルギー資源論に立脚した都市マネジメントに対し、高い問題解決能力を有する国際的な高度技術者を育成します。

高度工学コースでは、さらに博士後期課程での実践的かつ学際的な研究を通して、都市システムの総合的マネジメント能力を身につけた、国際的リーダーとなる研究者・技術者を育成します。

【修士課程教育プログラム 国際コース】

社会基盤工学専攻と都市社会工学専攻では、それぞれ「環境基盤マネジメント国際コース」と「都市地域開発国際コース」を開講しています。両コースは、社会基盤のマネジメントと環境問題の解決に貢献する国際的な人材の育成を目的としています。両コースの授業はすべて英語で行われます。

IX. その他

○社会情勢の変化への対応について

社会情勢の変化に関連して、募集要項公表後に入試に関する変更が生じる可能性がある。変更する場合には工学研究科および専攻のウェブサイトに掲載するので、定期的に最新の情報を確認すること。

○問い合わせ先

〒615-8540 京都市西京区京都大学桂
京都大学大学院工学研究科 C クラスター事務区教務掛
(社会基盤・都市社会系 入試担当) TEL : 075-383-2967

参考 URL :

- ・社会基盤工学専攻 : <https://www.ce.t.kyoto-u.ac.jp/>
- ・都市社会工学専攻 : <https://www.um.t.kyoto-u.ac.jp/>

都市環境工学専攻

I. 志望区分

以下に示す研究内容を参照し、予め志望区分の教員と十分に連絡をとり、研究計画等について相談した上で、インターネット出願システムの志望情報入力画面で、第1志望のみを選択すること。

志望区分	研 究 内 容 (担当教員) (2024 年 10 月現在)
1	環境デザイン工学、都市代謝工学、環境装置工学、資源循環科学、有害化学物質制御 (高岡昌輝教授・大下和徹准教授)
2	環境衛生学、環境予防医学、 環境予防工学（環境化学物質・大気汚染物質等の健康リスク評価、評価手法および予防・軽減手法の開発） (松田知成教授・松田俊准教授・山本浩平講師)
3	水環境工学、環境微生物工学、水処理工学、水・資源循環システム、水環境管理 (藤原拓教授・日高平准教授)
4	環境リスク工学、環境リスクマネジメント、土壌・地下水汚染制御、汚染物質環境動態モデル解析、 放射能環境汚染対策、環境中病原微生物モニタリング (島田洋子教授)
5	大気・熱環境工学、地球環境シミュレーション、統合評価モデリング、気候変動緩和策分析、 気候変動影響分析、環境政策評価、環境経済分析 (藤森真一郎教授)
6	都市衛生工学、環境ヘルスリスク制御工学、高度浄水処理工学、飲料水質のリスクマネジメント、 上水道システムのトータルデザイン (伊藤禎彦教授)
7	環境質管理、統合的流域管理、環境微量汚染物質の検出・挙動把握・毒性評価・排出制御、 水環境天然有機物の特性解析、土壌・地下水汚染・浄化 (松田知成教授・浅田安廣准教授)
8	環境質予測、環境汚染物質及び病原微生物のモニタリング・制御・影響評価、水の再利用、 雨天時排水管理、水域生態系保全、汚染源の推定と管理 (西村文武教授)
9	環境保全工学、リサイクルシステムと廃棄物管理、循環型社会システム、教育研究機関の環境安全管理 (平井康宏教授・矢野順也准教授)
10	安全衛生・エネルギー管理工学、労働衛生学、粒子状物質や化学物質の曝露評価、安全工学、安全衛生マネ ジメント (松井康人教授)
11	放射能環境動態、環境中での放射性・安定同位体の分布挙動の研究 (高宮幸一教授)
12	放射性廃棄物管理、原子力技術の安全性研究及び有害物質の環境中での移行挙動の研究 (福谷哲准教授)
13	環境調和型産業論、流域水環境管理論、沿岸生態系保全、有害微量化学物質管理、途上国水環境衛生、 資源回収・循環 (越後信哉教授・田中周平准教授)

【注1】 志望区分1～12は、入学後の教育プログラムとして、博士課程前後期連携教育プログラム（融合工学コース：人間安全保障工学分野）、博士課程前後期連携教育プログラム（高度工学コース）、修士課程教育プログラムのうちから一つを選択できる。志望区分13については、連携教育プログラムの設定はない。

II. 募集人員

2025 年度 4 月期入学および 2025 年度 10 月期入学ともに若干名

※融合工学コース「人間安全保障工学分野」の履修を希望する者は、入学時期を 2025 年度 4 月期あるいは 2025 年度 10 月期のいずれかから選択することができる。出願後は、入学時期の変更はできないので、事前に受入予定教員とよく相談のうえ入学時期を決定すること。該当者はインターネット出願システム上で、4 月期入学と 10 月期入学のいずれかを選択すること。

Ⅲ. 出願資格

京都大学大学院工学研究科 2025 年度修士課程外国人留学生学生募集要項（以下「募集要項」と略す）4 ページを参照。

Ⅳ. 学力検査日程

年月日	時 間 試験科目	試験室
2025 年 2 月 12 日（水）	10：30～ 12：00 筆記試験	桂キャンパス C クラスタ C1 棟 173 号室(1 階)、他
2025 年 2 月 12 日（水）	13：00～ 口頭試問	桂キャンパス C クラスタ C1 棟 173 号室(1 階)、他
2025 年 2 月 13 日（木）	9：00 ～17：00 口頭試問	桂キャンパス C クラスタ C1 棟 173 号室(1 階)、他

※ 博士課程前後期連携教育プログラム（融合工学コース）人間安全保障工学分野志望者の試験日時および試験室については別途通知する。

【学力検査に関する注意事項】

- (1) 試験開始時刻 10 分前までに試験室前に集合すること。なお、口頭試問の場合は、受験者控え室（桂キャンパス C クラスタ C1 棟 107 号室(1 階)）に集合すること。
- (2) 試験室には必ず受験票を携帯し、係員の指示に従うこと。
- (3) 試験に使用する筆記用具は、鉛筆、万年筆、ボールペン、シャープペンシル、鉛筆削り及び消しゴムに限る。
- (4) 携帯電話等の電子機器類は、なるべく試験室に持ち込まないこと。持ち込む場合には、電源を切り、かばんにしまって所定の場所に置くこと。身につけている場合、不正行為と見なされることがあるので注意すること。
- (5) 筆記試験受験に際して、電池式の小型卓上計算機を必要とする場合があるので、プログラム機能を有しないものを持参すること（取扱書の持ち込みは不可）。
- (6) 口頭試問では、コンピュータと接続可能なプロジェクターは用意するが、コンピュータは用意しないので各自が持参すること。
- (7) 各試験科目の試験室、口頭試問の時刻など、詳細は事前に、桂キャンパス C クラスタ C1 棟 191 号室（1 階、大講義室）西側廊下の専攻掲示板に掲示するので注意すること。

Ⅴ. 入学試験詳細

(1) 英語(200 点/1000 点)

TOEFL、TOEIC、IELTS または学部英語の成績により評価する。手続き等、詳細については、下記の【英語の学力評価について】を参照。

【英語の学力評価について】

- TOEFL の都市環境工学専攻が指定する Institution Code : C121 により、2025 年 1 月 31 日（金）までに工学研究科都市環境工学専攻に提出された受験者成績書（「Test Taker Score Report」）、TOEIC の公式認定証(Official Score Certificate)または IELTS の成績証明書（Test Report Form）の成績（ただし、2023 年 1 月 31 日以降に実施された試験に限る）もしくは学部英語の成績により英語能力を評価する。
- 上記の成績証明書を提出した場合は、その成績に基づく評価と学部英語の成績に基づく評価の良方を英語の得点とする。
- TOEFL については、上記の受験者成績書のコピー（ウェブサイトからダウンロードした PDF 形式の

Test Taker Score Report を印刷したものも可)、TOEIC については公式認定証、IELTS については、成績証明書(以下、これらを成績証明書と略す)を提出する場合は、2025 年 1 月 31 日(金)の午後 5 時までに、「京都大学大学院工学研究科 C クラスター事務区教務掛(都市環境工学専攻 入試担当)」に提出または郵送しなければならない。

- ・ TOEFL の場合は TOEFL-iBT(internet-Based Test)(Special Home Edition, Home Edition を含む)、TOEIC の場合は日本または韓国で実施される TOEIC 公開テストの成績証明書のみ受け付ける。TOEFL-ITP や TOEIC-IP などの団体試験の成績証明書は無効なので注意されたい。TOEFL のスコアにおいて MyBestTMスコアは認めない。
- ・ TOEIC と IELTS の成績証明書は原本に限り、コピーは受け付けない。ただし、成績証明書の送付に遅延がある場合、ウェブサイトに表示される成績を印刷したものの提出を TOEIC および IELTS についても認める。また、後日書類に不正が認められた場合には合格を取り消す。
- ・ 英語を母語とする受験生は「英語を母語とする旨の宣誓書」(様式-M3)を本専攻に予め提出することにより上記成績証明書の提出を免除し、口頭試問で英語力を評価する。なお、後日虚偽の申請を行ったことが明らかとなった場合には合格を取り消す。

- ・ TOEFL、TOEIC または IELTS 試験の詳細についての問い合わせ先は、それぞれ下記の通り。

TOEFL: ETS Japan 合同会社

TEL: 0120-981-925、https://www.toefl-ibt.jp/test_takers/inquiry.html

TOEIC: (一財)国際ビジネスコミュニケーション協会・TOEIC 運営委員会

TEL: 06-6258-0224、<https://www.iibc-global.org/toeic.html>

IELTS: (公財)日本英語検定協会 IELTS 東京テストセンター TEL: 03-3266-6852

(公財)日本英語検定協会 IELTS 大阪テストセンター TEL: 06-6455-6286

<https://www.eiken.or.jp/ielts/contact/>

(2) 筆記試験(400 点/1000 点)

都市環境工学に関する基礎及び専門分野から出題する。ただし、あらかじめ、志望する分野の指導教員と相談の上、筆記試験および口頭試問時の希望言語選択票(様式-M1)により、筆記試験および口頭試問時の希望言語を日本語または英語から選択し、提出すること。

(3) 口頭試問(400 点/1000 点)

卒業研究の内容あるいは現在の主要な研究の内容と修士課程での研究計画について、コンピュータとプロジェクターを用いて口頭発表(10 分以内)し、試問(口頭発表とあわせて 30 分程度)を実施する。また、「英語を母語とする旨の宣誓書」(様式-M3)を提出した受験生は英語力も評価の対象とする。

(4) 有資格者及び合格者決定法

総得点(1000 点満点)が 500 点以上の者を有資格者とする。有資格者の中から合格者を決定する。

VI. 試験時の希望言語調査及び別途提出書類

(様式は工学研究科ホームページからダウンロードすること)

(1) 外国人留学生に対する試験時の希望言語調査について

当専攻修士課程を志願する外国人留学生は、志望する分野の指導教員と十分相談の上、筆記試験および口頭試問時の希望言語選択票(様式-M1)により、筆記試験および口頭試問時の希望言語を日本語または英語から選択し、2024 年 12 月 5 日(木)午後 5 時(必着)までに、京都大学大学院工学研究科 C クラスター事務区教務掛(都市環境工学専攻 入試担当)へ提出すること。期日までに提出がなかったものは日本語で筆記試験、口頭試問を行うこととする。

【備考】

・ 書類提出期限: **2024 年 12 月 5 日(木) 午後 5 時(必着)**

・ 提出先: 〒615-8540 京都市西京区京都大学桂
京都大学大学院工学研究科 C クラスター事務区教務掛
都市環境工学専攻 入試担当
TEL: 075-383-2967

(2) 別途提出書類について

出願手続にあたっては、募集要項 7 ページ、Ⅲ(ii)の工学研究科に提出する出願書類等の他に、下記の書類を、京都大学大学院工学研究科 C クラスター事務区教務掛(都市環境工学専攻 入試担当)へ提出または郵送すること。準備に時間を要する書類もあるので、注意すること。

・書類提出期限：**2025 年 1 月 8 日 (水) 午後 5 時 (必着)**

・提出先：〒615-8540 京都市西京区京都大学桂
京都大学大学院工学研究科 C クラスター事務区教務掛
都市環境工学専攻 入試担当
TEL：075-383-2967

- ・提出書類 ① 別途提出書類届(様式-M2)
② TOEFL、TOEIC または IELTS の成績証明書。あるいは、英語を母語とする受験者は、成績証明書の代わりに「英語を母語とする旨の宣誓書」(様式-M3)を提出してもよい。
③ 入学後の教育プログラム履修志望調書(予備志望調査)(様式-M4)
④ 学習・研究計画書：
これまでの研究成果及び進学後の研究計画を A4 判の用紙 5 ページ程度に日本語あるいは英語で記載したもの 6 部

(3) 問い合わせ先

〒615-8540 京都市西京区京都大学桂
京都大学大学院工学研究科 C クラスター事務区教務掛
都市環境工学専攻 入試担当
TEL：075-383-2967

当専攻のより詳しい情報は、<http://www.env.t.kyoto-u.ac.jp/>を参照のこと。

VII. 入学後の教育プログラムの選択

修士課程入学後には 3 種類の教育プログラムが準備されている。いずれのプログラムを履修するかについては、志望と入試成績に応じて決定される。入試区分「都市環境工学専攻」の入試に合格することにより履修できる教育プログラムは下記の通りである。

- 博士課程前後期連携教育プログラム(融合工学コース)
 - ・人間安全保障工学分野
- 博士課程前後期連携教育プログラム(高度工学コース)
 - ・都市環境工学専攻
- 修士課程教育プログラム
 - ・都市環境工学専攻

なお、10 月期入学を希望する者が入試区分「都市環境工学」の入試に合格することにより履修できる教育プログラムは、「博士課程前後期連携教育プログラム(融合工学コース)人間安全保障工学分野」に限られる。

「博士課程前後期連携教育プログラム(融合工学コース・高度工学コース)」を希望する者については、口頭試問時にコース志望に関する試問を実施する。この結果、博士課程前後期連携教育プログラムの履修が不可となった場合は、修士課程教育プログラムを履修することになる。

VIII. 教育プログラムの内容について

【融合工学コース】

内容については、工学研究科 HP(「工学研究科教育プログラム」

<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/education/graduate/dosj69>)を参照すること。

【高度工学コース】

都市環境工学専攻では、「顕在化/潜在化する地域環境問題の解決」、「健康を支援する環境の確保」、「持続可能な地球環境・地域環境の創成」、「新しい環境科学の構築」を理念とし、地球環境問題及び地域固有の環境問題の解決に貢献する幅広い基礎学力、問題設定・解決能力及び高い倫理観を備えたこの分野の次世代のリーダーとなる研究者・技術者を育成します。このコースでは、1 年次から論文研究を中心として、最先端の環境研究手法を習得します。また、環境工学/科学の全領

域をカバーする体系的なカリキュラムにより、工学はもとより、医学・社会学・経済学から倫理学に及ぶ環境問題に関わる様々な学理について教授します。

【修士課程教育プログラム】

都市環境工学専攻では、地球環境問題及び地域固有の環境問題の解決に貢献する技術者・研究者を育成します。より具体的には、「顕在化/潜在化する地域環境問題の解決」、「健康を支援する環境の確保」、「持続可能な地球環境・地域環境の創成」、「新しい環境科学の構築」を理念として、工学技術を基盤に、アジア地域を中心とした国際的研究フィールドを含む、環境問題の現場を重視した教育・研究活動と、医学・社会学・経済学から倫理学に及ぶ学際的なアプローチを通じて、人々の健康と安心を保障しつつ持続可能社会を支える総合的な学問体系を構築し、それに基づいた人材育成を行います。

建築学専攻

I. 志望区分

志望区分	研 究 内 容	担当教員
構 造 系		
I-1	建築構造力学 構造解析学 構造安定論 建築設計力学 大空間構造 建築構造最適化	大崎 純 張 景耀
I-2	鉄筋コンクリート構造学 プレストレスト・コンクリート構造学 構造材料学 複合構造学 耐震設計学 耐火設計	谷 昌典
I-3	鉄骨構造学 合成構造学 高性能材料工学 空間構造計画学 溶接・接合工学	聲高 裕治 稲益 博行
I-4	建築・都市保全再生 地震工学 災害リスクマネジメント 構造デザイン論 伝統木造	杉野 未奈
I-5	構造最適設計・逆問題 耐震補強 建築動力学 耐震構造 耐震設計法 建築地盤工学	荒木 慶一 藤田 皓平
I-6	環境負荷低減 省資源 省エネルギーに貢献できる建築材料の開発 材料の力学性能 劣化機構 耐久性能	*
I-7	地震環境工学 地盤震動論 地震ハザード解析 地震荷重論 地盤-建物系非線形応答解析	松島 信一 長嶋 史明
I-8	耐風構造工学 風環境工学 耐風設計デザイン論 大気環境災害論 工学的意思決定論	西嶋 一欽
I-9	鋼構造耐震学 構造振動制御論 極限解析学 建築防災工学 構造ヘルスマニタリング	池田 芳樹 倉田 真宏
I-10	構造動力学 地震防災工学 地震被害推定と予測	境 有紀
計 画 系		
II-1	建築計画・設計 環境行動・心理 医療福祉建築 建築情報学	三浦 研
II-2	建築史 都市史	富島 義幸 岩本 馨
II-3	国際建築批評学 現代建築史 現代建築論 建築設計	トーマス ダニエル
II-4	建築設計学 建築設計 建築形態論	平田 晃久
II-5	建築生産 建築プロジェクトマネジメント 生産設計 建築経済 建築社会システム 生産管理	金多 隆 西野佐弥香
II-6	生活空間設計学 建築論 建築構法学 近代建築史	田路 貴浩 小見山陽介
II-7	居住空間学 都市・地域計画 環境再生・共生 住居・住環境計画 居住空間の再編・再生	神吉紀世子 柳沢 究
II-8	人間環境設計論 環境デザイン 地域建築学 自然災害と人間居住	小林 広英 落合 知帆
II-9	災害と都市・建築 防災・復興計画論 災害建築・都市のデザイン 危機管理論	牧 紀男
環 境 系		
III-1	温熱環境制御 建築と設備の省エネルギー 文化財保存	小椋 大輔 伊庭千恵美
III-2	人間生活環境学 建築光環境 建築照明・色彩 視覚工学	石田泰一郎
III-3	都市と建築空間の温熱環境 建築火災安全工学 木造の火災安全 火災時の煙制御と避難安全	原田 和典 仁井 大策
III-4	音環境 騒音・振動制御 建築音響 環境心理 音とコミュニケーション	大谷 真
III-5	都市防火 自然災害起因の大規模火災 地震火災 津波火災 都市複合災害リスク評価 広域避難計画 災害レジリエンス解析	西野 智研

*印は、指導教員が未定であることを示す。*印の分野についての研究内容及び指導教員に関する質問がある場合、専攻長に問い合わせること。

Ⅱ. 募集人員

建築学専攻 若干名

Ⅲ. 出願資格

募集要項 4 ページ「Ⅱ－i 出願資格」参照

Ⅳ. 学力検査日程

月 日	曜	時 間	試験科目	概 要
2 月 1 2 日	水	14:00～16:30	専門科目（計画、 構造、環境）	筆答 志望区分に従い、計画、環境、構造の 中から 1 科目を選択

Ⅴ. 入学試験詳細

(1) 配点

科 目	配 点
英語	1 0 0
専門科目	3 0 0
合 計	4 0 0

(2) 英語

TOEFL 試験の成績を 100 点満点に換算する。成績の提出方法その他については、下記の項目を参照のこと。なお、(ii) を提出しなかった場合は、英語の得点は 0 点となる。

- (i) 2023 年 2 月 1 日以降に実施された TOEFL スコアを有効とする。Test Date scores のみを利用し、MyBest™scores は利用しない。TOEFL-iBT(Internet-Based Test) のみ受け付ける。自宅受験 TOEFL iBT Home Edition や団体特別受験 TOEFL-ITP などの成績は無効とする。
- (ii) Institutional Score Report が ETS (Educational Testing Service) から京都大学工学研究科建築学専攻宛に届くようにすること（期限：2 月 7 日（金）17:00）。手続の際には、送付先の Institution Code に **B472** を指定し、以下のいずれかの方法をとること。（Institution Code に B472 が指定されていれば、Department Code は、どの番号が指定されていてもよい。）
 - ・ TOEFL 試験申込時又は試験前日の 22 時までに ETS に申請する方法（無料）
 - ・ TOEFL 試験日以降に ETS に申請する方法（有料）
- (iii) 複数の Institutional Score Report が提出された場合には、それらのうち最高点の成績を英語の点数とする。
- (iv) 受験資格により TOEFL を受験することが困難な場合は、事前に C クラスター事務区教務掛（建築系）まで連絡すること。
- (v) TOEFL の Institutional Score Report が指定送付先に到着するまでの時間を確認して、十分に時間的余裕を持って早めに受験することを推奨する。TOEFL 試験の詳細についての問い合わせ先は、以下の通り。

<https://www.toefl-ibt.jp/index.html>

<https://www.ets.org/toefl>

(vi) Institutional Score Report の到着の有無についての問い合わせには回答しない。

(3) 有資格者及び合格者決定法

- (a) 総得点（400 点満点）が 200 点以上の者を有資格者とする。
- (b) 有資格者の中から得点と志望区分を総合的に判断して合格者を決定する。

(4) 筆答試験の注意事項

- (a) 試験は桂キャンパス C2 棟で行う。詳細は受験票交付時に指示する。
- (b) 試験開始後 30 分以上遅刻した者の入室は認めない。
- (c) 試験室には必ず受験票を携帯し、係員の指示に従うこと。
- (d) 時計（計時機能のみ）の使用は認めるが、アラーム機能は予め切っておくこと。携帯電話等の電子機器類は、なるべく試験室に持ち込まないこと。持ち込む場合には、電源を切り、かばんにしまっておくこと。身につけている場合、不正行為と見なされることがあるので注意すること。

VI. 出願要領

出願に先立ち、必ず「志望区分」担当教員に連絡し、受入れについて確認すること。

「志望区分申告書」（様式は工学研究科ホームページからダウンロードすること）を願書提出時に別途 C クラスター事務区教務掛（建築系）へ提出すること。

VII. 入学後の教育プログラムの選択

入試区分「建築学専攻」の入試に合格することにより履修できる教育プログラムは下記の通りである。いずれのプログラムを履修するかは、合格者の志望と入試成績に応じて審査の後に決定される。詳細については、募集要項 Part A の『XV. 表 修士課程入学後の教育プログラムと入試区分・専攻』を参照すること。また、教育プログラムの内容については、『X 修士課程入学後の教育プログラムについて』を参照すること。

○ 修士課程教育プログラム

・ 建築学専攻

○ 大学院博士課程前後期連携教育プログラム（融合工学コース）

・ デザイン学分野

VIII. その他

訂正や追加指示などが工学研究科または建築学専攻のホームページに掲載される場合があるので、適宜チェックすること。

<工学研究科ホームページ内の入学試験のページ>

<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/admissions/graduate/exam1>

<建築学専攻ホームページ内の入学試験のページ>

<https://www.ar.t.kyoto-u.ac.jp/ja/admission/exam>

問合せ先・連絡先

〒615-8540 京都市西京区京都大学桂

京都大学大学院工学研究科 C クラスター事務区教務掛（建築系）

電話：075-383-2967

E-mail：kenchiku@adm.t.kyoto-u.ac.jp

参照 <http://www.ar.t.kyoto-u.ac.jp/>

機械工学群（機械理工学専攻・マイクロエンジニアリング専攻・航空宇宙工学専攻）

I. 専攻別志望区分

(1) 教育プログラム

修士課程教育プログラム（2年）、および修士課程と博士後期課程を連携した前後期連携教育プログラム（5年）を設けている。前後期連携教育プログラムに関する詳細は本募集要項「Part A: X 修士課程入学後の教育プログラムについて」、および工学研究科 HP（「工学研究科教育プログラム」<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/education/graduate/dosj69>）を参照すること。

教育プログラム	
修士課程	
前後期連携	高度工学コース
	融合工学コース

(2) 専攻別志望区分一覧

専攻	志望区分	研 究 内 容	教育プログラム		
			前後期連携 (融合工学コース)*	前後期連携 (高度工学コース)	修士課程
機 械 理 工 学 専 攻	1	ヒューマンマシンシステム設計、システム工学、人間中心の自動化設計	a, f	任意の志望区分を選択できる	任意の志望区分を選択できる
	2	適応材料力学、先進材料強度学、複合材料工学、マイクロメカニクス	a, b		
	3	ナノ・マイクロ材料力学、微小材料強度学、ナノ構造体・薄膜、マルチフィジックス	a, b		
	4	環境流体力学、空気力学、大気乱流、混合・拡散、圧縮／非圧縮性乱流、衝撃波	a, c		
	5	流体力学、乱流、波動、粒子運動、高速数値計算	a		
	6	熱工学、エネルギー変換、反応を伴う熱・物質・電荷輸送、分子熱流体力学、可視化と計測、数値解析	a		
	7	分光計測学、プラズマ診断、レーザー計測	a, b, c, d, f, g		
	8	材料力学、環境発電/AI/量子機械デバイス材料機能設計、計算物理学、データサイエンス	a, b		
	9	熱力学、伝熱学、熱流体力学、燃焼工学、環境工学	a, d		

専攻	志望区分	研 究 内 容	教育プログラム		
			前後期連携 (融合工学コース)*	前後期連携 (高度工学コース)	修士課程
機械理工学専攻	1 0	ロボット用メカニズム・機構学、乗り物、搭乗型モビリティ、ヒトの動作特性、ロボット操作	a, f	任意の志望区分を選択できる	任意の志望区分を選択できる
	1 1	機械機能要素工学、トライボロジー、表面・界面創成	a, b, f		
	1 2	ロボット工学、制御工学、ソフトロボティクス、生物規範ロボティクス、生体力学	a, c, f, g		
	1 3	材料工学、材料照射効果、格子欠陥、極限材料、陽電子消滅分光	a, b		
	1 4	セラミックス・金属結晶、アモルファス材料、宇宙惑星物質、応力計測、高温高压発生・制御	a, b		
マイクロエンジニアリング専攻	1 5	最適システム設計、生産システム、コンピュータ援用設計・生産・解析	a, f		
	1 6	生体模倣システム、機械学習、ナノ・マイクロ加工、マイクロ流体力学、細胞・分子生物学	a, c, f, g		
	1 7	ナノ・マイクロシステム、材料・加工・実装、センサ、アクチュエータ、ナノ構造物理	a, c, f, g		
	1 8	量子ビーム工学、表面・界面物性	a, b		
	1 9	複雑適応システム、アクティブマター、生物物理学、計算力学	a, b, c		
	2 0	ナノ形態制御、ナノ粒子、ナノワイヤ、光機能デバイス、マイクロ熱流体工学	a, b, d		
	2 1	計測工学、精密加工学、加工の知能化、制御理論応用	a, f		
	2 2	メカノバイオロジー、生体組織・細胞力学、計算力学、分子力学計測	a, c, f, g		
	2 3	バイオエンジニアリング、マイクロ流体工学、1細胞生物学、オミクス、遺伝子制御	a, c, g		
航空宇宙工学専攻	2 4	流体力学、高速空気力学、分子気体力学	a		
	2 5	非平衡流体力学、希薄気体力学	a		
	2 6	電離気体・反応性気体工学、プラズマ理工学、プラズマプロセス工学、宇宙推進工学	a, b		
	2 7	システム制御理論、最適制御、非線形制御、システム同定、統計的学習、航空宇宙システム	a, f		
	2 8	弾性波動、非破壊評価工学、複合材料・構造、動的破壊力学	a		

*前後期連携教育プログラム（融合工学コース）の対応

- a. 応用力学分野
b. 物質機能・変換科学分野 c. 生命・医工融合分野
d. 融合光・電子科学創成分野 e. 人間安全保障工学分野
f. デザイン学分野 g. 総合医療工学分野

※各分野の詳細は、工学研究科 HP（「工学研究科教育プログラム」
<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/education/graduate/dosj69>）参照

Ⅱ. 募集人員

機械工学群（機械理工学専攻・マイクロエンジニアリング専攻・航空宇宙工学専攻） 若干名

Ⅲ. 出願資格

本募集要項「Part A: Ⅱ－i 出願資格」に記載の条件を満たし、指導予定教員と事前に十分面談を重ね、受入推薦書を交付された者。事前コンタクトにおいては、指導予定教員が志願者の希望する学習・研究内容と、指導予定教員の研究活動との整合性の有無を判断する。さらに、修士課程入学後の学習・研究活動を円滑に進めるため、志願者と指導予定教員のディスカッションを通じて研究計画を出願前に明確化する。なお、本機械工学群では、日本の大学を卒業した留学生（卒業見込みを含む）は、8月に実施の試験を受験することを強く推奨する。その他の留学生は、本試験を受験することを強く推奨する。ただし、いずれの留学生も出願に先立って、下記の VI. (3) まで必ず詳細を問い合わせること。

Ⅳ. 学力検査日程

2月12日（水）	10:00～12:00 専門科目	14:30～ 口頭試問
----------	---------------------	----------------

※ 試験場は桂キャンパス C クラスターである。詳細は受験票送付時に通知する。

Ⅴ. 入学試験詳細

(1) 配点と選考方法

科目	配点
英語	120点
専門科目	240点
口頭試問	240点
合計	600点

専門科目に関する筆記試験、英語に関する TOEFL テストの成績および口頭試問により決定する。

(2) その他

(a) 科目について

(i) 英語

筆記試験は行わず、TOEFL テストの成績（120 点満点）で代用する。TOEFL 成績の提出方法その他については、下記の項目 (d) および VI. (2) を参照のこと。

(ii) 専門科目

機械力学、流体力学、熱力学、材料力学から出題する。

(iii) 口頭試問

専門学識、志望理由、研究計画等に関する口頭試問を行う。

受験者が研究計画を指導予定教員と打ち合わせすることを妨げない。口頭試問において受験者が説明する研究計画が、事前コンタクトにおいて指導予定教員とディスカッションした内容と一致するように指導する。

(b) 合格者の決定法

(i) 原則として、総得点が 300 点以上の者を有資格者とする。

(ii) 有資格者の成績上位の者から合格者を決定する。

(c) 学力検査に関する注意事項

(i) 試験会場や試験に関する注意などは、2025 年 2 月 4 日（火）より桂キャンパス C クラスター C3 棟 1 階（b 棟）掲示板に掲示する。

(ii) 試験開始 20 分前までに試験室に入室すること。

(iii) 試験開始後 30 分以上遅刻した者の入室は認めない。

- (iv) 試験開始後の途中退室は認めない（用便等、一時退室を特別に認める場合を除く）。
 - (v) 時計を持ち込んでよいが、計時機能のみを有するものに限る。
 - (vi) 定規、コンパス、辞書、電卓、およびこれらに類するものの使用は認めない。
 - (vii) 携帯電話等の電子機器類は、なるべく試験室に持ち込まないこと。持ち込む場合には、電源を切り、かばんにしまって所定の場所に置くこと。身につけている場合、不正行為と見なされることがあるので注意すること。
 - (viii) その他の注意は試験室にて与える。
- (d) TOEFL 成績の提出について
- (i) 2023 年 2 月 12 日以降に受験した TOEFL-iBT の成績を有効とする。以下の項目 (ii) および (iii) の手続きにより成績を提出すること。提出がない場合は英語の得点が 0 点となる。TOEFL-ITP および TOEFL-iBT Home edition の成績は受け付けない。TOEFL の受験後、TOEFL 実施機関のホームページで成績を確認できるまでに 2 週間程度、Institutional Score Report が指定送付先に到着するまでに 6～8 週間程度かかるとされている。到着が遅れる場合もあるので、十分な時間的余裕を持って TOEFL を受験すること。なお、Test Date Scores のみを利用する。
 - (ii) 受験した TOEFL テストの Test Taker Score Report のコピーを提出すること（TOEFL 実施機関のウェブサイトの個人ページからダウンロードが可能な PDF 形式の Test Taker Score Report を印刷したものでも良い）。
 - (iii) 受験した TOEFL テストの Institutional Score Report が 2025 年 2 月 7 日(金)までに機械工学群に届くように、出願者の責任において TOEFL 実施機関に送付依頼の手続きを取ることを。Institutional Score Report の送付依頼の際には、送付先のコード(Institution Code)として「B431」を指定すること（Institution Code が「B431」と指定されていれば、Department Code はどのように指定されていても良い）。送付依頼手続きは、TOEFL テスト申込時のほか、申込後や TOEFL テスト受験後にも可能であるので、TOEFL 実施機関に確認すること。なお、原則 Institutional Score Report の到着の有無についての問い合わせには、回答しない。
 - (iv) Institutional Score Report の京都大学の Institution Code「9501」への送付は認めない。既に TOEFL を受験し、Institutional Score Report を Institution Code「9501」に送付済みの場合でも、必ず「B431」に再度送付依頼の手続きをとること。
 - (v) 原則として、機械工学群に届いた Institutional Score Report に記載の成績を英語の点数とする。ただし、出願者が Institutional Score Report の送付依頼を正しく行ったにもかかわらず、(iii)に記載の期日までに機械工学群に Institutional Score Report が届いていない場合には、提出された Test Taker Score Report のコピーに記載の成績を英語の点数とすることがある。
 - (vi) 英語を母国語とする受験者は、「英語を母国語とする旨の宣誓書」（様式 2）の提出により TOEFL 成績の提出を免除することがある。免除を受けようとする場合には、予め下記の VI. (3) に詳細を問い合わせること。
 - (vii) 受験資格により TOEFL を受験することが困難な場合は、下記の VI. (3) まで連絡すること。

<参考> TOEFL に関するホームページ：

<https://www.toefl-ibt.jp/index.html>

<https://www.ets.org/toefl>

VI. 出願要領

(1) 志望区分の申請

インターネット出願システムの志望情報入力画面で志望順に志望区分を選択すること。

(2) 機械工学群に提出する書類

本募集要項「Part A: III. 出願要領」に記載の工学研究科に提出する出願書類の他に、以下の書類(a)、(b)、(c)を2025年1月29日(水)午後5時までに、下記(3)の提出先に提出または送付(必着・書留便)すること。工学研究科に提出する出願書類とは提出先が異なるので注意すること。

※2025年1月27日(月)以前の日本の発信局消印がある書留速達郵便に限り、期限後に到着した場合においても受理する。

※様式は工学研究科ホームページからダウンロードすること。

(a) 教育プログラム志望調書(様式1)

(b) TOEFL 成績に関する提出書類

項目V.(2)(d)に記載のTOEFL テストのTest Taker Score Report のコピー

(なお、Institutional Score Report については、項目V.(2)(d)に指定した方法で機械工学群への送付手続きを別途済ませておくこと)

(c) 志望する指導教員調書(様式3)

志望する指導予定教員の確認印(署名)を得たものを提出すること。(コピー可)

事前コンタクトにおいては、指導予定教員が志願者の希望する学習・研究内容と、指導予定教員の研究活動との整合性の有無を判断する。

(3) 提出先・問い合わせ先

〒615-8540 京都市西京区京都大学桂

京都大学大学院工学研究科 C クラスター事務区教務掛(機械工学群)

電話: 075-383-3521 E-mail: 090kckyomu2@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

参照: <https://www.me.t.kyoto-u.ac.jp/ja/admission/exam>

VII. 入学後の教育プログラムの選択

入試区分「機械工学群」の入試に合格することにより、入学後に履修できる教育プログラムは下記のとおりであります。

博士課程前後期連携教育プログラム 融合工学コース (a. 応用力学分野、b. 物質機能・変換科学分野、c. 生命・医工融合分野、d. 融合光・電子科学創成分野、f. デザイン学分野、g. 総合医療工学分野)

※現在、「e. 人間安全保障工学分野」を選択できる志望区分は機械工学群にはありません。

博士課程前後期連携教育プログラム 高度工学コース(機械理工学専攻、マイクロエンジニアリング専攻、航空宇宙工学専攻)

修士課程教育プログラム 機械理工学専攻、マイクロエンジニアリング専攻、航空宇宙工学専攻

各教育プログラムの詳細及び各融合工学コースの各分野の内容については、工学研究科 HP (「工学研究科教育プログラム」<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/education/graduate/dosj69>) および下記項目VIIIを参照すること。いずれのプログラムを履修するかは、教育プログラム志望調書(様式1)にもとづき、出願の段階で選択する。なお、前後期連携教育プログラムを志望する場合は志望区分の予定教員の内諾が必要である。教員が不明の場合やその他不明なことがあれば、上記VI.(3)まで問い合わせること。

VIII. 教育プログラムの内容について(前後期連携教育プログラム高度工学コース・修士課程教育プログラム)

【前後期連携教育プログラム 高度工学コース】

○機械理工学専攻

機械工学の対象はミクロからマクロにわたる広範囲な物理系であり、現象解析・システム設計から製品の利用・保守・廃棄・再利用を含めたライフサイクル全般にわたります。本専攻は、それら

の科学技術の中核となる材料・熱・流体等に関する力学（物理）現象の解析および機械システムの設計論に関する教育・研究を行います。未知の局面において、従来の固定観念や偏見にとらわれない自由で柔軟な発想とダイナミックな行動力を有するとともに、機械工学の基礎となる幅広い学問とその要素を系統的に結びつけるシステム設計技術を融合させることができ、かつ、新しい技術分野に果敢に挑戦する、研究者・技術者群のリーダーを育成します。

○マイクロエンジニアリング専攻

微小な機械システムは 21 世紀における人間社会・生活に大きな変革をもたらす原動力です。また、生体は最精密な微小機械の集合です。本専攻は、それらのシステム開発の基礎となる微小領域特有の物理現象の研究をはじめ、微小機械に特有の設計・制御論に関する研究・教育を行います。ナノ・マイクロエンジニアリングのみならず医学・生命科学分野をはじめとする多くの分野に関連することから、本専攻では、機械工学を取り巻く異分野との融合領域における研究者・技術者を育成します。

○航空宇宙工学専攻

宇宙は 21 世紀における最大のフロンティアであり、自由な飛行は時代を超えた人類の夢です。その開発と実現を担う航空宇宙工学は、未知なる過酷な環境に対峙する極限的工学分野であり、機械系工学の先端知識を総合した革新的アイデアを必要とします。本専攻は、革新的極限工学としての航空宇宙工学に関する研究とその基礎となる教育を行います。近年の先端工学の発展には、その高度化・複雑化に伴い、従来の工学分野の融合と新分野の創成が不断に求められています。機械系工学群として提供されるより広く多彩な科目およびセミナー科目においてさらに研鑽を深め、より広い視野とより自在で積極的な思考力・応用力をあわせもつ航空宇宙工学分野の高レベルの研究者・技術者を育成します。

【修士課程教育プログラム】

○機械理工学専攻

機械工学の対象はミクロからマクロにわたる広範囲な物理系であり、現象解析・システム設計から製品の利用・保守・廃棄・再利用を含めたライフサイクル全般にわたります。本専攻は、それらの科学技術の中核となる材料・熱・流体等に関する力学（物理）現象の解析および機械システムの設計論に関する教育・研究を行います。本プログラムでは、機械工学およびその基礎工学の研究者・技術者として、学問分野、産業界、社会で求められているニーズに応えるべく、基本的な機械工学およびそれに関連する基礎工学の学理を習得することを目的とし、深い洞察力と知的蓄積を背景にした豊かな創造力を有する研究者・技術者を養成します。

○マイクロエンジニアリング専攻

微小な機械システムは 21 世紀における人間社会・生活に大きな変革をもたらす原動力です。また、生体は最精密な微小機械の集合です。本専攻は、それらのシステム開発の基礎となる微小領域特有の物理現象の研究をはじめ、微小機械に特有の設計・制御論に関する研究・教育を行います。ナノメートルオーダーに代表される微小領域特有の物理現象を解明し、ナノ材料・ナノ構造の作製・加工からマイクロメートルオーダーの微小な機械の構造および機構の作製をはじめ、微小機械システムの設計および開発等の広範囲な分野に通用する能力を有する、研究者・技術者を養成します。

○航空宇宙工学専攻

宇宙は 21 世紀における最大のフロンティアであり、自由な飛行は時代を超えた人類の夢です。その開発と実現を担う航空宇宙工学は、未知なる過酷な環境に対峙する極限的工学分野であり、機械系工学の先端知識を総合した革新的アイデアを必要とします。本専攻は、革新的極限工学としての航空宇宙工学に関する研究とその基礎となる教育を行います。航空宇宙工学に関する技術的知識の

習得よりも基礎学力向上のための教育を重視し、工学基礎全般にわたって十分な基礎学力とそれらを自在に使いこなす豊かな思考力と応用力・創造力を有し、航空宇宙工学をはじめとした先端工学の分野の進歩発展に貢献し先導できる研究者・技術者を育成します。

IX. 教員・研究内容説明書

(機械理工学専攻)

研究内容	区分
機械システム創成学研究室 (中西講師) (1) 輸送機械・生産機械における人間と自動化の協調系設計 (2) 無人航空機の自律制御とその安全防災活動への適用 (3) 複合機能を有する機械製品のユーザビリティ設計 (4) 産業用ロボットの教示作業支援技術 (5) 身体運動の観察時系列データからの運動状態・行動意図の推定	1
適応材料力学研究室 (西川准教授) (1) 材料力学と異分野の融合による先進複合材料のメゾスケール構造制御と高性能化 (2) 先進複合材料の固体力学と破壊力学 (3) 航空機用高剛化複合材の破壊力学特性発現機構のメゾメカニクス (4) 先進複合材構造の設計・製造と最適成形法に関する基礎科学 (5) 複合材料の破壊機構解明や構造健全性評価のための理論の展開	2
固体力学研究室 (平方教授・松永助教) (1) ナノ・マイクロスケールの材料強度と材料力学 (2) 電子によるリライタブル材料強度の物理学 (3) ナノ構造体・薄膜に対する機械的特性評価実験法の開発 (4) 高強度・高機能ナノ構造材料の創製 (5) 力学と他の物理現象のマルチフィジックス	3
環境熱流体工学研究室 (長田教授・渡邊准教授) (1) 乱流構造とエネルギー輸送現象 (2) 乱流と衝撃波の干渉 (3) 空気力学(翼周りの流れと揚力/抗力など) (4) 高速流中の乱流現象 (5) 環境中の乱流拡散現象	4
流体物理学研究室 (沖野講師) (1) 流体運動(渦や波動)の基本メカニズムの解明 (2) 乱流現象と、それに伴う物質拡散の解明 (3) 流体中の粒子や液滴の運動 (4) 力学系理論に基づく乱流遷移現象の解明 (5) スーパーコンピュータによる高速・大規模計算とアルゴリズム開発	5
熱システム工学研究室 (岩井教授・岸本准教授・郭助教) (1) 燃料電池・電解セル・二次電池・触媒反応器内の輸送・反応連成現象に関する研究 (2) 熱流動場の計測・可視化・シミュレーション (3) 電気化学デバイスにおける界面輸送機構の分子動力学解析 (4) 3次元ナノ構造の詳細解析に基づく機能性多孔質体の最適化 (5) エネルギーの変換・貯蔵に関する新コンセプトの創出と検証	6
光工学研究室 (蓮尾教授・四竈准教授・クズミン講師) (1) 分光手法・レーザー計測法の開発 (2) 各種プラズマの分光診断・計測 (3) 金属膜プラズマ駆動水素透過の分光診断 (4) 吸収・発光・散乱スペクトルを利用したセンサー開発 (5) 位相制御を用いた波面補償光学	7

研究内容	区分
材料物性学研究室 （嶋田教授・見波助教） （１）材料力学・計算物理学・データ科学に基づく先端デバイス材料機能の研究開発 （２）宇宙・極限環境での材料強度デザイン （３）再生可能エネルギー応用への環境発電材料設計 （４）人工知能(AI)・量子駆動デバイスに向けた量子物質科学・“一億分の１”世界の機械へ （５）機械学習とスーパーコンピュータによるデータ駆動型材料研究技術の開発	8
熱物理工学研究室 （黒瀬教授・松本准教授・若林助教・ピライ助教） （１）固体・流体の熱力学性質・輸送性質・ふく射性質の研究 （２）乱流燃焼機構の解明とモデリング （３）混相流に関する運動量・熱・物質の移動現象の解明とモデリング （４）マイクロスケール輸送現象・界面現象の解明とモデリング （５）スーパーコンピュータを用いた大規模数値シミュレーション	9
機構運動工学研究室 （小森教授・寺川助教） （１）ロボット用メカニズム(機構・からくり)の開発・設計、移動ロボット （２）ビークル／乗り物、搭乗型ロボット、搭乗型モビリティ、ライディングロボティクス （３）ヒトの動作特性の不思議を知る、直感的操作、ロボット操作 （４）足・脚による操作 （５）自動車用機構・トランスミッションアクチュエータの開発・デザイン	10
機械機能要素工学研究室 （平山教授・安達助教） （１）機械要素の高効率化・高機能化に向けた最適設計指針の提示 （２）低摩擦摺動を可能とする材料/潤滑油/摺動面形状の開発と評価 （３）ナノ/メゾ/マクロを繋ぐ表面・界面のトライボロジー特性計測 （４）トライボロジー現象の基礎的解明に向けた表面・界面分析手法の確立 （５）量子ビームを用いた表面・界面のメカノオペランド分析	11
先端システム理工学研究室 （細田教授・川節講師） （１）人工筋駆動ロボットによるマニピュレーション （２）イオンゲル・イオン流体を用いたソフトセンサ （３）ソフトハンドによる物体の識別とマニピュレーション （４）インソールセンサの開発と応用 （５）生物規範ロボット	12
粒子線材料工学研究室（複合原子力科学研究所） （木野村教授・徐准教授・簗内助教） （１）高エネルギー粒子による材料の照射損傷発達過程の実験的・理論的研究 （２）先端材料中の格子欠陥の生成とその挙動の解明 （３）陽電子消滅分光法を用いた材料分析と分析装置開発 （４）原子炉、核融合炉用材料開発 （５）照射効果を用いた材料改質法の研究	13
量子ビーム物質解析学研究室（複合原子力科学研究所） （奥地教授・有馬准教授・梅田助教） （１）セラミックスや金属の結晶の原子配列の解析と応用 （２）アモルファス材料の原子配列の解析と応用 （３）宇宙、惑星、地球に存在する結晶・アモルファス物質の合成から応用に至る研究 （４）機械工学部品の量子ビームによる内部応力解析の研究と装置開発 （５）高温及び高圧力状態の発生、計測、及びその時間進展の制御	14

(マイクロエンジニアリング専攻)

研究内容	区分
構造材料強度学研究室 (泉井教授・林講師) (1) 複合領域および複合物理問題の最適システム設計 (2) 形状・トポロジー最適化 (3) 機械製品・生産システムの構想設計法 (4) ユニバーサルデザイン (5) サステナブルエンジニアリング	1 5
マイクロバイオシステム研究室 (横川教授・藤本准教授) (1) 生体分子・細胞計測のためのマイクロ・ナノシステムの設計と加工に関する研究 (2) オンチップ血管網を用いた腫瘍微小環境形成過程の再現と解明 (3) ヒトiPS細胞由来オルガノイドを用いた脳・腎臓の臓器モデル創製と創薬応用 (4) SARS-CoV-2感染モデルを用いた上皮-内皮組織間の相互作用の解明 (5) 機械学習を用いた血管網形成および生体分子モーターの集団運動解明	1 6
ナノ・マイクロシステム工学研究室 (土屋教授・廣谷准教授・バネルジー講師) (1) ナノ・マイクロスケールの材料創成・加工・プロセス・デバイス・システム (2) マイクロセンサ・アクチュエータ (慣性センサ、共振子、光学素子) (3) ナノ・マイクロスケールにおけるエネルギー輸送・変換の計測と制御 (4) ナノ・マイクロ機械デバイスを用いた機械学習システム (5) IoTや生体情報計測のためのフレキシブル・ストレッチャブルデバイス	1 7
ナノ物性工学研究室 (中嶋准教授) (1) 量子ビームと固体表面の相互作用に関する研究 (2) 高分解能イオン散乱分光法の開発と応用に関する研究 (3) 高速クラスターイオンと物質の相互作用およびその応用に関する研究 (4) 透過型二次イオン質量分析を用いた新しいイメージング質量分析法の開発 (5) 高速重イオンを用いた高感度二次イオン質量分析法の開発	1 8
生命数理科学研究室 (井上教授・瀬波講師) (1) 複雑適応システムの構造と発展の理論 (2) 生きものらしさが現れるダイナミクスの解明 (3) 生命システムの制御機構の解明 (4) 生物の形態形成の数理モデリングと工学応用 (5) 計算科学に基づいた量子現象の基礎理論の探求と工学応用手法の開発	1 9
マイクロ加工システム研究室 (鈴木教授・名村准教授) (1) 物理的な自己組織化法によるナノ形態の制御に関する研究 (2) 形態を制御したナノ粒子・ナノワイヤの形成と応用に関する研究 (3) ナノ形態を制御した多層膜による光機能性の創出とその応用に関する研究 (4) ナノ形態制御表面を利用したふく射・吸収の制御に関する研究 (5) 光熱変換薄膜を利用したマイクロ熱流体现象に関する研究	2 0
精密計測加工工学研究室 (松原教授・河野准教授) (1) 工作機械の運動誤差の計測と補正 (2) 超精密計測加工システムの開発 (3) 切削加工プロセスのモデル化とデザイン (4) 機械要素の剛性、摩擦のモデル化 (5) 加工機の動的設計	2 1
バイオメカニクス研究室 (医生物学研究所) (安達教授・牧助教・竹田助教) (1) 力学環境に応じた生体システムの構造・機能適応のメカニズム (2) 多細胞組織の発生・形態形成の多階層力学モデリングとシミュレーション (3) 骨細胞の力刺激感知と細胞間コミュニケーションによる骨リモデリング (4) ゲノム DNA の力学動態を介した細胞分化・老化メカニズム (5) 細胞内構造の力学制御に基づくマイクロ・ナノマシナリー	2 2

研究内容	区分
ナノ生物工学研究室（医生物学研究所）（新宅教授・金子助教） （１）１細胞生物学のためのナノ・マイクロ流体工学 （２）細胞力学と遺伝子制御 （３）細胞動態と遺伝子発現の時系列計測による遺伝子制御ネットワーク解析 （４）細胞周辺微小環境のin vitro再構築のためのナノ・マイクロ工学 （５）細胞動態と遺伝子発現制御を接続する機械学習プラットフォームの構築	2 3

(航空宇宙工学専攻)

研究内容	区分
流体力学研究室 (大和田教授・杉元講師) (1) 衝撃波を伴う高速気流解析 (2) 乱流の数値解法 (3) 非圧縮性流体の漸近の数値解法 (4) 気体論方程式の数値解法 (5) 分子気体効果を利用した気体分離システムの試作研究	2 4
流体数理学研究室 (高田教授・初鳥助教) (1) 運動論方程式に基づく流体中の非平衡現象の数理解析とシミュレーション (2) 非平衡流体における相反性の理論とその応用 (3) すべり流(希薄気体効果)の理論とその応用 (4) 相変化の非平衡動力学とそれによる気体力学の拡張 (5) 多孔体内気体輸送の運動論モデリング	2 5
推進工学研究室 (江利口教授・占部准教授) (1) プラズマと固体表面との物理的・化学的相互作用に関する基礎研究 (2) 固体の表面及び微細構造内におけるプラズマからの粒子・エネルギー輸送に関する研究 (3) プラズマプロセスおよび高信頼性デバイス作製技術に関する研究 (4) 宇宙推進工学、特に電気推進器の高信頼性化に関する基礎研究 (5) 宇宙マイクロ・ナノ工学の創成(超小型推進、高機能材料・デバイスなど)に関する研究	2 6
制御工学研究室 (藤本教授・丸田准教授) (1) 最適制御・非線形制御などのシステム制御理論 (2) 宇宙機の姿勢制御・最適設計 (3) 統計的学習・確率システム制御 (4) 制御系設計のためのシステム同定 (5) データ駆動型制御系設計	2 7
機能構造力学研究室 (琵琶教授・石井助教) (1) 複雑な微視構造・界面を有する固体における弾性波伝搬挙動の解析 (2) フォノンニック結晶・音響メタマテリアルによる弾性波機能構造の解析 (3) 非線形超音波特性に着目した欠陥・損傷の非破壊評価 (4) 超音波スペクトロスコーピーによる航空機構造用複合材料の特性評価 (5) 高速き裂進展における動的不安定性の解析	2 8

原子核工学専攻

I. 志望区分

研究グループ	志望区分	研究内容	対応する教育プログラム		
			連携教育プログラム (融合工学コース)	連携教育プログラム (高度工学コース)	修士課程教育 プログラム
(量子エネルギー第1グループ 物理学)	1-1	エネルギー変換工学 (混相流体科学、環境流体輸送現象、分子熱流体、新型炉・核融合炉エネルギー変換、原子炉システム安全、核融合炉に関連する数値計算モデリング) 横峯教授、成田講師	応用力学分野		
	1-2	プラズマ物理学 (核融合プラズマ中の輸送現象、波動によるプラズマ制御、高速イオンとプラズマの相互作用、先進的閉じこめ配位) 村上教授、森下助教	応用力学分野		
(量子エネルギー第2グループ 物理化学)	2-1	燃材料工学 (原子炉材料・燃料、放射性廃棄物の処理処分、核融合炉燃料・材料) 高木教授、佐々木教授、小林准教授			
	2-2	重元素物性化学 (原子炉燃料サイクルの化学、重元素・アルファ放射体の物性化学・医薬応用) 山村教授、外山助教		任意の志望区分を選択することができます。	任意の志望区分を選択することができます。
(量子システム第3グループ 工学)	3-1	量子ビーム科学 (量子ビームによるナノ科学、高速量子現象の物理学、原子衝突物理学、クラスター粒子応用工学) 斉藤教授、土田准教授、間嶋准教授、瀬木講師、今井助教	生命・医工融合分野 先端医学 量子物理領域 総合医療工学分野		
	3-2	粒子線医学物理学 (中性子捕捉療法の物理学、原子炉および加速器システムの医学応用) 田中教授、櫻井准教授、高田助教、松林助教	生命・医工融合分野 先端医学 量子物理領域 総合医療工学分野		
(量子物質第4グループ 工学)	4-1	量子物理学 (ニューラルネットワークによる自然科学の理解) 小暮助教			
	4-2	中性子工学 (原子炉・核融合炉材料の中性子照射効果、耐環境セラミック複合材料、中性子スピン干渉・光学現象の研究と応用) 檜木教授、田崎准教授			
	4-3	中性子源工学 (原子力・加速器科学・医学応用のための加速器・研究炉中性子源の研究、加速器物理学、核反応・核変換工学、原子力施設の安全性評価研究) 堀教授、石准教授、高橋准教授、山本准教授、上杉助教、栗山助教、沈助教、寺田助教			
	4-4	中性子応用光学 (中性子スピン光学応用、中性子位相イメージング、超冷中性子を用いた素粒子原子核実験、新試験研究炉へ向けた分光器・検出器開発) 日野教授、中村助教、樋口助教			

詳しい研究内容については、専攻ウェブサイト <https://www.ne.t.kyoto-u.ac.jp/> を参照。

Ⅱ. 募集人員

原子核工学専攻 若干名（以下の博士課程前後期連携教育プログラムの募集人員を含む。）
高度工学コース（原子核工学専攻） 若干名
融合工学コース（応用力学分野） 若干名
融合工学コース（生命・医工融合分野 先端医学量子物理領域） 若干名
融合工学コース（総合医療工学分野） 若干名

Ⅲ. 出願資格

募集要項 4 ページ「Ⅱ-i 出願資格」参照。

Ⅳ. 学力検査日程

月 日	時 間	試験科目
2 月 12 日 (水)	10 : 00～12 : 00	専門科目（配点 300 点） （数学、量子力学、統計力学、電磁気学、放射線物理学、物理化学、材料物性、流体・熱工学、原子炉物理学の分野から出題。）
	13 : 00～14 : 00	工学基礎（配点 100 点） （出題範囲は学部 1、2 回生で学修する力学、微分積分である。）
	14 : 30～	口頭試問*（配点 100 点） （語学試験も兼ねる。）

* 連携教育プログラムの口頭試問を含む。

※ 試験場は桂キャンパス C クラスタである。詳細は受験票送付時に通知する。

Ⅴ. 入学試験詳細

(1) 試験科目

- ・専門科目、工学基礎、口頭試問のすべてを受験しなければならない。
- ・試験科目の内容については、項目Ⅳを参照のこと。

(2) 連携教育プログラムの口頭試問

項目Ⅴ-(1)の口頭試問の後、連携教育プログラムを志望する受験者に、項目Ⅵ-(3)-(b)により提出された資料に基づき、別途口頭試問を行う。

(3) 合格者決定法および志望区分への配属

- (a) 全試験科目（専門科目、工学基礎、口頭試問）の総得点が 250 点以上の者を有資格者とする。
- (b) 有資格者の中から総得点順に募集人員の範囲内で合格者を決定する。
- (c) 総得点で同得点者があるときは、専門の得点が高い方を上位者とする。
- (d) 合格者を志望する区分に配属する。
- (e) 合格者の志望、入試成績に応じて教育プログラムを決定する。

(4) 試験の注意事項

- ・筆記用具は、黒鉛筆、シャープペンシル、鉛筆削りおよび消しゴムに限る。
- ・電卓、辞書およびこれに類するものの持ち込みは認めない。
- ・携帯電話等の電源は切り、カバンの中に入れて指定された場所におくこと。身につけている場合、不正行為と見なされることがあるので注意すること。
- ・試験当日は、試験開始 20 分前までに指定された試験室前に集合すること。なお、試験開始時刻から 30 分以降は入室できない。
- ・試験室および口頭試問室については、桂キャンパス C クラスタ C3 棟 1 階（b 棟および c 棟）掲示板に、2 月 7 日（金）より掲示する。

VI. 出願要領

(1) 志望区分の申請

本専攻出願にあたっては、項目Ⅶの(a)～(e)いずれの教育プログラムを志望する場合も、出願者の希望する研究テーマが志望区分の研究内容に合致していることを、出願者と志望区分の教員（指導予定教員）の双方によって出願までに確認（事前コンタクト）すること。事前コンタクトは原則として対面で行うこととするが、指導予定教員が適切と判断した場合はリモートで行うこともある。

インターネット出願システムの入力画面で、履修を志望する教育プログラムと志望順位ならびに志望区分を選択し、指導予定教員に連絡を取った（事前コンタクトを実施した）旨、選択すること。修士課程教育プログラムを第一志望とする場合、第二志望は登録せずに志望区分を選択する。

教員が不明の場合やその他不明なことがあれば、項目Ⅸの入試担当に問い合わせること。

(2) 口頭試問の発表指導

発表指導は行わない。

(3) 試験当日の提出書類

- (a) 口頭試問のための資料として、A4 判用紙 1 枚に、受験番号および氏名とともに以下の事項について、日本語または英語で記述したものを提出すること。
 - ・志望する区分（項目Ⅰ）および、その区分を選択した理由。
 - ・受験者自身が興味を持っている科学技術や科学現象に関する解説。
- (b) 連携教育プログラムを志望する受験者は、連携教育プログラム口頭試問のための資料として、A4 判用紙 1 枚に、受験番号および氏名とともに以下の事項について、日本語または英語で記述したものを提出すること。
 - ・連携教育プログラムを志望した理由。

VII. 入学後の教育プログラムの選択

原子核工学専攻の入試に合格することにより履修できる教育プログラムは以下の通りである。

- (a) 修士課程教育プログラム 原子核工学専攻
- (b) 博士課程前後期連携教育プログラム (高度工学コース)原子核工学専攻
- (c) 博士課程前後期連携教育プログラム (融合工学コース)応用力学分野
- (d) 博士課程前後期連携教育プログラム (融合工学コース)生命・医工融合分野 先端医学量子物理領域
- (e) 博士課程前後期連携教育プログラム (融合工学コース)総合医療工学分野

いずれのプログラムを履修するかは、受験者の志望と入試成績に応じて決定する。

詳細については、項目Ⅰを参照のこと。また、教育プログラムの内容については、以下の項目Ⅷおよび、本募集要項記載の「教育プログラムの内容（融合工学コース）」をそれぞれ参照すること。

VIII. 教育プログラムの内容について

【修士課程教育プログラム】

原子核工学専攻では、素粒子、原子核、原子や分子、プラズマなど、量子の科学に立脚したミクロな観点から、量子ビーム、ナノテクノロジー、アトムテクノロジーなど最先端科学を切り開く量子技術を追究するとともに、新素材創製・探求をはじめとする物質開発分野、地球社会の持続的発展を目指すエネルギー・環境分野、より健やかな生活を支える生命科学分野等への工学的応用を展開しています。

修士課程教育プログラムでは、十分な専門基礎学力を有し、明確な目的意識を備えた人材を分野を問わず受け入れ、ミクロな観点からの分析能力と高い問題解決能力を有する研究者、高度技術者の育成を目指します。

入学後は体系的な教育カリキュラムを通して基礎から先端までの幅広い知識を修得させ、修士論文研究を通して問題の発見と解決のための総合的思考能力を育成し、実習やインターンシップ等の実体験などを通して目的意識や問題解決力の涵養を図ります。

【高度工学コース】

原子核工学専攻では、素粒子、原子核、原子や分子、プラズマなど、量子の科学に立脚したミクロな観点から、量子ビーム、ナノテクノロジー、アトムテクノロジーなど最先端科学を切り開く量子技術を追究するとともに、新素材創製・探求をはじめとする物質開発分野、地球社会の持続的発展を目指すエネルギー・環境分野、より健やかな生活を支える生命科学分野等への工学的応用を展開しています。

高度工学コースでは、十分な専門基礎学力を有し、明確な目的意識を備えた人材を分野を問わず受け入れ、ミクロな観点からの創造性に富む分析能力とシステムとしての戦略的思考能力を有する先端的研究者の育成を目指します。

入学後は一貫した教育カリキュラムを通して基礎から先端までの幅広い知識を修得させ、自主性を尊重した研究指導、そして国内外の研究機関等との連携を生かした先端的研究教育を通じて国際的視野に立った総合的思考能力と基礎研究から工学的応用までの幅広い展開力を涵養します。

IX. その他

問合せ先・連絡先

原子核工学専攻 入試担当

電話：C クラスター事務区教務掛 075-383-3521

電子メール：inquiry2025@nucleng.kyoto-u.ac.jp

材料工学専攻

I. 志望区分

志望区分	研 究 内 容
1	軽金属材料、放射光散乱分光法、拡散相変態、複合材料組織、非平衡合金評価
2	燃料電池材料、固体イオニクス、チタン製錬、レアメタル製錬、化学熱力学
3	構造材料、塑性変形機構、マイクロスケール力学特性、結晶欠陥、透過電子顕微鏡法
4	バルク・薄膜結晶成長、化合物半導体、太陽電池材料、光物性、量子計算科学
5	表面・界面物性、走査トンネル顕微鏡、原子レベル材料物性評価、ナノスケール元素分析
6	量子材料設計、セラミック材料、半導体材料、計算材料科学、エネルギー材料、電子分光
7	耐熱金属間化合物材料、先進電池材料、水素吸蔵・熱電変換材料、結晶格子欠陥、ナノ透過電子顕微鏡法
8	構造用金属材料、塑性加工、熱処理、ナノ・ミクロ組織制御、粒界・界面、機械的性質
9	凝固・結晶成長解析、凝固プロセス、電磁力プロセッシング、リアルタイムイメージング、材料組織解析
10	磁性物理学、磁性材料、強相関電子系、スピントロニクス、中性子散乱、核磁気共鳴
11	水溶液プロセス、イオン液体、材料電気化学、湿式非鉄製錬、電池材料、表面機能化
12	自己集積化、有機材料、光・電気化学、微細加工、走査型プローブ顕微鏡、固-液界面

II. 募集人員

材料工学専攻 若干名

III. 出願資格

募集要項の「Part A: II - i 出願資格」を満たす者。

IV. 学力検査日程

2月12日（水）	10:00～11:30 専門科目（材料科学）
2月13日（木）	10:00～ 口頭試問

※試験場は吉田キャンパスである。但し、オンライン開催に変更の可能性もある。

詳細は受験票送付時に通知する。

V. 入学試験詳細

(1) 配点

英語：100点 専門科目：200点 口頭試問：200点

(2) 英語に関する注意

2021年8月1日以降に実施された TOEFL (TOEFL-ITP などの団体試験を除く)、TOEIC L&R (TOEIC-IP などの団体試験は不可) または IELTS の成績により評価する。「英語を母語とする旨の宣誓書」が提出された場合、専門科目および口頭試問において英語力の判定を行う。なお、TOEFL、TOEIC または IELTS の成績もしくは「英語を母語とする旨の宣誓書」が提出されない場合は、別途、試験を実施することがあるので、受け入れ予定の教員に必ず出願前に相談すること。

※1 TOEFL iBT (Special) Home Edition, TOEFL ITP Plus for China の成績提出でも可とする。

※2 My Best スコアの利用を可とする。

(3) 口頭試問に関する注意

卒業研究（あるいはそれに相当するもの）の内容および今後の研究に対する抱負について、10分以内の発表の準備をすること。発表は試問室のプロジェクターを用い、英語で行うものと

する。また、発表スライドの PDF ファイルを事前に送付すること。詳細は別途指示をする。

(4) 合格者決定法

総得点が 250 点以上の者を有資格者とし、その中から総得点の高い順に合格者を決定する。
ただし、いずれか一つの科目の得点とその科目の配点の 1/2 に達していない場合は、成績の如何にかかわらず不合格となることがある。

VI. 出願要領

志望区分の申請

志望する区分を「I. 志望区分」より一つ選び、インターネット出願システムの志望情報入力画面で選択すること。

問合せ先・連絡先

〒615-8540 京都市西京区京都大学桂 電話 075-383-3521
京都大学工学研究科 C クラスター教務掛 E-mail : 090kckkyomu2@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
(材料工学専攻 web site : <http://www.ms.t.kyoto-u.ac.jp/ja>)

別途提出書類（様式は工学研究科ホームページからダウンロードすること）

受験者は、TOEFL の Test Taker Score Report、TOEIC または IELTS の成績証明書（いずれもコピーや受験生自身で印刷したものは不可）、あるいは、英語を母語とする受験者は成績証明書の代わりに「英語を母語とする旨の宣誓書」（様式 材工 D）を 2025 年 1 月 9 日（木）午後 5 時（必着）までに大学院工学研究科 C クラスター事務区教務掛（材料工学専攻 入試担当）へ提出すること。なお、TOEFL、TOEIC または IELTS の成績もしくは「英語を母語とする旨の宣誓書」を提出しない場合は、受け入れ予定の教員に必ず出願前に相談の上、その旨を連絡すること。

VII. 入学後の教育プログラムの選択

修士課程入学後には 3 種類の教育プログラムが準備されている。入試区分「材料工学専攻」の入試に合格することにより履修できる教育プログラムは下記のとおりである。

- (a) 博士課程前後期連携教育プログラム 融合工学コース（物質機能・変換科学分野）
- (b) 博士課程前後期連携教育プログラム 高度工学コース（材料工学専攻）
- (c) 修士課程教育プログラム 材料工学専攻

いずれのプログラムを履修するかは、合格決定後、入学までの適切な時期に志望を調査したうえで、その志望と入試成績に応じて審査の後に決定される。また、教育プログラムの内容については、学生募集要項の「教育プログラムの内容（融合工学コース）」および、次項の「VIII. 教育プログラムの内容について」をそれぞれ参照すること。

VIII. 教育プログラムの内容について（高度工学コース・修士課程教育プログラム）

【高度工学コース】

材料工学では、地球の「資源」や「物質」を有効に活用し、人類、そして地球の未来に役立つ「材料」に変換するための基礎技術と基礎理論を科学し、環境調和を考慮して人間社会を維持、発展させることに貢献することを目指して、新しい材料の開発・設計・製造プロセスに関する先進的教育と研究を行っています。そのために本専攻では、材料プロセス工学、材料物性学、材料機能学の各分野で、電子・原子レベルの元素の結合状態や結晶構造に関する研究から、ナノスケールのクラスター構造、メゾスケールからマクロスケールでの材料組織、マクロスコピックな結

晶粒や加工組織や集合組織まで材料に関わる先進の教育研究を推進し、我が国が抱える緊急かつ重要な課題である環境、エネルギー、資源などの問題に、材料科学的な独自の視点で思考し、課題を設定し解決することができる、高い能力を持った研究者・技術者を育成しています。

【修士課程教育プログラム】

現代の高度技術社会を支えている先端材料のほとんどは、電子、原子、ナノ、ミクロといった階層構造を理解し、それを的確に制御することで初めて発現する特異な機能を利用したものです。この構造と機能を関係づける物理を理解すること、そして自然環境との調和を最大限配慮した材料開発のために必要となる包括的な学問体系が材料工学です。材料工学専攻の修士課程では、材料工学の基礎及び応用分野における専門教育を行うとともに、研修や各種セミナー等に参加することを通じて幅広い知識の獲得と視野の拡大を図ります。さらに修士論文研究を通じて高い問題解決能力を有する研究者や高度技術者を育成します。

IX. その他

携行品

受験票、筆記用具（電卓の持込は不可）

【注意事項】

携帯電話、スマートウォッチ等の電子機器類は、なるべく試験室に持ち込まないこと。持ち込む場合は、電源を切り、かばんにしまって所定の場所に置くこと。身につけている場合、不正行為とみなされることがあります。

研究内容説明

研究内容	区分
<u>材料設計工学講座 材料設計工学分野</u> (1) マグネシウム合金の相転移過程に関する研究 (2) アルミニウム合金複合材のナノ-メゾ-マクロ構造分布と特性 (3) 自己組織化薄膜における構造不均一性の軟X線散乱法による解明 (4) tender X線領域における定量散乱解析法の開発 (5) X線光学素子の評価	第1
<u>材料プロセス工学講座 表面処理工学分野</u> (1) 中温型燃料電池の実現に向けた固体電解質とその電極の探索 (2) リン酸塩における新しいプロトン伝導体の探索 (3) 高効率な新しいチタン製錬法の提案 (4) 材料の熱力学的解析と、それをベースにしたプロセス学 (5) 希土類、ニッケル、コバルトなどのレアメタルの製錬・リサイクルプロセス	第2
<u>材料プロセス工学講座 物質情報工学分野</u> (1) 硬質結晶性材料の塑性変形機構 (2) 原子分解能走査透過電子顕微鏡法 (3) 硬質結晶性材料を強化相として含む構造用金属材料の塑性変形機構 (4) マイクロスケール機械試験法を用いた変形機構解析 (5) ハイ/ミディアム・エントロピー合金の欠陥構造と力学特性	第3
<u>材料プロセス工学講座 ナノ構造学分野</u> (1) 多元系材料におけるバルク結晶成長 (2) 半導体材料における成膜プロセスの開発 (3) 化合物半導体における光物性 (4) 化合物太陽電池におけるデバイス構造の構築と高効率化 (5) 第一原理統計熱力学に基づく材料設計手法の開発	第4
<u>先端材料物性学講座</u> (1) 走査トンネル顕微鏡による材料組織評価 (2) 表面・界面物性 (3) ナノスケール元素分析 (4) 新規ナノ計測手法の開発 (5) 走査トンネル顕微鏡を用いた表面反応機構の解明	第5

<u>材料物性学講座 量子材料学分野</u> (1) 計算科学に基づいた新材料と機能の探索 (2) ワイドギャップ半導体の材料設計と開発 (3) 次世代エネルギー変換・貯蔵材料の設計と開発 (4) 第一原理計算からの熱統計力学計算手法の開発 (5) 第一原理計算に基づいた材料インフォマティクス	第 6
<u>材料物性学講座 結晶物性工学分野</u> (1) 結晶欠陥、転位と力学特性 (2) 次世代耐熱構造用金属間化合物の変形機構 (3) 先進電池材料における固体イオニクス界面の微細構造と電池特性 (4) エキゾチック化合物の水素吸蔵、熱電変換機能 (5) 結晶欠陥のナノスケール電子顕微鏡法	第 7
<u>材料物性学講座 構造物性学分野</u> (1) ナノ組織制御による強度と延性・靱性を両立させた構造用金属材料の実現 (2) 巨大ひずみ加工など新規プロセスによるバルクナノメタルの創製 (3) バルクナノメタルの相変態・析出・再結晶挙動と力学特性の解明 (4) ヘテロ構造金属材料の変形挙動およびその力学特性発現機構の解明 (5) 金属材料の水素脆性の解明	第 8
<u>先端材料機能学講座</u> (1) 凝固・結晶成長機構の実証的解明と材料プロセスへの応用 (2) 固液共存領域における力学特性の発現機構の解明と制御 (3) 外場を利用した材料プロセッシング原理の確立と組織制御への応用 (3) 放射光などを利用した材料構造・組織評価法の開発 (4) 実証データに基づいた物理モデルの構築とシミュレーション	第 9
<u>材料機能学講座 磁性物理学分野</u> (1) 電子相関が強い系での新たな量子現象・新たな機能の探索 (2) フラストレート系・ランダム系・低次元磁性体の物理 (3) スピン流の新たな物理の開拓 (4) 希土類元素を含まない新たな磁性材料の開発 (5) 中性子散乱・核磁気共鳴・メスバウア分光等による微視的磁性評価	第 1 0
<u>材料機能学講座 材質制御学分野</u> (1) 酸化還元反応ならびに酸-塩基反応を用いる水溶液系薄膜形成とその熱力学 (2) 自然順応型イオン液体を溶媒とする表面修飾ならびに機能化技術の研究 (3) 電解採取や電解精製をはじめとする湿式非鉄製錬技術の高度化と高効率化 (4) 次世代電池をめざした高容量金属負極材料の設計と開発 (5) 多孔質電極の作製とその利用における微小空間の電気化学	第 1 1
<u>材料機能学講座 機能構築学分野</u> (1) 自己集積化による機能材料の創製 (2) 有機-半導体・金属接合界面の研究 (3) 高分子材料表面の機能化に関する研究 (4) 走査型プローブ顕微鏡による界面計測・反応操作の研究 (5) 電気化学・光化学プロセスによる表面処理・微細加工技術の開発	第 1 2

2025 年 2 月実施入試（冬入試）

電気系（電気工学専攻・電子工学専攻）

修士課程教育プログラム

I. 専攻別試験区分

試験区分は修士課程教育プログラムのみとする。ただし、対象は国費留学生等のみとする。
（私費留学生は対象としない。）

II. 募集人員

電気系（電気工学・電子工学）修士課程教育プログラム（国費留学生等のみ、私費留学生は除く）
若干名

III. 出願資格

募集要項 Part A: II-i 出願資格に記載の条件を満たす国費留学生等（私費留学生は除く）。

なお、内諾を受けた研究室に必ず事前に連絡をとり、指導希望教員に出願の許可を得ることを必須とする。

IV. 学力検査日程

修士課程教育プログラム

期 日	時 間	試 験 科 目（口頭試問）
2 月 13 日（木）	10：00～12：00 の間の いずれかの時間帯（20 分）（※）	数学
	10：00～12：00 の間の いずれかの時間帯（20 分）（※）	電磁気学

（※）ただし、状況によってこの時間帯を超える可能性がある。

* 試験場は桂キャンパス A クラスタである。（対面での試験を実施する。オンライン試験は実施しない。）詳細は受験票送付時に通知する。

V. 入学試験詳細

(1) 修士課程教育プログラムの試験科目

英語 筆記試験は行わず、TOEFL または IELTS の成績で代用する。提出方法については、項目
VI. 1. (b)を参照。配点 30 点

口頭試問

[数学] 配点 100 点

数学（微積分（一変数関数の微積分、多変数関数の微積分）、常微分方程式、線形代数（行列と連立一次方程式、ベクトル空間、行列の固有値と対角化）、複素関数論、フーリエ解析）

[電磁気学] 配点 100 点

電磁気学（静電界、静磁界、電磁誘導、荷電粒子の運動、マクスウェルの方程式と電磁波）

(2) 有資格者決定法および志望区分への配属

修士課程教育プログラム

英語、「数学・電磁気学」に関する口頭試問の総得点(230 点満点)が 115 点以上で、さらに日本語、英語の力が修学に支障なきものと認められる者を有資格者とし、有資格者の中から総得点に応じて合格者を決定する。

口頭試問の注意事項

- ・試験中に使用を許可するのは、時計（時計機能のみのもの。スマートウォッチは使用不可）、眼鏡に限る。
- ・電卓、辞書、定規およびこれに類するものの使用は認めない。
- ・携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチ等の電子機器類は、なるべく持ち込まないこと。持ち込む場合には、電源を切り、かばんにしまって所定の場所に置くこと。身につけている場合、不正行為と見なされることがあるので注意すること。
- ・試験当日は、9 時 40 分までに指定された試験室前に集合すること。なお、10 時以降は入室できない。
- ・試験室については、受験票送付時に通知する。

VI. 出願要領

1. 修士課程教育プログラム

工学研究科に提出する出願書類の他に、以下の書類を提出すること。出願書類とは提出先が異なるので注意されたい（様式は工学研究科ホームページからダウンロードすること）。

(a) 指導希望教員承諾書

1 月 10 日(金)17 時必着(厳守)。

郵送の場合は「書留」又は「簡易書留」とすること。※学内便不可

2. の別途書類提出先に提出すること(期限内必着)。

(b) TOEFL 等成績証明書

TOEFL-iBT または IELTS を有効とする。IELTS の場合は Academic Module のみを有効とする。TOEFL の成績証明書(Test Taker Score Report)の原本（コピーや受験者自身で印刷したものは不可）（オンラインでのテスト申込時に My TOEFL Home のスコア通知設定（Score reporting Preference）ページで「オンライン上でのスコアレポートと郵送されたコピー」を選択しないと発行・送付されない）ので注意のこと。なお、Test Date scores のみを利用し、MyBest™ scores は利用しません。また、TOEFL iBT Home Edition のスコアは認めませんので、注意してください。、または IELTS の成績証明書（Test Report Form）の原本、（いずれも受験日（2025 年 2 月 13 日）に有効なものに限る）のいずれかを **2. の別途書類提出先に提出すること（提出後の変更は認めない）。**なお、TOEFL-ITP の成績証明書は受け付けないので注意すること。英語を母国語とする受験者も、TOEFL 等の成績証明書の提出が必要である。なお、受験資格等の問題で TOEFL 等を受験することが困難な場合は、予め **2. に記載する問い合わせ先**まで連絡すること。

2 月 3 日(月)16 時必着(厳守)。郵送の場合は「書留」又は「簡易書留」とすること。※学内便不可

注) TOEFL、IELTS の成績は試験実施日から 2 年間有効である。

提出された TOEFL 等の成績証明書は、口頭試問終了後に返却する。

(c) 志望研究室申告票（様式 1）

「志望研究室申告票」（様式 1）で志望研究室を選択し、その申告票を **2. の別途書類提出先に** (a) の提出期限までに提出すること(期限内必着)。

2. 問い合わせ先・別途書類提出先

〒615-8510 京都市西京区京都大学桂

京都大学桂キャンパス A クラスター事務区教務掛(電気系)

電話 075-383-2077

E-mail : 090kakyomudenki@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

（メールで問い合わせる場合は、電気系志望と記述すること）

HP: https://www.ee.t.kyoto-u.ac.jp/en?set_language=en

VII. 入学後の教育プログラムの選択

修士課程入学後には3種類の教育プログラムが準備されている。本入学試験受験者が選択できるのは(a)「修士課程教育プログラム」のみであるが、入学後の一定の審査を経て、修士課程在学中に(b), (c)「博士課程前後期連携教育プログラム」に移行できる場合がある。

- (a) 修士課程教育プログラム (電気工学専攻・電子工学専攻)
- (b) 博士課程前後期連携教育プログラム 融合工学コース (融合光・電子科学創成分野)
- (c) 博士課程前後期連携教育プログラム 高度工学コース (光・電子理工学)

教育プログラムの内容については、工学研究科 HP (「工学研究科教育プログラム」
https://www.t.kyoto-u.ac.jp/en/education/graduate/dosj69/dosj69-en?set_language=en)
および、「VIII. 教育プログラムの内容について」をそれぞれ参照すること。

VIII. 教育プログラムの内容について

【修士課程教育プログラム】

本系専攻においては、電気エネルギー、電気電子システム、光・電子材料とデバイス、電子情報通信などの専門分野における基礎学問の発展と深化、ならびに学際フロンティアの拡充と展開による創造性豊かな工学技術を構築することを目的とした教育と研究を行います。具体的には、電気エネルギーの発生・伝送・変換、超伝導現象の諸応用、大規模シミュレーション、自動制御、量子生体計測や、エレクトロニクスの深化と異分野融合による、超伝導材料、イオンプロセス技術と応用、半導体機能材料、有機ナノ電子物性、電子・光・スピン・量子状態の制御などに関する教育と研究により、基礎から先端技術までの知識を修得して、工学技術開発の基本を体得し、豊かで弾力ある創造性と幅広い視点ならびに意欲的な先進性を有する先端技術研究開発者を育成します。

【融合工学コース(融合光・電子科学創成分野)】

21世紀においては全世界規模で情報処理量とエネルギー消費が爆発的に増大し、既存の材料・概念で構成されるハードウェアの性能限界と地球資源の枯渇が顕著になると予測されています。このような課題の解決に貢献し、光・電子科学分野で世界を先導するためには、電気エネルギー・システム工学、電子工学、量子物性工学、材料科学、化学工学、光機能工学、集積システム工学、量子物理工学など複数の異分野を融合して新しい学術分野を開拓し、かつ当該分野を牽引する若手研究者、高度技術者を育成することが重要です。

本教育プログラムでは、光・電子科学に関わる融合領域を開拓する教育研究を通じて、新しい学術分野における高い専門的知識・能力に加えて、既存の物理限界を超える概念・機能を創出する革新的創造性を備えた人材の育成を目指します。究極的な光子制御による新機能光学素子や高効率固体照明の実現、極限的な電子制御による耐環境素子や超集積システムの実現、光・スピン・イオンを用いた新機能素子や新規プロセスの開発、強相関電子系物質や分子ナノ物質の創成と物性制御、高密度エネルギーシステムの制御とその基礎理論、新しい物理現象を用いたナノレベル計測とその学理探求などの融合分野において、常に世界を意識した教育研究を推進します。様々な分野で世界的に活躍する教員による基盤的および先端的な講義、各学生の目的に応じたテーラーメイドのカリキュラムやインターンシップ等を活用した教育、光・電子理工学教育研究センターの協力を得て行う先端的融合研究を通じて、広い視野と高い独創性、国際性、自立性を涵養し、光・電子科学分野を牽引する人材を育成します。

【高度工学コース(光・電子理工学)】

高度でインテリジェントな将来型情報通信社会を実現するために必要なハードウェア技術の基礎から最先端研究レベルまでの学習と、デバイスからシステムに至るまで、発展する電気電子フロンティア基盤科学技術の修得を通して、広範な科学知識とフレキシブルな創造性を備えた豊かな人材を育成します。このプログラムの推進する教育及び研究は、光においては、任意の波長、強度、方向の、発光及び受光を可能にして光を自在にあやつり、電子においては、これまでの概念を超えるデバイスや量子効果などを通して、光と電子を極限まで制御することとその理解を目

的とします。フォトニック結晶やワイドギャップ半導体、分子ナノデバイスや量子凝縮系デバイスなどの新規材料・デバイス創成、パワーデバイス、電子・光・イオンによる革新的ナノプロセス、集積システム、環境エネルギーシステムとその制御、量子生体計測など、世界でトップクラスの研究成果を挙げている分野で教育と研究を推進することにより、博士号取得の段階で、自立し、幅広い専門知識を有し、国際的に通用する一流の人材を育成します。

材料化学専攻

I. 志望区分

志望区分	講座・分野	
	(材料化学専攻)	
1 0 1	機能材料設計学講座	
1 0 2	無機材料化学講座	無機構造化学分野
1 0 3	無機材料化学講座	応用固体化学分野
1 0 4	有機材料化学講座	有機反応化学分野
1 0 5	有機材料化学講座	天然物有機化学分野
1 0 6	有機材料化学講座	材料解析化学分野
1 0 7	高分子材料化学講座	高分子機能物性分野
1 0 8	高分子材料化学講座	生体材料化学分野
1 0 9	ナノマテリアル講座	ナノマテリアル分野

II. 募集人員

材料化学専攻 若干名

III. 出願資格

募集要項 Part A「II-i 出願資格」参照

IV. 学力検査日程

(1) 試験日時・試験科目

2月12日(水)	10:00～11:00 英語	12:30～15:30 専門科目Ⅰ	16:00～18:00 専門科目Ⅱ
2月13日(木)	9:00～ 口頭試問		

専門科目Ⅰ: 物理化学および有機化学

専門科目Ⅱ: 無機化学、分析化学、高分子化学、3科目より2科目選択

(2) 試験場

試験は桂キャンパス A クラスターで行う。詳細は、受験票郵送時に指示する。

V. 入学試験詳細

試験室には必ず受験票を携帯し、係員の指示に従うこと。

(1) 筆記試験 (試験開始 15 分前までに入室すること)

(a) それぞれの専門科目受験に際して、自分の電卓使用は許可しない。

(b) 英語科目においては、辞書の持ち込みを認めない。

(c) 携帯電話、スマートウォッチ等の電子機器類は、なるべく試験室に持ち込まないこと。持ち込む場合には、電源を切り、かばんにしまって所定の場所に置くこと。身につけている場合、不正行為と見なされることがあるので注意すること。

(d) 筆記具は鉛筆、万年筆、ボールペン、シャープペンシル、鉛筆削り、消しゴムに限る。

(2) 口頭試問 (午前 8 時 45 分までに控室に入ること)

筆記試験と口頭試問の各結果を合せて可否決定を行う。

VI. 出願要領

志望区分の申請

インターネット出願システムの志望情報入力画面で志望順位 1 位から志望順位 7 位までの区分を選択すること。「I. 志望区分」を参照して申請すること。なお、「IX. その他 (5) 研究内容説明」に記載の専攻ホームページは、さらに各講座・分野（研究室）のホームページにリンクされており、これから研究内容の詳細を参照できる。

なお、指導予定教員と十分面談を重ね、指導予定教員の署名が入った指導予定教員承諾書を事前に A クラスター教務掛に提出すること。

VII. 入学後の教育プログラムの選択

修士課程入学後には 4 種類の教育プログラムが準備されている。履修できる教育プログラムは下記の通りである。

(1) 修士課程教育プログラム

(2) 博士課程前後期連携教育プログラム 高度工学コース（材料化学専攻）

(3) 博士課程前後期連携教育プログラム 融合工学コース（物質機能・変換科学分野）

(4) 博士課程前後期連携教育プログラム 融合工学コース（総合医療工学分野）

いずれのプログラムを履修するかは、受験者の志望と入試成績に応じて決定する。合格決定後の適切な時期に志望を調査するので、合格決定後の指示に従うこと。

詳細については、「I. 志望区分」を参照のこと。また、教育プログラムの内容については、工学研究科 HP (<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/education/graduate/dosj69>) 及び、次項の「VIII. 教育プログラムの内容について」をそれぞれ参照すること。

VIII. 教育プログラムの内容について

【修士課程教育プログラム】

材料化学専攻

科学技術にもとづく社会の高度発展にともない、新物質や新材料開発に対する要請がますます強くなっています。これは、先端科学が現在の生活及び産業基盤を支えていること、またその将来果すべき役割にますます期待が膨らんでいることにほかなりません。化学は、新物質を作る技術に加えて、物質を構成する分子の生い立ちや性質を調べ、物質特有の機能を探索する学問に変貌しつつあります。

材料化学専攻では無機材料、有機材料、高分子材料を中心に、構造と性質を分子レベルで解明しながら、新機能をもつ材料を設計するとともに、その合成方法を確立することを目的として研究・教育をおこなっています。修士課程では、広く材料化学全般にわたる基礎的な知識を習得し、無機材料化学、有機材料化学、あるいは高分子材料化学の分野で先端的な研究を進めることによって、化学工業をはじめとする産業界で研究開発に携る人材を育成すると同時に、博士後期課程に進学してさらに研究を深める人材を養成します。

【高度工学コース】

材料化学専攻

科学技術にもとづく社会の高度発展にともない、新物質や新材料開発に対する要請がますます強くなっています。これは、先端科学が現在の生活及び産業基盤を支えていること、またその将来果すべき役割にますます期待が膨らんでいることにほかなりません。化学は、新物質を作る技術に加えて、物質を構成する分子の生い立ちや性質を調べ、物質特有の機能を探索する学問に変貌しつつあります。

材料化学専攻では無機材料、有機材料、高分子材料を中心に、構造と性質を分子レベルで解明しながら、新機能をもつ材料を設計するとともに、その合成方法を確立することを目的として研究・教育をおこなっています。博士後期課程では、独創的な発想と明敏な洞察力により積極的に材料化学の新領域を切り拓く能力をもった化学者・化学技術者を育成します。

【融合工学コース】

工学研究科 HP (<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/education/graduate/dosj69>)を参照すること。

IX. その他

- (1) 受験票は募集要項にある通り、受験票送付用封筒に記入された住所へ2月上旬に郵送される。
- (2) 試験当日受験票を忘れた受験生は速やかにAクラスター事務区教務掛へその旨を申し出ること。
- (3) 英語の成績証明書・学力評価について

- ・筆記試験及びTOEFL、TOEIC、またはIELTSの成績により評価する。
- ・TOEFLの受験者成績証明書(「Test Taker Score Report」)のETSから紙媒体で送付された原本、IELTSの成績証明書(Test Report Form)原本またはTOEICの公式認定証(Official Score Certificate)(以下、成績証明書と略す)の成績により英語の学力を評価する。ただし、学力考査日(2月12日)から過去2年以内に受験した成績証明書を提出すること。
- ・TOEFLの場合はTOEFL-iBT(internet-Based Test)、TOEFL iBT Home Editionを受け付ける。TOEFLのMy Best Scoreは受け付けない。
- ・TOEICの場合はTOEIC Listening & Reading公開テストのみ受け付ける。TOEFL-ITPやTOEIC-IPなどの団体試験の成績証明書は無効となるので注意されたい。なお、公式認定証(Official Score Certificate)の原本、もしくはTOEICのデジタル公式認定証(Digital Official Score Certificate)を印刷したものを提出すること。
- ・成績証明書は、英語試験の直前に試験室で提出する。提出がない場合及び忘れた場合は、英語の該当部分の得点は0点になる。
- ・成績証明書は、後日1年の年限で、希望する者には返却する。
- ・TOEFL、TOEICまたはIELTS試験の受験から、その成績表が手元に届くまでに1ヶ月近くを要するので、試験日まで十分に余裕をもって受験しておくこと。

各試験の詳細についての問い合わせ先は、それぞれ下記の通り。

TOEFL: ETS Japan 合同会社・TOEFL®テスト日本事務局

TEL: 03-6204-9830、<https://www.toefl-ibt.jp/>

TOEIC: (一財)国際ビジネスコミュニケーション協会

TEL: 03-5521-6033、<http://www.iibc-global.org/toeic.html>

IELTS: (公財)日本英語検定協会

IELTS東京テストセンター TEL: 03-3266-6852

IELTS大阪テストセンター TEL: 06-6455-6286 <http://www.eiken.or.jp/ielts/>

- (4) 問合せ先・連絡先

〒615-8510 京都市西京区京都大学桂

京都大学大学院工学研究科Aクラスター事務区教務掛(材料化学専攻)

電話: 075-383-2077

E-mail: 090kakyomu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

参照: <http://www.mc.t.kyoto-u.ac.jp/ja>

(5) 研究内容説明

区分	講座・分野／研究内容 【材料化学専攻】 http://www.mc.t.kyoto-u.ac.jp/ja	対応する教育プログラム		
		連携教育プログラム		修士課程教育プログラム
		融合工学コース	高度工学コース	
101	機能材料設計学講座 (機能材料設計・無機合成化学・物性化学) 1. 新規機能性酸化物の合成・構造解析・物性評価 2. 層状化合物の構造－物性相関の理解と機能探索 3. 酸化物薄膜成長とデバイス応用 4. 強誘電体・圧電体材料の開発	物質機能・変換 科学分野 総合医療工学 分野	材料化学専攻の定める 教育プログラムに従う	材料化学専攻の定める 教育プログラムに従う
102	無機材料化学講座 無機構造化学分野 (無機構造化学・レーザー科学・アモルファス工学・機能性ナノ材料) 1. 超短パルスレーザーと物質との相互作用 2. 無機ガラスの非平衡熱物性 3. ナノ材料合成と機能化 4. 半導体単結晶の低温変形			
103	無機材料化学講座 応用固体化学分野 (応用固体化学・無機固体物性・機能性無機材料) 1. 酸化物の磁性・磁気光学・スピントロニクス 2. 新しいマルチフェロイクスの開拓 3. ナノ構造を持つ金属・非金属のプラズモニクス 4. ナノ構造を持つ半導体・誘電体による光機能の創出			
104	有機材料化学講座 有機反応化学分野 本区分は、今年度の募集は行わない。			
105	有機材料化学講座 天然物有機化学分野 (天然物有機化学・有機合成・有機金属・触媒反応・電子共有有機材料・有機元素化学) 1. ヘテロ元素の特性を活用する機能材料合成 2. 新しい有機金属化合物の合成と機能探索 3. 生物活性有機化合物の合成 4. 遷移金属錯体を用いる触媒反応			
106	有機材料化学講座 材料解析化学分野 (ナノセンシングデバイス・ナノ構造体の電子移動特性・溶液内及び界面電子移動反応・分光電気化学分析) 1. ナノセンシングデバイスの構築と機能評価 2. 導電性ナノ構造体の電子移動特性の解析 3. 溶液内電子移動反応と電極電子移動反応の相関解明 4. 有機電極反応で生成する活性種の電気化学及び分光分析			
107	高分子材料化学講座 高分子機能物性分野 (高分子レオロジー・多相系高分子材料・生体材料物性・生体組織工学) 1. 高分子材料の分子構造とレオロジー的性質 2. 高分子ゲルの物理化学 3. 高分子不均質系の相構造と物理的性質 4. 生体関連物質及び生体組織の力学特性			
108	高分子材料化学講座 生体材料化学分野 (高分子材料化学・生物高分子材料・生体機能材料・バイオマテリアル) 1. 人ロタンパク質・ペプチドの合成を目指した重合反応の開拓 2. ペプチド集合体からなるナノマテリアルの創出 3. 天然高分子に倣った人工タンパク質材料の開発 4. 糖化ペプチドによる生体材料の創出			
109	ナノマテリアル講座 ナノマテリアル分野 本区分は、今年度の募集は行わない。			

物質エネルギー化学専攻

I. 志望区分

志望区分	講座・分野
201	エネルギー変換化学講座
202	基礎エネルギー化学講座 工業電気化学分野
203	基礎エネルギー化学講座 機能性材料化学分野
204	基礎物質化学講座 基礎炭化水素化学分野
205	基礎物質化学講座 先端医工学分野 基礎物質化学講座 励起物質化学分野（今年度は募集しない）
206	触媒科学講座 触媒機能化学分野
207	触媒科学講座 触媒有機化学分野
208	触媒科学講座 触媒設計工学分野
209	物質変換科学講座 有機分子変換化学分野
210	物質変換科学講座 構造有機化学分野
211	物質変換科学講座 遷移金属錯体化学分野
212	同位体利用化学講座（今年度は募集しない）
213	有機機能化学講座
申告方法	インターネット出願システムの志望情報入力画面で第一志望の区分を選択すること

II. 募集人員

物質エネルギー化学専攻 若干名

III. 出願資格

募集要項 Part A「II - i 出願資格」参照

IV. 学力検査日程

2月12日（水）	10：30～11：30 英語	13：00～16：00 物理化学、無機化学
2月13日（木）	9：00～12：00 有機化学、分析化学	13：00～ 口頭試問

V. 入学試験詳細

[物理化学、無機化学] [有機化学、分析化学] はすべて必須問題。

(1) 有資格者及び合格者決定方法

筆記試験および口頭試問の結果に基づいて合否判定を行う。

(2) 学力検査（筆記試験）に関する注意事項

- i 試験室には必ず受験票を携帯し、係員の指示に従うこと。
- ii 試験に使用を許す筆記用具は、鉛筆・ボールペン・シャープペンシル・鉛筆削り・消しゴムに限る。
- iii 試験時間中の携帯電話やスマートフォンの使用は禁止する。スマートウォッチも使用不可。携帯電話等の電子機器類は、なるべく試験室に持ち込まないこと。持ち込む場合には、電源を切り、かばんにしまって所定の場所に置くこと。身につけている場合、不正行為とみなします。
- iv 英語の試験では、辞書の使用を許可しない。
- v 物理化学、無機化学、有機化学、分析化学の試験では、必要があれば電卓を貸与する。
- vi 筆記試験開始後 30 分以上遅刻した者の入室は認めない。また、試験中の途中退室は認めない。

(3) 英語の成績証明書・学力評価について

- ・筆記試験及び TOEFL、TOEIC、または IELTS の成績により評価する。
- ・TOEFL の受験者成績証明書（「Test Taker Score Report」）の ETS から紙媒体で送付された原本、IELTS の成績証明書（Test Report Form）原本または TOEIC の公式認定証（Official Score Certificate）（以下、成績証明書と略す）の成績により英語の学力を評価する。ただし、学力考查日（2 月 13 日）から過去 2 年以内に受験した成績証明書を提出すること。
- ・TOEFL の場合は TOEFL-iBT（internet-Based Test）、TOEFL iBT Home Edition を受け付ける。TOEFL の My Best Score は受け付けない。
- ・TOEIC の場合は TOEIC Listening & Reading 公開テストのみ受け付ける。公式認定証（Official Score Certificate）の原本、もしくは TOEIC のデジタル公式認定証（Digital Official Score Certificate）を印刷したものを提出すること。なお、TOEFL-ITP や TOEIC-IP などの団体試験の成績証明書は無効であり注意すること。・成績証明書は、英語試験の直前に試験室で提出する。提出がない場合及び忘れた場合は英語の該当部分の得点は 0 点となる。
- ・成績証明書は、後日 1 年の年限で、希望する者には返却する。
- ・TOEFL、TOEIC または IELTS 試験の受験から、その成績表が手元に届くまでに 1 ヶ月近くを要するので、試験日まで十分に余裕をもって受験しておくこと。

各試験の詳細についての問い合わせ先は、それぞれ下記の通り。

TOEFL：ETS Japan 合同会社・TOEFL[®]テスト日本事務局

TEL: 03-6204-9830、<https://www.toefl-ibt.jp/>

TOEIC：（一財）国際ビジネスコミュニケーション協会

TEL: 03-5521-6033、<http://www.iibc-global.org/toEIC.html>

IELTS：（公財）日本英語検定協会

IELTS 東京テストセンター TEL: 03-3266-6852

IELTS 大阪テストセンター TEL: 06-6455-6286 <http://www.eiken.or.jp/ielts/>

(4) 試験会場と集合要項

入学試験第一日目に、以下の要項で集合すること。

日 時：2025 年 2 月 12 日（水）10 時 15 分〔試験開始 15 分前〕

場 所：京都大学桂キャンパス A2-303 講義室（試験会場）〔A2 棟 3 階〕

入学試験第二日目は、以下の要項で集合すること。

日 時：2025 年 2 月 13 日（木）8 時 45 分〔試験開始 15 分前〕

場 所：京都大学桂キャンパス A2-303 講義室（試験会場）〔A2 棟 3 階〕

(5) 口頭試問の実施要項

口頭試問は上記の学力検査日程表に示された時間に実施する。必要があれば時間割を配付する。各自の試問開始時刻の 10 分前に京都大学桂キャンパス A2-218 号室〔A2 棟 2 階〕に集合すること。

試 問 日：2025 年 2 月 13 日（木）

試 験 場：京都大学桂キャンパス A2-123 物質エネルギー化学セミナー室（試験会場）
〔A2 棟 1 階〕

VI. 出願要領

(1) 志望区分の申請

IX. その他の「教員・研究内容説明書」を参照して、インターネット出願システムの志望情報入力画面で第一志望の区分を選択すること。なお、指導予定教員と十分面談を重ね、指導予定教員の署名が入った指導予定教員承諾書を事前に A クラスター教務掛に提出すること。

(2) 問合せ先・連絡先

〒615-8510 京都市西京区京都大学桂

京都大学桂 A クラスター事務区教務掛（物質エネルギー化学専攻）

電話：075-383-2077

E-mail：090kakyomu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

参照：http://www.eh.t.kyoto-u.ac.jp/ja

VII. 入学後の教育プログラムの選択

修士課程入学後には5種類の教育プログラムが準備されている。本専攻の入試に合格することにより履修できる教育プログラムは下記の通りである。

- (1) 博士課程前後期連携教育プログラム 融合工学コース（物質機能・変換科学分野）
- (2) 博士課程前後期連携教育プログラム 融合工学コース（生命・医工融合分野）
- (3) 博士課程前後期連携教育プログラム 融合工学コース（総合医療工学分野）
- (4) 博士課程前後期連携教育プログラム 高度工学コース（物質エネルギー化学専攻）
- (5) 修士課程教育プログラム 物質エネルギー化学専攻

いずれのプログラムを履修するかは、受験者の志望と入試成績に応じて決定する。合格決定後の適切な時期に志望を調査するので、合格決定後の指示に従うこと。

詳細については、IX. その他の「教員・研究内容説明書」を参照のこと。また、教育プログラムの内容については、ホームページ <https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/education/graduate/dosj69> 及び、次項の「VIII. 教育プログラムの内容について」をそれぞれ参照すること。

VIII. 教育プログラムの内容について（高度工学コース・修士課程教育プログラム）

【連携プログラム 高度工学コース】

21世紀における人類の持続的発展を可能とするためには、科学技術の質的発展、とりわけ、最少の資源と最少のエネルギーを用い、環境への負荷を最小にして、高い付加価値を有する物質と質の良いエネルギーを得てこれを貯蔵する技術、資源の循環およびエネルギーの高効率利用をはかる技術の創成が必要とされています。このためには、物質とエネルギーに関する新しい先端科学技術の開拓が不可欠であり、物質変換およびエネルギー変換を支える化学は、その中心に位置する学術領域です。物質エネルギー化学専攻では、この要請に応えるために、高度な学術研究の実践による学知の豊かな発展を通して人類の福祉に貢献すること、社会が求める人類と自然の共生のための新しい科学技術を創造し、それを担う人材を育成します。

このために、第一に、基礎化学の系統的な継承と学理の深化、第二にそれに基づいた創造性の高い応用化学の展開を通じて、上記の学術活動を行います。また、創造的で当該分野を質的に発展させる契機をもたらすスケールの大きな先端的研究、世界をリードする研究を目指すと共に、問題発見、課題設定、問題解決を自律的に行うことができ、かつ社会的倫理性の高い人材を継続的に育成することを目標としています。

【修士課程教育プログラム】

21世紀における人類の持続的発展のためには、最少の資源と最少のエネルギーを用い、環境への負荷を最小にして、高い付加価値を有する物質と質の良いエネルギーを得てこれを貯蔵する技術、資源の循環およびエネルギーの高効率利用をはかる技術の創成が必要とされています。このためには、物質とエネルギーに関する新しい先端科学技術の開拓が不可欠であり、物質変換およびエネルギー変換を支える化学は、その中心に位置する学術領域です。物質エネルギー化学専攻では、この要請に応えるために、高度な学術研究による学知の豊かな発展を通じて人類の福祉に貢献すること、社会が求める人類と自然の共生のための新しい科学技術を創造し、それを担う人材を育成することを目指しています。第一に学理の深化、第二にそれに基づいた創造性の高い応用化学の展開によって、課題設定、問題解決を自律的に行うことができ、かつ社会的倫理性の高い人材を育成します。

IX. その他

教員・研究内容説明書

区分	研究内容	対応する教育プログラム		
		連携教育プログラム		修士課程教育プログラム
		融合工学コース	高度工学コース	
201	エネルギー変換化学講座 (教授：陰山 洋、准教授：高津 浩、吉田 傑、助教：加藤大地) 無機固体化学、複合アニオン化合物などの合成と機能性開拓、新しい反応法の開拓、次世代に繋がる超伝導材料、磁性体、誘電体、電池材料、触媒などの新機能材料開発	物質機能・変換科学分野		
202	基礎エネルギー化学講座、工業電気化学分野 (教授：安部武志、准教授：宮崎晃平、助教：宮原雄人、辻本尚大) 電気化学、リチウム電池や燃料電池の反応とその材料、界面における電子・イオンの移動、イオン導電性材料、ナノ材料の合成	物質機能・変換科学分野		
203	基礎エネルギー化学講座、機能性材料化学分野 (教授：作花哲夫、准教授：西 直哉、助教：横山悠子) 界面科学、界面現象と界面構造形成、界面の分光化学的解析、油水2相およびイオン液体をもちいる機能性柔軟界面の構築	物質機能・変換科学分野		
204	基礎物質化学講座、基礎炭化水素化学分野 (教授：大江浩一、准教授：三木康嗣、助教：MU HUIYING) 有機活性種化学、均一系触媒有機合成反応の開発、マクロサイクル化合物の新合成法開発、光機能性集積芳香族化合物創製、腫瘍イメージング	物質機能・変換科学分野、総合医療工学分野		
205	基礎物質化学講座、先端医工学分野 (教授：近藤輝幸、准教授：木村 祐、助教：三浦理紗子) 疾患特異的分子プローブ、および診断と治療を同時に実現するセラノステックプローブの設計・合成・機能評価、均一系触媒を用いる機能性分子の原子効率的合成	物質機能・変換科学分野、生命・医工融合分野、総合医療工学分野		
	基礎物質化学講座、励起物質化学分野（今年度は募集しない）		物質エネルギー学専攻の定育う	物質エネルギー学専攻の定育う
206	触媒科学講座、触媒機能化学分野 (教授：阿部 竜、講師：中田明伸、助教：富田 修、鈴木 肇) 太陽光エネルギー変換（水からの水素製造および二酸化炭素の還元再資源化）のための新規光触媒開発、環境汚染物質浄化のための光触媒開発、新規手法による半導体微粒子の合成と機能化	物質機能・変換科学分野		
207	触媒科学講座、触媒有機化学分野 (教授：藤原哲晶、講師：仙波一彦) 新規遷移金属錯体触媒の開発、反応機構解明ならびに機能開拓、環境保全に資する高効率分子変換反応の開発	物質機能・変換科学分野		
208	触媒科学講座、触媒設計工学分野 (准教授：松井敏明、助教 成瀬晨司) 燃料電池構成材料と電極反応、炭化水素からの水素製造触媒、環境浄化やエネルギー変換のための無機材料、機能性無機材料の物性評価	物質機能・変換科学分野		
209	物質変換科学講座、有機分子変換化学分野 (教授：中村正治、准教授：磯崎勝弘、講師：PINCELLA FRANCESCA、助教：道場貴大、中川由佳、峰尾恵人) 新たな有機金属反応活性種の創出と新規機能性有機分子および超分子の創製による化学資源活用型の有機合成反応の開発	物質機能・変換科学分野		
210	物質変換科学講座、構造有機化学分野 (教授：村田靖次郎、准教授：廣瀬崇至、助教：橋川祥史) 機能性バイ共役分子の設計・合成・機能開発、開口ならびに内包フラレーンの有機合成と物性探索、らせん構造をもつ新規ナノカーボンの合成、有機電子デバイスの作製と特性評価	物質機能・変換科学分野		
211	物質変換科学講座、遷移金属錯体化学分野 (教授：大木靖弘、助教：谷藤一樹、伊豆 仁) 遷移金属クラスター錯体の設計・合成および反応性開拓、エネルギー変換を志向した分子触媒の開発、金属-硫黄タンパクの生物無機化学	物質機能・変換科学分野		
212	同位体利用化学講座（今年度は募集しない）	物質機能・変換科学分野		

213	有機機能化学講座 (教授：深澤愛子) 新奇パイ共役分子の設計・合成法の開発および機能開拓、典型元素の特性を生かした機能性材料の創製、生命システムの解明と操作のための機能性分子ツールの創製	物質機能・変換科学分野		
-----	--	-------------	--	--

詳しい研究内容については、ホームページ <http://www.eh.t.kyoto-u.ac.jp/ja> を参照

分子工学専攻

I. 志望区分

志望区分	講座・分野
	(分子工学専攻)
3 0 1	生体分子機能化学講座
3 0 2	分子理論化学講座
3 0 3	量子機能化学講座
3 0 4	応用反応化学講座 触媒反応化学分野
3 0 5	応用反応化学講座 光有機化学分野
3 0 6	応用反応化学講座 物性物理化学分野
3 0 7	分子材料科学講座 量子物質科学分野
3 0 8	分子材料科学講座 分子レオロジー分野
3 0 9	分子材料科学講座 有機分子材料分野
3 1 0	分子材料科学講座 量子分子科学分野
3 1 1	分子材料科学講座 細孔物理化学分野

II. 募集人員

分子工学専攻 若干名

III. 出願資格

募集要項 Part A「II - i 出願資格」参照

IV. 学力検査日程

(1) 試験日時・試験科目

2月12日(水)	10:30～11:30 英語 (辞書の使用不可)	13:00～16:00 専門科目Ⅰ (物理化学及び無機化学)
2月13日(木)	9:00～12:00 専門科目Ⅱ (有機化学及び分析化学)	13:00～ 口頭試問

(2) 試験場

試験は桂キャンパス A クラスタで行う。詳細については、受験票郵送時に指示する。

V. 入学試験詳細

(1) 学力検査（筆記試験）に関する注意事項

- 試験第1日目は、試験開始15分前までに試験会場に集合すること。
- 試験室には必ず受験票を携帯し、係員の指示に従うこと。
- 試験に使用を許す筆記用具は、鉛筆・万年筆・ボールペン・シャープペンシル・鉛筆削り・消しゴムに限る。
- 携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチ等の電子機器類は、電源を切り、かばんにしまって所定の場所に置くこと。身につけている場合、不正行為とみなされることがあるので注意すること。
- 英語の試験では、辞書の使用を許可しない。
- それぞれの専門科目受験に際して、自分の電卓の持ち込みは許可しない。

(2) 英語の成績証明書・学力評価について

- ・筆記試験及び TOEFL、TOEIC、または IELTS の成績により評価する。
- ・TOEFL の受験者成績証明書（「Test Taker Score Report」）の ETS から紙媒体で送付された原本、IELTS の成績証明書（Test Report Form）原本または TOEIC の公式認定証（Official Score Certificate）または IELTS の成績証明書（Test Report Form）（以下、成績証明書と略す）の成績により英語の学力を評価する。ただし、学力考查日（2 月 12 日）から過去 2 年以内に受験した成績証明書を提出すること。
- ・TOEFL の場合は TOEFL-iBT（internet-Based Test）、TOEFL iBT Home Edition を受け付ける。TOEFL の My Best Score は受け付けない。
- ・TOEIC の場合は TOEIC Listening & Reading 公開テストのみ受け付ける。TOEFL-ITP や TOEIC-IP などの団体試験の成績証明書は無効となるので注意されたい。なお、公式認定証（Official Score Certificate）の原本、もしくは TOEIC のデジタル公式認定証（Digital Official Score Certificate）を印刷したものを提出すること。
- ・成績証明書は、英語試験の直前に試験室で提出する。提出がない場合及び忘れた場合は、英語の該当部分の得点は 0 点になる。
- ・成績証明書は、後日 1 年の年限で、希望する者には返却する。
- ・TOEFL、TOEIC または IELTS 試験の受験から、その成績表が手元に届くまでに 1 ヶ月近くを要するので、試験日まで十分に余裕をもって受験しておくこと。

各試験の詳細についての問い合わせ先は、それぞれ下記の通り。

TOEFL：ETS Japan 合同会社・TOEFL®テスト日本事務局

TEL: 03-6204-9830、<https://www.toefl-ibt.jp/>

TOEIC：（一財）国際ビジネスコミュニケーション協会

TEL: 03-5521-6033、<http://www.iibc-global.org/toeic.html>

IELTS：（公財）日本英語検定協会

IELTS 東京テストセンター TEL: 03-3266-6852

IELTS 大阪テストセンター TEL: 06-6455-6286 <http://www.eiken.or.jp/ielts/>

(3) 有資格者及び合格者決定方法

筆記試験および口頭試問の結果に基づいて合否判定を行う。

VI. 出願要領

志望区分の申請

インターネット出願システムの志望情報入力画面で志望順位 1 位から志望順位 10 位までの区分を選択すること。「X. 研究内容説明」を参照して申請すること。なお、「研究内容説明」に記載の専攻ホームページは、さらに各講座・分野（研究室）のホームページにリンクされており、これから研究内容の詳細を参照できる。

これらを基に指導予定教員へ連絡し、十分面談を重ね、指導予定教員の署名が入った指導予定教員承諾書を事前に A クラスター教務掛に提出すること。

VII. 入学後の教育プログラムの選択

修士課程入学後には 5 種類の教育プログラムが準備されている。本専攻の入試に合格することにより履修できる教育プログラムは下記の通りである。

- (1) 博士課程前後期連携教育プログラム 融合工学コース（物質機能・変換科学分野）
- (2) 博士課程前後期連携教育プログラム 融合工学コース（生命・医工融合分野）
- (3) 博士課程前後期連携教育プログラム 融合工学コース（総合医療工学分野）
- (4) 博士課程前後期連携教育プログラム 高度工学コース（分子工学専攻）
- (5) 修士課程教育プログラム 分子工学専攻

いずれのプログラムを履修するかは、受験者の志望と入試成績に応じて決定する。合格決定後の

適切な時期に志望を調査するので、合格決定後の指示に従うこと。

詳細については、「X. 研究内容説明」を参照のこと。また、教育プログラムの内容については、工学研究科 HP (<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/education/graduate/dosj69>) 及び、次項の「Ⅷ. 教育プログラムの内容について」をそれぞれ参照すること。

Ⅷ. 教育プログラムの内容について

【連携プログラム 融合工学コース】

工学研究科 HP (<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/education/graduate/dosj69>) 参照。

なお、分子工学専攻は、物質機能・変換科学分野、生命・医工融合分野および総合医療工学分野に対応。

【連携プログラム 高度工学コース】

分子工学専攻

分子工学専攻では物理化学的な見地にに基づき、生体物質から、有機物質、無機物質、さらに高分子物質に至るまでの広範な物質群を対象として、分子科学、分子工学に関する基礎科学を追及すると共に、時代が必要とする先端技術の開拓を目的として、研究・教育を行っています。博士課程では、豊かな総合性と国際性を有し、分子に対する本質的理解と広範な知識に基づいて独創的な研究・技術開発を推進する能力を有する化学者の育成を目的としています。また主体的に研究を計画、立案し、実験を行い、国際的に発信できるような高度な研究者・技術者を育成します。

【修士課程教育プログラム】

分子工学専攻

化学は物質の変換を扱う学問であるとともに、物性を電子構造・分子の配列と相互作用などとの関連で論じ、新しい機能をもつ分子や材料の設計を行う学問としてますますその分野を広げつつあります。分子工学は、原子・分子・高分子などがかかわる微視的現象を対象とする基礎学問を支柱として、原子・分子・高分子の相互作用を理論的、実験的に解明し、その成果を分子レベルで直接工学に応用する新しい学問領域であり、その重要性は化学の新しい展開の中で、強く認識されています。特にわが国では、分子工学による先端的技術の発展に大きな期待が寄せられています。新しい電子材料、分子生物学における機能性物質、高性能の有機・無機・高分子材料、高選択性触媒、エネルギー・情報関連材料などの開発は、現在分子工学で対象とすべき重要な研究テーマです。

分子工学専攻は、分子論的視野に立ち、斬新な発想で基礎から応用への展開ができる研究者・技術者を育成します。

Ⅸ. その他

- (1) 受験票は、受験票送付用封筒に記入された住所へ2月上旬に郵送する。
- (2) 試験当日、受験票を忘れた受験生は、速やかにAクラスター事務区教務掛にその旨を申し出ること。
- (3) 問合せ先・連絡先

〒615-8510 京都市西京区京都大学桂

京都大学大学院工学研究科 A クラスター事務区教務掛（分子工学専攻）

電話：075-383-2077

E-mail：090kakyomu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

参照：<http://www.ml.t.kyoto-u.ac.jp/ja/>

X. 研究内容説明

(分子工学 : <http://www.ml.t.kyoto-u.ac.jp/ja/>)

区分	研究内容	対応する教育プログラム		
		連携教育プログラム		修士課程教育プログラム
		融合工学コース	高度工学コース	
301	<u>生体分子機能化学講座</u> 本区分は、今年度、募集は行わない。	物質機能・変換科学分野、生命・医工融合分野、総合医療工学分野		
302	<u>分子理論化学講座</u> 量子化学・統計力学理論の開発と応用、溶液、蛋白質など凝縮系・材料における化学反応・化学過程のダイナミクスと機構の解明、分子と光の相互作用、分子量子ダイナミクスとその制御 http://www.riron.moleng.kyoto-u.ac.jp/	物質機能・変換科学分野		
303	<u>量子機能化学講座</u> 本区分は、今年度、募集は行わない。	物質機能・変換科学分野		
304	<u>応用反応化学講座 触媒反応化学分野</u> 不均一系および均一系触媒の設計・開発およびそれらを用いた触媒反応の基礎化学、環境触媒、固体酸塩基触媒、光触媒、電極触媒、触媒反応ダイナミクス、触媒物性と機能発現 http://www.moleng.kyoto-u.ac.jp/~moleng_04/	物質機能・変換科学分野		
305	<u>応用反応化学講座 光有機化学分野</u> 人工光合成系の構築、有機太陽電池の開発、ナノカーボン材料の創製、典型元素の特性を活かした機能性有機材料の開発 http://www.moleng.kyoto-u.ac.jp/~moleng_05/	物質機能・変換科学分野		
306	<u>応用反応化学講座 物性物理化学分野</u> 物性物理化学全般(光機能分子設計・物性計測・反応解析・活性過渡種)、機能分子設計～合成～評価、高分子物性、分子集合体物性、ナノ構造物性、過渡分光分析、電子物性評価、電子素子形成 http://www.moleng.kyoto-u.ac.jp/~moleng_06/en/index.html	物質機能・変換科学分野	分子工学専攻の定める教育プログラムに従う	分子工学専攻の定める教育プログラムに従う
307	<u>分子材料科学講座 量子物質科学分野</u> 無機スピン-フォトンクス材料の創製、ダイヤモンド中の発光中心、超高感度・超高分解能センサ、バイオイメージング、量子情報素子、ダイヤモンド高品質化 http://mizuochilab.kuicr.kyoto-u.ac.jp/indexE.html	物質機能・変換科学分野		
308	<u>分子材料科学講座 分子レオロジー分野</u> 高分子の物理化学、粒子分散系の構造と物性、ゲルの物性と構造形成、複雑系のレオロジー特性と分子構造・ダイナミクス、反応系の不均質性と運動状態 https://molrheo.kuicr.kyoto-u.ac.jp/	物質機能・変換科学分野		
309	<u>分子材料科学講座 有機分子材料分野</u> 有機デバイス(特に有機エレクトロルミネッセンスと有機太陽電池)の創製と基礎科学の構築、有機デバイス応用のための有機および高分子合成、固体NMRおよびDNP-NMRによる構造・有機デバイス機能相関の解明 https://scl.kyoto-u.ac.jp/~moma/	物質機能・変換科学分野		
310	<u>分子材料科学講座 量子分子科学分野</u> 振電相互作用、機能性分子の理論設計、反応性指標 https://www.fukui.kyoto-u.ac.jp/	物質機能・変換科学分野		
311	<u>分子材料科学講座 細孔物理化学分野</u> 多孔質物質の水の浄化への応用、多孔質物質のガス分離への応用、化学/生化学における多孔質の基礎的な構造特性研究と応用 http://pureosity.org/	物質機能・変換科学分野		

高分子化学専攻

I. 志望区分

区分	講座・分野 研究内容	対応する教育プログラム		
		連携教育プログラム		修士課程教育プログラム
		融合工学コース	高度工学コース	
401	<u>先端機能高分子講座</u> 今年度は募集しない	物質機能・変換科学分野 生命・医工融合分野 総合医療工学分野		
402	<u>高分子合成講座・機能高分子合成分野</u> 分子設計、機能性高分子、超分子ポリマー、自己集合、導電性高分子、特異構造高分子、コロイド、自己修復材料、分子認識、刺激応答性、分子マシン、ゲル、ソフトマテリアル			
403	<u>高分子合成講座・高分子生成論分野</u> 高分子合成、精密重合、リビング重合、ラジカル重合、カチオン重合、機能性高分子、高分子精密合成、重合触媒設計、重合中間体の化学、配列制御、環状高分子、両親媒性ランダムコポリマー			
404	<u>高分子合成講座・重合化学分野</u> 重合化学、有機合成化学、元素化学、無機高分子、ヘテロ原子含有共役系高分子、有機-無機ハイブリッド材料、機能性高分子、環境応答性高分子、生体関連高分子、分子環境計測、分子イメージング			
405	<u>高分子合成講座・生体機能高分子分野</u> 生体関連高分子の自己組織化と機能、バイオインスパイアード科学、バイオミメティクス材料、タンパク質工学、糖鎖工学、ゲルマテリアル工学、バイオ・医療応用、人工細胞リボソーム工学			
406	<u>高分子物性講座・高分子機能学分野</u> 高分子ナノ構造、高分子光・電子物性、有機薄膜太陽電池、光化学、光物理学、高分子薄膜、電子移動、分光法	物質機能・変換科学分野	高学 分 子 化 の 専攻 の 教 育 プ ロ グ ラ ム に 従 う	高学 分 子 化 の 専攻 の 教 育 プ ロ グ ラ ム に 従 う
407	<u>高分子物性講座・高分子分子論分野</u> 高分子溶液学、光・小角X線散乱法、粘度法を用いた高分子溶液の性質の解明、溶液中の孤立高分子、高分子鎖ダイナミクス、高分子集合体の分子論的理解			
408	<u>高分子物性講座・基礎物理化学分野</u> 高分子物性に関する理論・計算機シミュレーション・実験、高分子系の相転移、相転移ダイナミクス、高分子レオロジー、ゲルの物理化学、高分子の結晶化機構			
409	<u>高分子設計講座・高分子物質科学分野</u> 高分子構造、高分子固体物性、高分子高次構造解析と制御、高分子系の相転移のダイナミクス、中性子・X線・光散乱、光学・電子顕微鏡、ブロックコポリマーの誘導自己組織化、高分子結晶			
410	<u>高分子設計講座・高分子材料設計分野</u> 精密重合法による高分子材料合成、高分子の構造・物性解析、精密反応解析、リビングラジカル重合の基礎と応用、グラフト重合による表面・界面制御、機能性複合微粒子			
411	<u>高分子設計講座・高分子制御合成分野</u> 制御重合、精密高分子合成、リビング重合、ラジカル重合、ラジカル反応、環状π共役分子、有機合成化学、元素化学、機能性材料、ソフトマテリアル、高分子結晶	生命・医工融合分野 物質機能・変換科学分野 総合医療工学分野		
412	<u>医用高分子講座・生体材料科学分野</u> 先端医療を目指したバイオマテリアルの設計・合成・評価に関する研究、再生医療工学（ティッシュエンジニアリング）、ドラッグデリバリーシステム（DDS）、幹細胞工学、再生誘導用材料・デバイス、医薬用材料・デバイス、生物研究用材料・デバイス、医療用材料・デバイス			
413	<u>医用高分子講座・発生システム制御分野</u> 再生医療、幹細胞工学、細胞生物学、発生生物学、多細胞動態、医療用デバイス			

研究内容の詳細については <https://www.pc.t.kyoto-u.ac.jp/ja/> を参照のこと。

Ⅱ. 募集人員

若干名

Ⅲ. 出願資格

本募集要項 Part A 「Ⅱ－i 出願資格」参照

Ⅳ. 学力検査日程

(1) 試験日時・試験科目

2月12日 (水)	10:00～12:00 英語（筆記試験）	13:00～16:00 専門科目Ⅰ（高分子化学）
2月13日 (木)	9:00～12:00 専門科目Ⅱ（有機化学） 専門科目Ⅲ（物理化学）	13:00～ 口頭試問

(2) 試験場

桂キャンパス A2 棟 307 号室（化学系講義室 4）

Ⅴ. 入学試験詳細

(1) 学科試験

試験当日は開始 20 分前までに指定された試験室前に集合し、係員の指示に従うこと。試験開始時刻から 30 分経過したあとは入室できない。また、試験開始後、当該科目の試験時間中は退室を認めない。なお、専門科目の試験時には、受験者全員に関数電卓を貸し出す。使用できる筆記用具は、鉛筆・万年筆・ボールペン・シャープペンシル・鉛筆削り・消しゴムに限る。携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチ等の電子機器類は、電源を切り、カバンにしまって所定の場所に置くこと。身につけている場合、不正行為と見なすので注意すること。

〔英語〕配点 200 点

専攻が実施する筆記試験（100 点）と TOEFL 成績証明書（100 点に換算）の結果を合計する。

筆記試験：受験者は筆記試験を受ける。

TOEFL：受験者は TOEFL スコア票（「Test Taker Score Report」）のうち、ETS から紙媒体で送付された原本（コピーや 受験者自身で印刷したものは不可）を提出する。なお、Test Date スコアのみ利用し、MyBest™スコアおよび、TOEFL iBT Home Edition のスコアは認められない。また、TOEFL-ITP の成績証明書も受け付けないので注意すること。TOEFL の成績を 100 点満点に換算し、評価する。提出がない場合は、英語の該当部分の得点は 0 点となる。なお、成績証明書は口頭試問時に返却する。

〔専門科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ〕配点はⅠが 200 点、Ⅱ・Ⅲが 100 点ずつ

(2) 口頭試問

試験当日は開始 10 分前までに指定された試験室前に集合し、係員の指示に従うこと。

(3) 合格者決定方法

学科試験と口頭試問の各結果に基づき合格者を決定する。

Ⅵ. 出願要領

「I. 志望区分」を参照して、インターネット出願システムの志望情報入力画面にて志望区分を選択し、

事前に志望区分の申請を行うこと。

京都大学工学部理工化学科以外の他大学・他学科を卒業見込みの留学生出願者について

京都大学工学部理工化学科以外の他大学・他学科を卒業見込み（あるいは卒業）の留学生は、志望区分で志望順位 1 位とする講座・分野の教員に必ず事前連絡のうえ、指導予定教員と十分面談を重ね、指導予定教員の署名が入った指導予定教員承諾書を A クラスター教務掛に提出すること。また、外国の大学を卒業見込み（あるいは卒業）の場合は、志望区分で志望順位 1 位とする講座・分野の教員と事前連絡をとる前に必ずアドミッション支援オフィス（Admissions Assistance Office/AAO）で手続きを行ってください。詳しくは、以下のホームページに掲載していますので、確認してください。

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/international/students1/study1/graduate/graduateinfo/ku-aao/index.html/>

Ⅶ. 本専攻独自の提出書類

(1) TOEFL スコア票（「Test Taker Score Report」）のうち、ETS から紙媒体で送付された原本（コピーや受験者自身で印刷したものは不可）

提出締切：2025 年 1 月 31 日（金）17 時

(2)指導予定教員承諾書

提出締切：2025 年 1 月 15 日（水）17 時

提出場所：(1)、(2)とも京都大学大学院工学研究科 A クラスター事務区教務掛

Ⅷ. 入学後の教育プログラムの選択

修士課程入学後には 5 種類の教育プログラムが準備されている。入試区分「高分子化学専攻」の入試に合格することにより履修できる教育プログラムは以下の通りである。

- (1) 修士課程教育プログラム
- (2) 博士課程前後期連携教育プログラム 高度工学コース（高分子化学専攻）
- (3) 博士課程前後期連携教育プログラム 融合工学コース（物質機能・変換科学分野）
- (4) 博士課程前後期連携教育プログラム 融合工学コース（生命・医工融合分野）
- (5) 博士課程前後期連携教育プログラム 融合工学コース（総合医療工学分野）

いずれのプログラムを履修するかは、受験者の志望と入試成績に応じて決定する。合格決定後の適切な時期に志望を調査するので、合格決定後の指示に従うこと。

詳細については「Ⅰ. 志望区分」を、また教育プログラムの内容については次項の「Ⅷ. 教育プログラムの内容について」を参照すること。

Ⅸ. 教育プログラムの内容について

【修士課程教育プログラム】

高分子は、現代生活を支える必需物資として、また先端科学技術を実現する機能材料として、幅広い領域に展開しており、今後も高分子が活躍する分野はますます拡大し、人間社会における重要性も増大するものと思われます。そこで、本専攻では、高分子化学をベースに先端領域での研究開発において活躍できる研究者・技術者の養成を行います。高分子の生成、反応、構造、物性、機能についての基礎的な専門知識に関する講義と実践的研究教育を通じて、高分子を基礎とする専門的知識、研究推進能力、学術的倫理性を備えた研究者、技術者を養成します。また、自ら行った研究を的確に位置づけ、その内容と成果を社会に発表できる能力を養成します。

【高度工学コース】

高分子化学専攻は、高分子の基礎的科学（合成、反応、物性、構造、機能）に関する研究を行うとともに、高分子関連の新材料創出と新たな科学技術の開発を目指し、自然と調和した人類社会の発展に貢献することを使命としています。そのため、バイオ、医療、環境、エネルギー、情報、エレクトロニクス等に関わる分野を含めて、幅広い領域に展開しています。21世紀に入って高分子が活躍する分野はますます拡大し、社会における重要性も増大しています。そこで本専攻では、幅広く正確な専門知識の修得、実践的研究教育を通じた研究の企画、提案、遂行能力の養成、研究成果の論理的説明と国際社会に発信する能力の修得、これら三つの目標を設定して教育を行い、高分子を基盤とする先端科学技術領域において国際的に活躍できる独創的な研究能力と豊かな人間性を備えた研究者、技術者を養成します。

【融合工学コース】

工学研究科 HP (<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/education/graduate/dosj69>)を参照すること。

X. その他

試験当日受験票を忘れた受験生は速やかに A クラスター事務区教務掛へその旨を申し出ること。

問合せ先・連絡先

〒615-8510 京都市西京区京都大学桂

京都大学大学院工学研究科 A クラスター事務区教務掛

電話 075-383-2077

電子メール 090kakyomu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

ホームページ <https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/admissions/graduate/exam1/index.html#contact-mc>

合成・生物化学専攻

I. 志望区分

志望区分	講 座 ・ 分 野
5 0 1	有機設計学講座
5 0 2	合成化学講座 有機合成化学分野（本区分は、今年度、募集は行わない。）
5 0 3	合成化学講座 機能化学分野
5 0 4	合成化学講座 物理有機化学分野
5 0 5	合成化学講座 有機金属化学分野
5 0 6	生物化学講座 生物有機化学分野
5 0 7	生物化学講座 分子生物化学分野
5 0 8	生物化学講座 生体認識化学分野
5 0 9	生物化学講座 生物化学工学分野
5 1 0	反応生命化学講座 分子集合体化学分野

II. 募集人員

若干名

III. 出願資格

募集要項 Part A「II－i 出願資格」参照

IV. 学力検査日程

(1) 試験日時・試験科目

2月12日（水）	10：30～11：30 英語	13：00～16：00 専門科目Ⅰ（物理化学【必須】、 無機化学または生物化学【選択】）
2月13日（木）	10：30～12：00 専門科目Ⅱ（有機化学）	13：00～ 口頭試問

(2) 試験場

試験は桂キャンパス A クラスターで行う。詳細は、受験票郵送時に指示する。

V. 入学試験詳細

[英語] 配点 200 点

筆記試験と TOEFL、TOEIC または IELTS の成績により評価。

辞書の使用を許可しない。

[専門科目Ⅰ] 配点 各 300 点 合計 600 点

物理化学は必須。さらに無機化学及び生物化学から 1 科目を選択。

必要な場合には電卓を貸し与えるので、各自の電卓は持ち込まないこと。

[専門科目Ⅱ] 配点 300 点

必要な場合には電卓を貸し与えるので、各自の電卓は持ち込まないこと。

[口頭試問]

試験当日は開始 15 分前までに指定された試験室前に集合し、係員の指示に従うこと。

[有資格者及び合格者決定方法]

筆記試験の成績および口頭試問の評価を総合して合否判定を行う。

(1) 学力検査に関する注意事項（筆記試験）

- ・試験室には必ず受験票を携帯し、係員の指示に従うこと。
- ・試験開始時間から 30 分以降は入室を認めない。
- ・筆記試験に使用を許す筆記用具は、鉛筆・万年筆・ボールペン・シャープペンシル・鉛筆削り・消しゴムに限る。
- ・携帯電話等の電子機器類は、なるべく試験室に持ち込まないこと。持ち込む場合には、電源を切り、カバンにしまって所定の場所に置くこと。身につけている場合、不正行為と見なすので注意すること。

(2) 英語の成績証明書・学力評価について

- ・筆記試験及び TOEFL、TOEIC、または IELTS の成績により評価する。
- ・TOEFL の受験者成績証明書（「Test Taker Score Report」）の ETS から紙媒体で送付された原本、IELTS の成績証明書（Test Report Form）原本または TOEIC の公式認定証（Official Score Certificate）（以下、成績証明書と略す）の成績により英語の学力を評価する。ただし、学力考査日（2 月 13 日）から過去 2 年以内に受験した成績証明書を提出すること。
- ・TOEFL の場合は TOEFL-iBT（internet-Based Test）、TOEFL iBT Home Edition を受け付ける。TOEFL の My Best Score は受け付けない。
- ・TOEIC の場合は TOEIC Listening & Reading 公開テストのみ受け付ける。TOEFL-ITP や TOEIC-IP などの団体試験の成績証明書は無効となるので注意されたい。なお、公式認定証（Official Score Certificate）の原本、もしくは TOEIC のデジタル公式認定証（Digital Official Score Certificate）を印刷したものを提出すること。
- ・成績証明書は、英語試験の直前に試験室で提出する。提出がない場合及び忘れた場合は、英語の該当部分の得点は 0 点になる。
- ・成績証明書は、後日 1 年の年限で、希望する者には返却する。
- ・TOEFL、TOEIC または IELTS 試験の受験から、その成績表が手元に届くまでに 1 ヶ月近くを要するので、試験日まで十分に余裕をもって受験しておくこと。

各試験の詳細についての問い合わせ先は、それぞれ下記の通り。

TOEFL：ETS Japan 合同会社・TOEFL®テスト日本事務局

TEL: 03-6204-9830、<https://www.toefl-ibt.jp/>

TOEIC：（一財）国際ビジネスコミュニケーション協会

TEL: 03-5521-6033、<http://www.iibc-global.org/toEIC.html>

IELTS：（公財）日本英語検定協会

IELTS 東京テストセンター TEL: 03-3266-6852

IELTS 大阪テストセンター TEL: 06-6455-6286 <http://www.eiken.or.jp/ielts/>

VI. 出願要領

志望区分の申請

「IX. 研究内容」を参照して、インターネット出願システムの志望情報入力画面で志望区分を選択すること。

なお、「IX. 研究内容」に記載の各専攻ホームページは、さらに各講座・分野（研究室）のホームページにリンクされており、これから研究内容の詳細を参照できる。

これらを基に指導予定教員へ連絡し、十分面談を重ね、指導予定教員の署名が入った指導予定教員承諾書を事前に A クラスター教務掛に提出すること。

Ⅶ. 入学後の教育プログラムの選択

修士課程入学後には 5 種類の教育プログラムが準備されている。入試区分「合成・生物化学専攻」の入試に合格することにより履修できる教育プログラムは下記の通りである。

- (1) 博士課程前後期連携教育プログラム 融合工学コース (物質機能・変換科学分野)
- (2) 博士課程前後期連携教育プログラム 融合工学コース (生命・医工融合分野)
- (3) 博士課程前後期連携教育プログラム 融合工学コース (総合医療工学分野)
- (4) 博士課程前後期連携教育プログラム 高度工学コース (合成・生物化学専攻)
- (5) 修士課程教育プログラム 合成・生物化学専攻

いずれのプログラムを履修するかは、受験者の志望と入試成績に応じて決定する。合格決定後の適切な時期に志望を調査するので、合格決定後の指示に従うこと。

詳細については、「Ⅸ. 研究内容」を参照のこと。また、教育プログラムの内容については、学生募集要項の Part A「Ⅹ. 修士課程入学後の教育プログラムについて」及び、「Ⅷ. 教育プログラムの内容について」をそれぞれ参照すること。

Ⅷ. 教育プログラムの内容について

【連携プログラム 融合工学コース】

工学研究科 HP (<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/education/graduate/dosj69>)「教育プログラムの内容 (融合工学コース)」参照。

なお、合成・生物化学専攻は、物質機能・変換科学分野、生命・医工融合分野、総合医療工学分野に対応。

【連携プログラム 高度工学コース】

① 専攻における研究・教育の必要性

合成化学と生物化学は独自の発展を遂げてきましたが、近年両者のバリアは急速に狭まる状況にあります。合成化学と生物化学を基軸にした学際領域の研究と教育の推進は、現代社会における資源枯渇・環境負荷への対応、人類の幸福と自然との調和を目的とした中核的学問分野の開拓とそれを担う創造性豊かな人材の育成に必要です。

② 教育の目的

合成・生物化学専攻の高度工学コースにおいては、合成化学と生物化学を基軸とした総合精密科学の次代を担う人材を育成するとともに、健全な自然観・生命観の醸成と持続可能な社会の実現のための新産業基盤技術の創出に貢献する創造性豊かな人材を輩出することを目的としています。

③ 教育の到達目標

電子レベル／分子レベル／ナノレベル／マイクロレベル／バイオレベルでの電子状態／分子構造／反応／物性／機能／システムの発現と制御をそれぞれのレベルにおける最先端の方法論と理論を修得し、修士課程では十分な基礎専門学力に基づいた柔軟な思考力と高い問題解決能力を身につけ、博士課程では幅広い視野と豊かな創造力に基づいたリーダーとして社会に貢献できる研究者・技術者となることを目標としています。

【修士課程教育プログラム】

① 専攻における研究・教育の必要性

21 世紀の科学と技術のあらゆる分野において、物質合成、変換とその制御の重要性が認識され、特に「環境」「エネルギー」「材料」「情報」「食品」「医療」などの分野において「化学」を基盤とした学際領域の開拓とそれを担う創造性豊かな人材の養成が必要とされています。

② 教育の目的

合成・生物化学専攻の修士課程教育プログラムにおいては、物質の構造・物性・反応を理解することにより、多彩な物質と機能を創り出す力および生命現象の物質的基盤を化学からのアプローチにより理解する力を培い、人類の繁栄と幸福、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を育成することを目的とします。

③ 教育の到達目標

合成化学、生物化学及びそれらの融合分野の基礎から最先端にわたる教育と研究を通じ、有機化学・物理化学・錯体化学・生物化学の幅広い学術分野の知識と技術を修得し、柔軟な思考力と十分な専門基礎学力に基づいた斬新な視点からの課題設定・解決能力を身につけることを目標とします。

IX. 研究内容 (<https://www.sc.t.kyoto-u.ac.jp/ja>)

区分	研究内容	対応する教育プログラム		
		連携教育プログラム		修士課程教育プログラム
		融合工学コース	高度工学コース	
501	<u>有機設計学講座</u> 機能分子の合成化学、新規有機金属反応剤のデザイン及び創製、新規精密重合反応の開拓、新しい触媒的不斉反応システムの開拓、キラルらせん高分子の機能開拓	物質機能・変換科学分野 総合医療工学分野		
502	<u>合成化学講座</u> 有機合成化学分野 本区分は、今年度、募集は行わない。			
503	<u>合成化学講座</u> 機能化学分野 分子空間化学、超分子材料化学、超分子触媒の開拓、カーボン空間材料の創製、高分子リン光物質の創製			
504	<u>合成化学講座</u> 物理有機化学分野 物理有機化学、有機機能材料化学、有機ナノテクノロジー、超分子光化学、光応答分子システム、分子エレクトロニクス材料			
505	<u>合成化学講座</u> 有機金属化学分野 有機化学および有機金属化学における新現象の発見、社会的な要求に応える合成反応と機能性有機化合物の開発			
506	<u>生物化学講座</u> 生物有機化学分野 生物有機化学、機能性生命分子のデザインと創製、in vivo有機化学の開拓、超分子バイオマテリアル、ケミカルバイオロジー	物質機能・変換科学分野 生命・医工融合分野 総合医療工学分野	合成・生物化学専攻の定める教育プログラムに従う	合成・生物化学専攻の定める教育プログラムに従う
507	<u>生物化学講座</u> 分子生物化学分野 分子生理学、医化学、がん生物学、分子進化学、分子医工学、ナノセンサーデバイス工学、生体イオン制御、細胞シグナリングとシミュレーション			
508	<u>生物化学講座</u> 生体認識化学分野 生化学、分子生物学、細胞生物学、脳神経生物学、がん生物学、細胞内シグナル伝達、生体金属イオン制御			
509	<u>生物化学講座</u> 生物化学工学分野 微生物ゲノムを基盤とした生物化学・生物工学、極限環境微生物の代謝生理、遺伝子工学、ゲノム工学、生体機能化学、合成生物学、システムズ生物学、生物進化学			
510	<u>反応生命化学講座</u> 分子集合体化学分野 固体分子化学、分子集積化学、錯体機能化学、イオン伝導・輸送体の合成化学、無機-有機複合系非晶質材料、超分子ソフトマテリアル、生体機能制御材料			

問合せ先・連絡先 〒615-8510 京都市西京区京都大学桂

京都大学大学院工学研究科Aクラスター事務区教務掛

電話:075-383-2077

E-mail:090kakyomu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

化学工学専攻

I. 志望区分

志望区分	研究内容	対応する教育プログラム		
		連携教育プログラム (融合工学コース)	連携教育プログラム (高度工学コース)	修士課程教育 プログラム
1	化学工学基礎講座 ソフトマター工学分野 複雑流体・ソフトマターの移動現象や非平衡プロセスに関する基礎的研究、特に、計算機シミュレーションを用いた高分子液体・コロイド分散系・ベシクル・細胞組織などに関する基礎研究	応用力学分野 物質機能・変換 科学分野	化学工学専攻 の定める教育 プログラムに 従う	化学工学専攻 の定める教育 プログラムに 従う
2	化学工学基礎講座 界面制御工学分野 界面制御工学、ナノ拘束空間工学、特に、分子やイオンのナノ細孔空間内特有の挙動と構造、吸着場や液膜場によるナノ粒子群の構造形成と制御、秩序相・固相発生過程の基礎研究	応用力学分野 物質機能・変換 科学分野		
3	化学工学基礎講座 反応工学分野 反応工学、材料反応工学、電気化学反応工学、特に、気相材料合成反応と燃料電池等の電気化学反応プロセスのモデリング、劣質炭素資源の新しい転換プロセスの開発、選択水素化触媒反応プロセスの開発	物質機能・変換 科学分野		
4	化学システム工学講座 分離工学分野 分離工学、吸着工学、乾燥工学、特に、電界、高周波電磁場、放電を利用した分離法・材料プロセスの開発、ナノ材料の合成・エネルギー分野への応用	物質機能・変換 科学分野		
5	化学システム工学講座 エネルギープロセス工学分野 エネルギープロセス工学、材料工学、電子工学、光工学、ナノテクノロジー、特に、自然・再生可能エネルギー生成、高効率エネルギー利用など、資源および環境問題の解決につながる技術の開発	応用力学分野 物質機能・変換 科学分野		
6	化学システム工学講座 材料プロセス工学分野 材料プロセス工学、特に微粒子、ファイバー、多孔質材料の創製、構造制御と機能発現、材料プロセス工学に基づいた新規食品の開発	物質機能・変換 科学分野		
7	化学システム工学講座 プロセスシステム工学分野 プロセスシミュレーション、プロセスの最適設計・操作、プロセス制御・監視・データ解析、マイクロ化学プラントの最適設計・操作に関する研究	応用力学分野 物質機能・変換 科学分野		
8	化学システム工学講座 環境プロセス工学分野 環境プロセス工学、マイクロ化学操作論、環境反応工学、特に、バイオマスの新規転換法の開発、マイクロリアクターの開発と設計・操作論、生分解性プラスチックの分解挙動解析に関する研究	物質機能・変換 科学分野		
10	化学システム工学講座 環境安全工学分野 環境安全工学、低品位資源転換工学、特に廃棄物の安全で効率的な有効利用法の開発に関する研究、二酸化炭素の排出抑制のためのプロセス開発	物質機能・変換 科学分野		
11	化学工学基礎講座 動的界面化学分野 音や液流、磁場といった非平衡状態がもたらす界面現象についての研究、特に身近に存在する実在系の安定性を決定づける表面間力の制御。得られた知見に基づく様々な機能性薄膜の創成に関する研究	物質機能・変換 科学分野		
12	化学工学基礎講座 移動現象論分野 分子・エネルギー・情報の流れに関する移動現象論、特に、アクティブマターの運動と構造、分子モーターのエネルギー論、細胞と細胞組織の合成生物学など、自律的に流れを制御する新規材料の基礎研究	応用力学分野 物質機能・変換 科学分野		

詳しい研究内容については、ホームページ <http://www.ch.t.kyoto-u.ac.jp/ja> を参照

Ⅱ. 募集人員

化学工学専攻 若干名

Ⅲ. 出願資格

募集要項 Part A 「Ⅱ－i 出願資格」参照

Ⅳ. 学力検査日程

2月12日（水）	9：00～11：30 専門科目Ⅰ	12：30～15：00 専門科目Ⅱ 15：30～17：30 外国語（英語・日本語）
2月13日（木）	9：00～ 面接	

Ⅴ. 入学試験詳細

(1) 科目、出題範囲

[外国語（英語・日本語）] 配点 200 点

自国語－英語、自国語－日本語、英語－日本語の辞書のみ使用を許可する。電子辞書は翻訳機能のないものについてのみ許可する。

[専門科目Ⅰ] 配点 400 点

数学、化学工学基礎、反応工学

ただし、数学の出題範囲は、微分積分学、線形代数学、常微分方程式、偏微分方程式とする。また、化学工学基礎の出題範囲は、物理化学、化学工学量論とする。

[専門科目Ⅱ] 配点 400 点

移動現象、単位操作基礎、プロセス制御

専門科目Ⅰ、専門科目Ⅱの試験では電卓を貸与する。

(2) 有資格者及び合格者の決定方法

総得点 500 点以上を有資格者とする。ただし、問題の難易度に応じて有資格判定の基準点を調整することがある。有資格者の成績上位者から合格者を決定する。

Ⅵ. 出願要領

志望区分の申請

「Ⅰ. 志望区分」の研究内容説明を参考にして、インターネット出願システムの志望情報入力画面で志望区分を選択すること。なお、指導予定教員と十分面談を重ね、指導予定教員の署名が入った指導予定教員承諾書を事前に A クラスター教務掛に提出すること。

出願方法と出願場所

募集要項 Part A 「Ⅲ-i 出願手続」参照

問合せ先・連絡先

〒615-8510 京都市西京区京都大学桂

京都大学桂 A クラスター事務区教務掛（化学工学専攻）

電話：075-383-2077

E-Mail：090kakyomu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

参 照：http://www.ch.t.kyoto-u.ac.jp/ja

Ⅶ. 入学後の教育プログラムの選択

修士課程入学後には4種類の教育プログラムが準備されている。本専攻の入試に合格することにより履修できる教育プログラムは下記の通りである。

- (a) 博士課程前後期連携教育プログラム 融合工学コース（応用力学分野）
- (b) 博士課程前後期連携教育プログラム 融合工学コース（物質機能・変換科学分野）
- (c) 博士課程前後期連携教育プログラム 高度工学コース（化学工学専攻）
- (d) 修士課程教育プログラム 化学工学専攻

いずれのプログラムを履修するかは、受験者の志望と入試成績に応じて決定する。合格決定後の適切な時期に志望を調査するので、合格決定後の指示に従うこと。

詳細については、「Ⅰ. 志望区分」の研究内容説明を参照のこと。また、教育プログラムの内容については、ホームページ <https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/education/graduate/dosj69> 及び、次項の「Ⅷ. 教育プログラムの内容について」をそれぞれ参照すること。

Ⅷ. 教育プログラムの内容について（高度工学コース・修士課程教育プログラム）

【高度工学コース】

化学工学は、基礎科学の成果をより迅速に、かつ環境に配慮しながら生産活動や社会福祉として結実するための多様な要求に対応するための基盤工学です。高度工学コースでは、高度の教養と人格を備えた研究者・高級技術者として独立して活動するための実践的訓練を行うことにより、高度な専門知識と柔軟な思考力および豊かな想像力を修得させます。より具体的には、研究テーマの選定、研究の計画、実施、発表の過程を可能な限り自主的に進めさせるとともに、常に世界的に評価され得る創造的な研究を遂行するよう指導します。さらに、他専攻、他研究科、国外研究機関との共同研究の機会を積極的に与え、協調能力、提案能力、発表能力、国際性を身につけさせます。またTAのほか、学部の特別研究の指導などにも参加させ、研究指導者としての能力をも身につけさせます。これらを通じて、高度な研究遂行能力をもった国際的に活躍できる研究者、新たな化学工学の基盤を創成し得る研究者、さらには研究をマネジメントし得る指導者を育成します。

【修士課程教育プログラム】

化学工学は、基礎科学の成果をより迅速に、かつ環境に配慮しながら生産活動や社会福祉として結実するために、21世紀に求められている高度で複雑な機能性物質・材料の開発、エネルギー・環境と調和した各種生産装置・技術の開発などの多様な要求に対応できる基盤工学です。修士課程においては、この基盤工学の骨格を講義を通じて学ばせるとともに、世界最先端の研究に従事させることによってその真髄を習得させます。これらの教育・研究を実施する過程での、教員との議論、学生間の議論、教員・外部の技術者・他の学生との共同研究、学会での発表等を通じて、高級技術者としての意思疎通能力、協調能力、提案能力、発表能力、倫理観等を養わせます。さらに、TA(Teaching Assistant)などの形で教育補助を行わせ指導者としての要件を体得させます。これらの素養を備えた高級技術者を育成することによって、社会の発展に寄与します。

Ⅸ. その他

試験会場

桂キャンパス内で実施する。試験会場については、試験1週間前までに当専攻から連絡する。

集合時間および集合場所について

試験当日は、試験開始 20 分前までに試験会場前に集合すること。

入退室について

試験開始時間から 30 分以降は入室できない。また、試験開始後、当該科目の試験時間中は退出できない。

面接について

受験者全員について面接を行うので、受験者は 2 月 13 日（木）8：50 までに面接会場前（試験 1 週間前までに当専攻から連絡）に集合すること。

携帯電話について

携帯電話は必ず電源を切り、かばん等に入れ所定の場所に置くこと。試験中、携帯電話を時計として使用することも禁止する。試験中に携帯電話等の通信機器の所持が判明した場合は、不正行為と見なされる場合がある。なお時計（通信機能のないものに限る）については各自で用意すること。

入試区分／専攻別 別途提出書類様式

Designated Forms (for Each Department / Division)

京都大学大学院工学研究科 社会基盤・都市社会系
修士課程入学資格者選考試験

Entrance Examination for the Master's Program
Department of Civil and Earth Resources Engineering, and Department of Urban Management,
Graduate School of Engineering, Kyoto University

別途提出書類届

Checklist of necessary documents

受験番号
ID

出願者氏名
Name of Applicant

(記入しないこと)

For official use. Please do not fill.

☐

1. これまでの研究内容および研究計画に関するレポート
(A4 紙 3 頁以内) (様式－M2)

(□に○印でチェックのこと、該当しない場合は×印)

Report about your past/current research (within 3 pages including figures and tables) (Form-M2). Enter “○” when you attach it, or “×” when you do NOT attach it.

☐

2. TOEIC または IELTS 試験の成績証明書または英語を母国語とする旨の宣誓書 (様式－M3) (□に○印でチェックのこと、TOEFL の場合あるいは該当しない場合は×印、成績証明書を後日提出する場合は△印)

[TOEFL]: 京都大学工学研究科社会基盤・都市社会系に直送される Institutional Score Report [IELTS], [TOEIC]: 成績証明書原本

Enter “○” when you attach one of TOEIC or IELTS official score certificate, or Form-M3, “×” in the case of TOEFL or when you do NOT attach it, or “△” when you submit one of TOEIC or IELTS official score certificate later.

[TOEFL]: Have Institutional Score Report sent to C092(Institution Code), Kyoto University.

[IELTS], [TOEIC]: Submit original official score report.

☐

3. 入学後の教育プログラム履修志望調書 (様式－M4)
(□に○印でチェックのこと)

Statement of Course Selection (Form-M4). Enter “○” when you attach it.

京都大学大学院工学研究科 社会基盤・都市社会系
修士課程入学資格者選考試験

Entrance Examination for the Master's Program
Department of Civil and Earth Resources Engineering, and Department of Urban Management,
Graduate School of Engineering, Kyoto University

研究経過・計画書

Statement of Research Activity and Study Plan

氏
(Family Name)

名
(First Name)

1. 出願者氏名 : _____
Name of Applicant

2. 希望指導教員名 : _____ 印
Name of Prospective Supervisor Stamp or Signature _____

3. 希望研究題目 : _____
Title of Research

注意事項
(Instructions)

専門分野における現在までの研究経過と、希望指導教員の承認を得た今後の学修・研究計画を 3 頁以内で記述し、本紙とそのコピーを各部の表紙として添付すること。

Describe your past/current research activities and your study/research plan in the graduate program approved by the prospective supervisor. Complete your statement within 3 pages including figures and tables, and attach this cover sheet.

英語を母国語とする旨の宣誓書

Letter of English Proficiency Statement

京都大学大学院工学研究科
社会基盤工学専攻 専攻長 殿
都市社会工学専攻 専攻長 殿

Chair, Department of Civil and Earth Resources Engineering,
Chair, Department of Urban Management,
Graduate School of Engineering
Kyoto University

私は英語を母国語とすることをここに宣誓いたします。

I, the undersigned, hereby state that I am a native English speaker.

年 月 日
Year Month Date

国 籍 _____
Nationality

出願者氏名 _____
Family Name First Name

署 名 _____
Signature

京都大学大学院工学研究科 社会基盤・都市社会系
修士課程入学資格者選考試験

Entrance Examination for the Master's Program
Department of Civil and Earth Resources Engineering, and Department of Urban Management,
Graduate School of Engineering, Kyoto University

入学後の教育プログラム履修志望調書

Statement of Course Selection

入学後の教育プログラムには、(1)-(5)の 5 つがある。

- (1) 修士課程教育プログラム
- (2) 修士課程教育プログラム 国際コース
- (3) 博士課程前後期連携教育プログラム（融合工学コース）応用力学分野
- (4) 博士課程前後期連携教育プログラム（融合工学コース）人間安全保障工学分野
- (5) 博士課程前後期連携教育プログラム（高度工学コース）

第 1 志望の教育プログラムを(1)-(5)から選び、回答欄に番号を記入すること。

各教育プログラムにはそれぞれ、第 2 志望として選択可能な教育プログラムが 1 つ指定されている。教育プログラム(1)、(3)、(4)、(5)を第 1 志望とする場合は、教育プログラム(2)を第 2 志望として選択できる。教育プログラム(2)を第 1 志望とする場合は、教育プログラム(1)を第 2 志望として選択できる。第 2 志望を希望する場合は回答欄の Yes、希望しない場合は回答欄の No の ☐ にチェック（レ）を入れること。

There are five course programs (1)-(5) you can pursue upon entering the Master's Program.

- (1) Master's Course Program
- (2) Master's Course Program, International Course
- (3) Interdisciplinary Engineering Course Program, Postgraduate Integrated Course Program of Applied Mechanics
- (4) Interdisciplinary Engineering Course Program, Postgraduate Integrated Course Program of Human Security Engineering
- (5) Advanced Engineering Course Program

Select the course program you most wish to pursue as the first choice upon entering the Master's Program from (1)-(5), and enter the number in the answer column.

Each course program has one applicable second choice course program as designated below. If you select any one of the course programs among (1), (3), (4) and (5) as the first choice, then you can pursue the course program (2) as the second choice. If you pursue the course program (2) as the first choice, then you can pursue the course program (1) as the second choice. If you wish to apply for the second choice course program, check the square ☐ next to Yes in the answer column. If you do not wish to apply for the second choice course program, check the square ☐ next to No in the answer column.

次頁に続く Continued on next page.

回答欄 Answer Column

第1志望の教育プログラムを(1)-(5)から選び、番号を記入すること。 Select the course program you most wish to pursue as the first choice from (1)-(5), and enter the number.	
各教育プログラムには、第2志望として選択可能な教育プログラムが1つ指定されている。第2志望を希望する場合は Yes、希望しない場合は No の□にチェック（レ）を入れること。 Each course program has one applicable second choice course program as designated below. If you wish to apply for the second choice course program, check the square □ next to Yes. If you do not wish to apply for the second choice course program, check the square □ next to No.	☐ Yes. ☐ No.

日付 _____ 出願者氏名 _____ 印
Date Name of Applicant Stamp or Signature

希望指導教員氏名 : _____ 印
Name of Prospective Supervisor Stamp or Signature

表 入学後の教育プログラム(1)-(5)と第2志望として選択可能な教育プログラム
Table: Course Programs (1)-(5) and Applicable Second Choice Course Program

教育プログラム Course Program	選択可能第2志望 教育プログラム Applicable Second Choice Course Program
(1) 修士課程教育プログラム Master's Course Program	(2)
(2) 修士課程教育プログラム 国際コース Master's Course Program, International Course	(1)
(3) 博士課程前後期連携教育プログラム（融合工学コース） 応用力学分野 Interdisciplinary Engineering Course Program, Postgraduate Integrated Course Program of Applied Mechanics	(2)
(4) 博士課程前後期連携教育プログラム（融合工学コース） 人間安全保障工学分野 Interdisciplinary Engineering Course Program, Postgraduate Integrated Course Program of Human Security Engineering	(2)
(5) 博士課程前後期連携教育プログラム（高度工学コース） Advanced Engineering Course Program	(2)

京都大学大学院工学研究科 社会基盤・都市社会系
修士課程入学資格者選考試験

Entrance Examination for the Master's Program
Department of Civil and Earth Resources Engineering, and Department of Urban Management,
Graduate School of Engineering, Kyoto University

口頭試問 I における受験希望専門科目調書

Statement of Specialized Subject of Oral Exam I

募集要項の「V. 入学試験詳細、(1) 試験科目」を参考に、以下の 6 つの科目から受験を希望する科目を 1 つ選択すること。ただし、本様式で選択した科目以外の科目へ受験する科目を変更することはできない。

Select one subject from the following six subjects by referring to section “V. Details for Entrance Examination, (1) Examination Subjects” in the guidelines. Note that you are not allowed to take any other subjects once you select one subject in this form.

- | | |
|---|---|
| ☐ 構造力学 Structural Mechanics | ☐ 水理学 Hydraulics |
| ☐ 土質力学 Soil Mechanics | ☐ 計画理論 Planning and Management |
| ☐ 資源工学 Earth Resources Engineering | ☐ 数学 Mathematics |

日付 _____	出願者氏名 _____	印
Date	Name of Applicant	Stamp or Signature

希望指導教員氏名 : _____	印
Name of Prospective Supervisor	Stamp or Signature

京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻
修士課程外国人留学生入学試験
Entrance Examination for the Department of Environmental Engineering,
Graduate School of Engineering, Kyoto University

筆記試験および口頭試問時の希望言語選択票

Statement of Language Preference for the Entrance Examination

筆記試験および口頭試問時に希望する言語を選択すること。

Enter “○” in the appropriate box about the language you wish to select for the entrance examination

	言語(Language)
()	日本語(Japanese)
()	英語(English)

日付 _____
Date

氏名 _____
Name of Applicant

印 _____
Stamp/or Signature

京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻
修士課程外国人留学生入学試験
Entrance Examination for the Department of Environmental Engineering,
Graduate School of Engineering, Kyoto University

別途提出書類届

Checklist of Necessary Documents

受験番号

ID

氏 名

Name of Applicant

(記入しないこと)

For official use. Please do not fill

(該当する場合は□に○印、該当しない場合は×印を記入すること)

Enter “○” when you attach it, or “×” when you do NOT attach it.

☐

1. TOEFL、TOEIC または IELTS 試験の成績証明書

Transcript of either TOEFL, TOEIC or IELTS

a) TOEFL、TOEIC または IELTS 試験の成績証明書の提出に関して、該当する一つに○印をつけること。

Enter “○” in the appropriate box about submission.

- [] 成績証明書を本様式と同封して提出する。(You attach one of TOEFL, TOEIC or IELTS transcripts)
[] 成績証明書を 1 月 31 日午後 5 時必着で提出する。(You submit later transcript by 31 January 5:00 pm)
[] 成績証明書を提出しない。(You will not submit transcript)

b) 該当する試験に○印をつけること。成績証明書は試験当日に返却します。

Enter “○” in the appropriate box about the transcript. The transcript will be returned on the examination day.

- [] TOEFL-iBT(internet-Based Test)
[] TOEIC
[] IELTS

☐

2. 英語を母語とする旨の宣誓書 (様式－M3)

Letter of English Proficiency Statement (Form M3)

☐

3. 入学後の教育プログラム履修志望調書 (様式－M4)

Statement of Course Selection (Form M4)

☐

4. 学習・研究計画書 6 部

Research Plan (6 copies)

志望する指導教員の氏名を記入し、確認印をもらうこと。

Applicant should have contacted the prospective supervisor from whom the applicant wishes to receive supervision prior to submitting the application documents, and the form must be signed by the supervisor.

指導教員氏名 Name of Prospective Supervisor	印 Stamp/or Signature
--	-------------------------

京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻
修士課程外国人留学生入学試験
Entrance Examination for the Department of Environmental Engineering,
Graduate School of Engineering, Kyoto University

英語を母語とする旨の宣誓書

Letter of English Proficiency Statement

京都大学大学院工学研究科
都市環境工学専攻 専攻長 殿
Chair, Department of Environmental Engineering,
Graduate School of Engineering
Kyoto University

私は英語を母語とすることをここに宣誓いたします。

I, the undersigned, hereby state that I am a native English speaker.

年 月 日
Year Month Day

国 籍 _____
Nationality

氏 名 _____ (男・女)
Family name First name (Male/Female)

生年月日 年 月 日生
Date of birth Year Month Day

サイン _____
Signature

京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻
修士課程外国人留学生入学試験
Entrance Examination for the Department of Environmental Engineering,
Graduate School of Engineering, Kyoto University

入学後の教育プログラム履修志望調書
(予備志望調査)

Statement of Course Selection
(Preliminary Investigation)

入学後に履修する教育プログラムの志望順位を記入すること。

Enter the priority numbers of educational programs you wish to apply

志望順位 Priority number	履修を志望する教育プログラム Educational programs you wish to apply
()	博士課程前後期連携教育プログラム（融合工学コース） 人間安全保障工学分野 Interdisciplinary Engineering Course Program Integrated Master's-Doctoral Course Program of Human Security Engineering
()	博士課程前後期連携教育プログラム（高度工学コース） 都市環境工学専攻 Advanced Engineering Course Program Department of Environmental Engineering
()	修士課程教育プログラム 都市環境工学専攻 Master's Program Department of Environmental Engineering

日付 _____
Date

氏名 _____
Name of Applicant

印 _____
Stamp/or Signature

年 月 日

建築学専攻長 殿

志願者

大学

学部

学科

西暦

年

月（卒業・卒業見込）

氏名

印

志望区分申告書

私は、

京都大学大学院工学研究科 修士課程建築学専攻に入学の上は、志望区分について下記のとおり志望しますの
で申告致します。

記

志 望 区 分

本志願者に対する修士論文の指導にあたることを承諾します。

志望区分担当教員

印

京都大学大学院工学研究科 機械工学群 修士課程入学試験

教育プログラム志望調書

希望する教育プログラムを 1 つ選び、選択欄に○をつけること。

	履修を志望する教育プログラム
()	修士課程
()	前後期連携（高度工学コース）
()	前後期連携（融合工学コース） () 分野

※前後期連携（融合工学コース）を希望する場合は、項目 I.(2) の専攻別志望区分一覧に記載した a～g の分野のうち、履修を希望する分野名を教育プログラム欄の () 内に必ず記入すること。

年 月 日

氏名 _____

署名 _____

(様式2)

京都大学大学院工学研究科 機械工学群 修士課程入学試験

英語を母国語とする旨の宣誓書

入試委員長 殿

私は英語を母国語とすることをここに宣誓いたします。

年 月 日

国籍 _____

氏名 _____

年 月 日 生

署名 _____

(様式3)

京都大学大学院工学研究科 機械工学群 修士課程入学試験

志望する指導教員調書

志望する指導教員の氏名を記入し、確認印をもらうこと。

指導教員氏名	印
--------	---

希望研究題目

日付_____出願者氏名_____

(様式 材工D)

京都大学大学院工学研究科 材料工学専攻
修士課程（外国人留学生）および博士後期課程入学資格者選抜試験
Entrance Examination for the Department of Materials Science and Engineering,
Graduate School of Engineering, Kyoto University

英語を母語とする旨の宣誓書
English Language Proficiency Declaration

材料工学専攻長 殿
Chair, Department of Materials Science and Engineering,
Graduate School of Engineering,
Kyoto University

私は英語を母語とすることをここに宣誓いたします。

I, the undersigned, hereby declare that I am a native English speaker or I have sufficient English language skills.

____年 ____月 ____日
Year Month Day

国籍_____
Nationality

氏名_____(男・女)
Family name / First name Male / Female

____生年月日 ____年 ____月 ____日生
Birthday Year Month Day

サイン_____
Signature

2025 年 2 月実施入試(冬入試)

Entrance Examination to be held in February 2025 (Winter Entrance Examination)

(様式 1) Form1

志望研究室申告票(京都大学大学院工学研究科電気系専攻)

Nomination of Preferred Research Laboratory

(Department of Electrical Engineering/Electronic Science and Engineering,
Graduate School of Engineering, Kyoto University)

修士課程教育プログラム

Master's Course Program

- ・ 修士課程教育プログラム合格者の研究室配属の決定はこの申告票に基づいて行う。
Successful applicants will be assigned to a laboratory based on their answers on this form.
- ・ 第一志望の研究室に○印を記入すること。 Circle the laboratory of your first choice.
- ・ 一旦提出した書類の差し替えや変更、訂正等はできない。
Once submitted, this form cannot be replaced, changed, or corrected.

修士課程教育プログラム Master's Course Program		
志 望 区 分 Preferred Resarch Area		第 1 志望の研究室に○印を記入すること。 Circle the laboratory of your first choice.
第 1	先端電気システム論研究室 Chair of Advanced Electrical Systems Theory	
第 2	自動制御工学研究室 (萩原研) Automatic Control Engineering Laboratory (Hagiwara Lab)	
第 3	システム創成論研究室 (阪本研) Innovative Systems Theory Laboratory (Sakamoto Lab)	
第 4	生体機能工学研究室 (吉井研) Biological Function Engineering Laboratory (Yoshii Lab)	
第 5	超伝導工学研究室 (雨宮研) Applied Superconductivity Laboratory (Amemiya Lab)	
第 6	電磁回路工学研究室 Electrical and Electromagnetic Circuit Laboratory	
第 7	電磁エネルギー工学研究室 (松尾研) Electromagnetic Energy Engineering Laboratory (Matsuo Lab)	
第 8	電波科学シミュレーション研究室 (海老原研) Space Radio Science Simulation Laboratory (Ebihara Lab)	
第 9	宇宙電波工学研究室 (小嶋研) Space Radio Engineering Laboratory (Kojima Lab)	
第 10	マイクロ波エネルギー伝送研究室 (篠原研) Microwave Energy Transmission Laboratory (Shinohara Lab)	
第 11	優しい地球環境を実現する先端電気機器工学研究室 (中村研) Chair of Advanced Electric Machinery Engineering for Sustaining Global Environment (Nakamura Lab)	
第 12	集積機能工学研究室 (米澤研) Chair of Integrated Function Engineering (Yonezawa Lab)	超伝導グループ Superconductivity Group
		真空電子グループ Vacuum Electronics Group
第 13	極微電子工学研究室 (白石研) Applied Nano-electronics Laboratory (Shiraishi Lab)	
第 14	応用量子物性研究室 (竹内研) Applied Quantum Electronics Laboratory (Takeuchi Lab)	
第 15	半導体物性工学研究室 (木本研) Semiconductor Science and Engineering Laboratory (Kimoto Lab)	
第 16	電子材料物性工学研究室 Electronic Material Science and Engineering Laboratory	
第 17	光材料物性工学研究室 Optoelectronic Material Science and Engineering Laboratory	
第 18	光量子電子工学研究室 Quantum Optoelectronics Laboratory	
第 19	量子電磁工学研究室 Quantum Optical Engineering Laboratory	
第 20	ナノプロセス工学研究室 (メーナカ研) Nano-Process Engineering Laboratory (Menaka Lab)	

受験番号(空欄でも可)

Examinee's number (may be left blank)

出願者氏名(署名)

Name of Applicant (Signature)

【留学生用】 For International Applicants

京都大学大学院工学研究科電気系専攻
修士課程入学試験

Entrance Examination for the Master's Course Program in the Department of Electrical Engineering/Electronic
Science and Engineering,
Graduate School of Engineering, Kyoto University

指導希望教員承諾書

Consent Form of Prospective Supervisor

留学生の出願に際しては、希望する指導教員の氏名を記入し、出願の承諾に関する署名をもらうこと。

Each international applicant must complete contact with the prospective supervisor whose academic guidance is sought for, prior to submitting the application documents, to which the prospective supervisor must consent by signing this form.

指導希望教員氏名 _____

Name of Prospective Supervisor

(to be filled in by the applicant)

下記出願者が 2025 年 2 月実施の修士課程入学試験に合格した場合には研究室に受け入れて指導を行うことを前提とする出願について、それを承諾した証として、以下に署名します。

The following signature is to certify the consent to the applicant designated at the bottom of this form for his/her applying to the entrance examination, with the understanding that the applicant will be under my academic supervision, provided that the applicant passes the one to be held in February, 2025.

受入予定教員氏名（署名） _____ 印

Name of Prospective Supervisor (Signature)

日付 _____
Date

出願者氏名 _____
Name of Applicant

署名 _____
Signature

指導予定教員承諾書

Consent Form of Prospective Supervisor

(京都大学大学院工学研究科修士課程 材料化学専攻入学資格者選抜試験)

(Entrance Examination of the Master's Course Program in the Department of Material
Chemistry, Graduate School of Engineering, Kyoto University)

受験生氏名 _____

Name of Applicant

上記受験生が 2025 年 2 月実施の修士課程入学資格者選抜試験に合格した場合には、
研究室に受け入れて研究指導を行うことを前提とする出願について、それを承諾します。

I certify my consent to the application of above-designated applicant to the entrance
examination, with the understanding that the applicant will be under my academic
supervision, when the applicant passes the examination to be held in February,
2025.

指導予定教員氏名 (自署) _____ 印

Name of Prospective Supervisor (Signature)

日付 年 月 日

Date

志望研究区分番号 ()

Research Area Number

指導予定教員承諾書

Consent Form of Prospective Supervisor

(京都大学大学院工学研究科修士課程 物質エネルギー化学専攻入学資格者選抜試験)
(Entrance Examination of the Master's Course Program in the Department of Energy and
Hydrocarbon Chemistry, Graduate School of Engineering, Kyoto University)

受験生氏名 _____

Name of Applicant

上記受験生が 2025 年 2 月実施の修士課程入学資格者選抜試験に合格した場合には、
研究室に受け入れて研究指導を行うことを前提とする出願について、それを承諾します。

I certify my consent to the application of above-designated applicant to the entrance
examination, with the understanding that the applicant will be under my academic
supervision, when the applicant passes the examination to be held in February, 2025.

指導予定教員氏名 (自署) _____ 印

Name of Prospective Supervisor (Signature)

日付 年 月 日

Date

志望研究区分番号 ()

Research Area Number

指導予定教員承諾書

Consent Form of Prospective Supervisor

(京都大学大学院工学研究科修士課程 分子工学専攻入学資格者選抜試験)

(Entrance Examination of the Master's Course Program in the Department of Molecular Engineering, Graduate School of Engineering, Kyoto University)

受験生氏名_____

Name of Applicant

上記受験生が 2025 年 2 月実施の修士課程入学資格者選抜試験に合格した場合には、研究室に受け入れて研究指導を行うことを前提とする出願について、それを承諾します。

I certify my consent to the application of above-designated applicant to the entrance examination, with the understanding that the applicant will be under my academic supervision, when the applicant passes the examination to be held in February, 2025.

指導予定教員氏名（自署）_____印

Name of Prospective Supervisor (Signature)

日付 年 月 日

Date

志望研究区分番号（ ）

Research Area Number

指導予定教員承諾書

Consent Form of Prospective Supervisor

(京都大学大学院工学研究科修士課程 高分子化学専攻入学資格者選抜試験)

(Entrance Examination of the Master's Course Program in the Department of Polymer

Chemistry, Graduate School of Engineering, Kyoto University)

受験者氏名_____

Name of Applicant

上記受験者が 2025 年 2 月実施の修士課程入学資格者選抜試験に合格した場合には、
研究室に受け入れて研究指導を行うことを前提とする出願について、それを承諾します。

I certify my consent to the application of above-designated applicant to the entrance
examination, with the understanding that the applicant will be under my academic
supervision, when the applicant passes the examination to be held in February,
2025.

指導予定教員氏名 (自署) _____ 印

Name of Prospective Supervisor (Signature)

日付 年 月 日

Date

志望研究区分番号 ()

Research Area Number

指導予定教員承諾書

Consent Form of Prospective Supervisor

(京都大学大学院工学研究科修士課程 合成・生物化学専攻入学資格者選抜試験)
(Entrance Examination of the Master's Course Program in the Department of Synthetic
Chemistry and Biological Chemistry, Graduate School of Engineering, Kyoto University)

受験生氏名_____

Name of Applicant

上記受験生が 2025 年 2 月実施の修士課程入学資格者選抜試験に合格した場合には、
研究室に受け入れて研究指導を行うことを前提とする出願について、それを承諾します。

I certify my consent to the application of above-designated applicant to the entrance
examination, with the understanding that the applicant will be under my academic
supervision, when the applicant passes the examination to be held in February,
2025.

指導予定教員氏名 (自署) _____ 印

Name of Prospective Supervisor (Signature)

日付 年 月 日

Date

志望研究区分番号 ()

Research Area Number

指導予定教員承諾書

Consent Form of Prospective Supervisor

(京都大学大学院工学研究科修士課程 化学工学専攻入学資格者選抜試験)

(Entrance Examination of the Master's Course Program in the Department of Chemical Engineering, Graduate School of Engineering, Kyoto University)

受験生氏名 _____

Name of Applicant

上記受験生が 2025 年 2 月実施の修士課程入学資格者選抜試験に合格した場合には、研究室に受け入れて研究指導を行うことを前提とする出願について、それを承諾します。

I certify my consent to the application of above-designated applicant to the entrance examination, with the understanding that the applicant will be under my academic supervision, when the applicant passes the examination to be held in February, 2025.

指導予定教員氏名 (自署) _____ 印

Name of Prospective Supervisor (Signature)

日付 年 月 日

Date

志望研究区分番号 ()

Research Area Number



615-8510

京都大学桂Aクラスター事務区教務掛

京都市西京区京都大学桂

切り取り線

- ①「宛名ラベル」を切り取り線に沿って、ハサミ等で切り取ってください。
- ②各専攻の指定する郵送方法に従い、必要な切手を「宛名ラベル」に貼付してください。
- ③市販の封筒に、「宛名ラベル」を貼付し、必要書類を郵送してください。
(郵送中に剥がれてしまうことの無いよう、強くのり付けしてください。)

This label is used for sending application documents required by desired Department to Students affairs division at Cluster A.

- ①Along the cut line, cut it with scissors etc.
(切り取り線=cut line)
- ②Paste necessary postal stamps in red square following from each submission methods.
- ③Paste this label to your prepared envelope, and mail the necessary documents.

Please paste strongly not to come off.

差出人=From
課程=Master's Program / Doctoral Program
入試区分／志望専攻=Division / Department
住所=Address
〒=Zip code
氏名=Name

行

差 出 人	課程 (いずれかに○)	修士 / 博士後期
	入試区分／ 志望専攻	
	住所	〒 —
	氏 名	

郵便
切手

615-8540

京都大学桂Cクラスター事務区教務掛

京都市西京区京都大学桂

切り取り線

- ①「宛名ラベル」を切り取り線に沿って、ハサミ等で切り取ってください。
- ②各専攻の指定する郵送方法に従い、必要な切手を「宛名ラベル」に貼付してください。
- ③市販の封筒に、「宛名ラベル」を貼付し、必要書類を郵送してください。
(郵送中に剥がれてしまうことの無いよう、強くのり付けしてください。)

This label is used for sending application documents required by desired Department to Students affairs division at Cluster C.

- ①Along the cut line, cut it with scissors etc.
(切り取り線=cut line)
- ②Paste necessary postal stamps in red square following from each submission methods.
- ③Paste this label to your prepared envelope, and mail the necessary documents.

Please paste strongly not to come off.

差出人=From
課程=Master's Program / Doctoral Program
入試区分／志望専攻=Division / Department
住所=Address
〒=Zip code
氏名=Name

差 出 人	課程 (いずれかに○)	修士 / 博士後期
	入試区分／ 志望専攻	
	住所	〒 —
	氏 名	

出 願 書 類 (様式)

Application Documents (Forms)

京都大学大学院工学研究科

修士課程出願資格認定申請・調書

出願資格番号	(9)・(10) ※いずれかに○	申請年月日	
入試区分		指導予定教員	
フリガナ		入学時期	
氏名		(4月期／10月期)	
現住所	〒		
現職 (所属・職名等)		TEL (昼間連絡可能な番号)	
生年月日		E-mailアドレス	
(年齢)			
年月	学歴（高等学校卒業から記入）		
年月	職歴等		
年月	取得資格免許等及び学協会等の活動、貢献、その他特記すべき事項		
注 1. 年齢は、申請日現在で記入すること。		認定欄	
2. この用紙に書ききれない場合は、同様式の用紙を付加すること		※ 合・否	
3. ※欄は、記入しないこと。			

履 歴 書
Resume

受験番号 ※記入不要 Examinee's Number ※Need not fill out	
--	--

入試区分 Division		入学時期(4月期／10月期) Admission Time(April/October)	
氏名フリガナ Name in KATAKANA		留学生国籍(注1 Note1) International Student Nationality	
氏名 Name		留学生経費区分 (入学時予定)いずれかにチェック International student category at the time of admission (Check/ one)	国費(日本政府)MEXT Scholarship Student 私費Privately Funded Student 自国政府派遣 International Student Sent by Home Government JICA International Student supported by JICA
氏名アルファベット表記 (留学生のみ) Name in English alphabet (International student only)		AAO ID (AAO申請者のみ) AAO Applicant only	
生年月日(西暦) Date of Birth	(西暦)年Year	月Month	日Day
性別	Sex	☐ 男 Male	☐ 女 Female
TEL(昼間連絡可能な番号) Contactable telephone number in daytime		e-mail	

履 歴 (空白期間の無いよう記入すること) History

学 歴	入学及び卒業修了年月(西暦で記入) Year and Month of Entrance and Completion	在学年数 Years Attended	学校名 Name of School	正規の修業年限 Required years for Graduation in standard
	年 From Year	月入学 Month Entrance	小学校 (注2 Note2) Elementary Education (Elementary School)	年Years
	年 To Year	月卒業 Month Completion		
	年 From Year	月入学 Month Entrance	中学校 (注2 Note2) Secondary Education (Lower Secondary School)	年
	年 To Year	月卒業 Month Completion		
	年 From Year	月入学 Month Entrance	高等学校 Secondary Education (Upper Secondary School)	年
	年 To Year	月卒業 Month Completion		
	年 From Year	月入学 Month Entrance	大学 University/College 学部・学科 Faculty & Department	年
	年 To Year	月卒業(見込) Month Completion(Expected)		
	年 From Year	月入学 Month Entrance	高等専門学校 Technical College 学科 Department	年
年 To Year	月卒業(見込) Month Completion(Expected)			
年 From Year	月入学 Month Entrance	高等専門学校専攻科 Technical College Advanced Course 専攻 Department	年	
年 To Year	月卒業(見込) Month Completion(Expected)			
Educational Background	年 From Year	月 Month	注3～5参照 Refer to Note 3 - 5	
	年 To Year	月 Month		
職 歴	勤務期間 Period of Employment	在職年数 Years of Employment	勤務先名称 Name of Organization	
	年 From Year	月 Month		
	年 To Year	月 Month		
	年 From Year	月 Month		
Employment History	年 From Year	月 Month		
	年 To Year	月 Month		

注： 1. 重国籍者はすべての国籍を記載すること。
Note 1. Those who have multiple citizenships must list all nationalities.

2. 履歴事項は、日本の大学を卒業又は卒業見込みの者は、高等学校入学から現在までを記入すること。 それ以外の者は、小学校入学から現在までを記入すること。「在学年数」、「正規の修業年限」欄の数値も漏れなく記入すること。
2. Applicants who have graduated or expect to graduate from foreign university need to enter information from their elementary school to the present. Other applicants need to enter information from high school to the present. Fill in completely for both "Years attended" and "Required years for graduation in standard".

3. 研究生の経歴は、学歴欄に記入すること。
3. Put your study records as a research student on "Educational Background" section.

4. 履歴欄は、空白期間がないように記入し、自宅において学習した期間については、「自宅学習」として、その期間を記入すること。
4. Fill in all the sections without blank period, and applicants who have the period of study at home fill in like "Study at home"

5. 記入欄が足りない場合は、同様の様式の別紙を作成して記入すること。
5. If the space is not sufficient, attach another sheet like this document.

履歴書

Resume

ドロップダウンリストから選択すること。
Select from the dropdownlist.

受験番号 ※記入不要

Examination Number ※Need not fill out

外国の学校出身者

入試区分 Division	社会基盤・都市社会系 Civil and Earth Resources Engineering / Urban Management	入学時期(4月期／10月期) Admission Time(April/October)	4月期入学
氏名フリガナ Name in KATAKANA	キョウダイ ハナコ	留学生国籍(注1 Note1) International Student Nationality	●●●●国
氏名 Name	ドロップダウンリストから選択すること。 Select from the dropdownlist.	留学生経費区分 (入学時予定)いずれかにチェック International student category at the time of admission (Check/ one)	国費(日本政府)MEXT Scholarship Student 私費Privately Funded Student 自国政府派遣 International Student Sent by Home Government JICA International Student supported by JICA
氏名アルファベット表記 (留学生のみ) Name in English alphabet (International student only)	Kyodai Hanako	AAO ID (AAO申請者のみ) AAO Applicant only	1XXXX
生年月日(西暦) Date of Birth	2001 年 1 月 1 日 (西暦)年Year 月Month 日Day	性別 Sex	☐ 男 Male ☒ 女 Female
TEL(昼間連絡可能な番号) Contactable telephone number in daytime	XXX-XXXX-XXXX	e-mail	X X X X@kyoto-u.ac.jp

履歴(空白期間の無いよう記入すること) History

学歴	入学及び卒業修了年月(西暦で記入) Year and Month of Entrance and Completion	在学年数 Years Attended	学校名 Name of School	正規の修業年限 Required years for Graduation in standard
	2006 年 9 月 入学 From Year Month Entrance 2012 年 8 月 卒業 To Year Month Completion	6 年Years	AAAA School Elementary Education (Elementary School)	小学校 (注2 Note2) 6 年Years
	2012 年 9 月 入学 From Year Month Entrance 2015 年 8 月 卒業 To Year Month Completion	3 年	BBBB School Secondary Education (Lower Secondary School)	中学校 (注2 Note2) 3 年
	2015 年 9 月 入学 From Year Month Entrance 2018 年 8 月 卒業 To Year Month Completion	3 年	CCCC School Secondary Education (Upper Secondary School)	高等学校 3 年
	2018 年 9 月 入学 From Year Month Entrance 2022 年 8 月 卒業(見込) To Year Month Completion(Expected)	4 年	DDDD University School of *** Engineering Higher Education (Undergraduate Level)	大学 University/College 学部・学科 Faculty & Department 4 年
	年 月 入学 From Year Month Entrance 年 月 卒業 To Year Month Completion(Expected)	年		高等専門学校 Technical College 学科 Department 年
	年 月 入学 From Year Month Entrance 年 月 卒業(見込) To Year Month Completion(Expected)	年		高等専門学校専攻科 Technical College Advanced Course 専攻 Department 年
	2023 年 10 月 入学 From Year Month Entrance 2024 年 3 月 卒業 To Year Month Completion	0.5 年	Study at home. 注3～5参照 Refer to Note 3 - 5	研究生の経歴は、学歴欄に記入すること。 Put your study records as a research student on "Educational Background" section.
	2024 年 4 月 入学 From Year Month Entrance 2025 年 3 月 卒業 To Year Month Completion	1 年	Kyoto University Graduate School of Engineering Research Student 注3～5参照 Refer to Note 3 - 5	
	勤務期間 Period of Employment	在職年数 Years of Employment	勤務先名称 Name of Organization	
2022 年 10 月 勤務 From Year Month Employment 2023 年 9 月 勤務 To Year Month Employment	1 年	EEEE Co.,Ltd.	アルバイトは記入不要。 Part-time job is not required to be filled out.	
年 月 勤務 From Year Month Employment 年 月 勤務 To Year Month Employment	年			

注: Note

1. 重国籍者はすべての国籍を記載すること。
1. Those who have multiple citizenships must list all nationalities.
2. 履歴事項は、日本の大学を卒業又は卒業見込みの者は、高等学校入学から現在までを記入すること。それ以外の者は、小学校入学から現在までを記入すること。「在学年数」、「正規の修業年限」欄の数値も漏れなく記入すること。
2. Applicants who have graduated or expect to graduate from foreign university need to enter information from their elementary school to the present. Other applicants need to enter information from high school to the present. Fill in completely for both "Years attended" and "Required years for graduation in standard".
3. 研究生の経歴は、学歴欄に記入すること。
3. Put your study records as a research student on "Educational Background" section.
4. 履歴欄は、空白期間がないように記入し、自宅において学習した期間については、「自宅学習」として、その期間を記入すること。
4. Fill in all the sections without blank period, and applicants who have the period of study at home fill in like "Study at home"
5. 記入欄が足りない場合は、同様の様式の別紙を作成して記入すること。
5. If the space is not sufficient, attach another sheet like this document.

【修士課程出願者用】出願書類確認表
Application Documents Checklist for Master's Program

【Bクラスター 工学研究科大学院掛に提出】募集要項「Ⅲ 出願要領」及び下記を参照の上、必要な書類がそろっているか確認してください。

Please submit to Graduate Student Section in B Cluster Office. Please make sure that you have necessary documents before submission, referring to III Application Documents in the Guidelines and the following.

	京大工学部卒業 (見込)者 Graduate / the Expected to Graduate from Faculty of Engineering, Kyoto University	日本の大学(京大 工学部以外)卒業 (見込)者 Graduate / the Expected to Graduate from Japanese University (Except for Faculty of Engineering, Kyoto University)	外国の大学卒業(見込)者 Graduate/ the Expected to Graduate from Universities outside of Japan.			出願資格(2) 該 当者(高専専攻 科修了・学位取 得者等) Applicants under Our Eligibility Requirement (2)	注意事項 Notes
			京大工学研究科研究生 Research Students of Graduate School of Engineering, Kyoto University	京大研究生(工学以外) Research Students of Graduate School in Kyoto University (except for Graduate School of Engineering)	左記以外 Applicants Other than the Two Listed Left.		
出願資格 Eligibility Requirement	(1)	(1)	(3)(4)(5)(6)			(2)	※募集要項のⅡ i 「出願資格」参照。 Refer to II i "Elgibility" in our Guidelines.
☐ 志願票・写真票 Application Form and Photograph	○	○	○	○	○	○	☐ 出願する「入試区分」or「志望専攻」は正しいですか？ Is the printed “Division/Department” right? ☐ 写真は剥がれないように貼付できていますか？ Paste a photo securely. If it seems to come unglued, repaste it again.
☐ 受験票送付用封筒 Return Envelope for Examination Voucher to Applicant	○	○	○	○	○	○	☐ 370円/110円分の切手を 重ねず に貼付していますか？ Paste a total of 370/110 yen Japanese postage stamp on each envelope by glue, not overlapping each other. Write the address only within Japan. (ATTENTION: Be sure to buy postage stamp not revenue stamp.)
☐ 合格者受験番号一覧送付用封筒 Envelope for Result of Entrance Examination	○	○	○	○	○	○	☐ 封筒のサイズは 長型3号(120mm×235mm) ですか？ Please prepare standard " 3号"envelope (Size:120mm×235mm) ", and paste each label. Paste strongly not to come off.
☐ 在留カード(表裏)のコピー Photocopy of Both Sides of Residence card	外国人留学生のみ提出 Only for International Students						※出願時に提出できない者は、パスポートのコピーを提出すること。 If you can't submit this, please submit a photocopy of passport page with face photograph.
☐ 履歴書 Resume	○	○	○	○	○	○	☐ 出願する入試種別に合った用紙を使用していますか？(修士外国人留学生:用紙左上に記載) Is Course/Program/Enrollment month (upper left of the paper) right? ☐ 履歴に空白期間はありませんか？(所属する学校が無い期間は「自宅学習」等記入してください) Fill in the section "History" without blank period. Applicants who have the period of study at home fill in like "Study at home".
☐ 国費留学生証明書 MEXT Scholarship Student Certificate	現在、京都大学工学部・工学研究科以外に在籍中の国費留学生のみ提出 Only for International Students who Are Currently in Receipt of MEXT Scholarship, also Expected to Receive It after Enrollment, and Don't Belong to Graduate School of Engineering or Faculty of Engineering, Kyoto University.						※所属の学校が発行したもの The certificate is issued by university which you currently enroll in.
☐ 成績証明書(原本) The original of academic transcript		○		○※	○	○	☐ 日本語・英語以外の証明書には、日本語訳または英語訳を添付してください If the certificate is not written in English or Japanese, the original one and its English or Japanese translation must be submitted.
☐ 卒業(見込)証明書(原本) Original of Certificate of Graduation/Expected Graduation		○		○※	○	○	☐ 日本語・英語以外の証明書には、日本語訳または英語訳を添付してください If the certificate is not written in English or Japanese, the original one and its English or Japanese translation must be submitted.
☐ 推薦書(原本) Original of Letter of Recommendation				○※	○		☐ 日本語・英語以外の証明書には、日本語訳または英語訳を添付してください If the certificate is not written in English or Japanese, the original one and its English or Japanese translation must be submitted.
☐ 学士の学位授与証明書(原本) Original of Certificate of Bachelor's Degree						○	※出願資格Ⅱ i(2)に該当する者のみ Only for applicants under our eligibility requirement II i(2).

※工学研究科協力講座(研究所等)の研究生で、研究生の出願・入学手続きの際に原本を提出し、確認を受けている場合に限り、コピーの提出を可とする。

We can accept the photocopy of these documents only if applicants are research students who belong to the Cooperating Chairs of our Graduate School, which are the designated laboratories in research institutes of Kyoto University, and already submitted the original documents when applying.

【志望する入試区分のクラスターへ提出】

Submission to Cluster Office in Each Desired Division

入試区分別の指定提出書類 Documents Required in Some Divisions Other than the Above	募集要項の「入試区分別入学試験詳細」をよく読んで提出物の有無を確認し、指定された方法により提出してください。 提出場所は、上記書類の提出先と異なります。 In some Divisions, you may be required to submit other documents than the above. Read “Details of Entrance Examination of each Division and Department” in the Guidelines carefully. Please be noted that other documents need to be <u>submitted to cluster office in each desired division, different from the receiving office for the documents above.</u>
---	---

(受験票送付用)

速達

(合格者受験番号一覧送付用)

切手貼付欄
column for pasting
postage stamp

①410円分の郵便切手をのりで貼ること。(購入の際は収入印紙と間違えないようにしてください。)
②複数枚の切手を貼るときは、必ず重ならないよう貼ること。一部でも重なって貼った場合、郵送されない可能性があります。(この枠からはみ出してもかまいません。)
③Paste a total of 410 yen postage stamp by glue. (ATTENTION: Be sure to buy postage stamp not revenue stamp.)
④Be sure not to overlap stamps each other. If you do it, the mail may not arrive. You can also paste out of this frame.
⑤You can use only Japanese postage stamps.

住所
Address (Only the address in Japan)

氏名
Name

様

切手貼付欄
column for pasting
postage stamp

①110円分の郵便切手をのりで貼ること。(購入の際は収入印紙と間違えないようにしてください。)
②複数枚の切手を貼るときは、必ず重ならないよう貼ること。一部でも重なって貼った場合、郵送されない可能性があります。(この枠からはみ出してもかまいません。)
③Paste a total of 110 yen postage stamp by glue. (ATTENTION: Be sure to buy postage stamp not revenue stamp.)
④Be sure not to overlap stamps each other. If you do it, the mail may not arrive. You can also paste out of this frame.
⑤You can use only Japanese postage stamps.

住所
Address (Only the address in Japan)

氏名
Name

様

課程 Program	修士／博士後期(いずれかに○) Master's / Doctoral (Circle one)
入試区分 / 志望専攻 Division / Department	

課程 Program	修士／博士後期(いずれかに○) Master's / Doctoral (Circle one)
入試区分 / 志望専攻 Division / Department	

京都大学大学院工学研究科

〒615-8530 京都市西京区京都大学桂
TEL 075-383-2040, 2041

京都大学大学院工学研究科

〒615-8530 京都市西京区京都大学桂
TEL 075-383-2040, 2041

受験票送付用

合格者受験番号一覧送付用

- (Return label for examination voucher to applicant) (Label for the result of entrance examination to applicant)
- These labels are used for sending your examination voucher and result to you. Please follow the steps below.
- ①カラーでプリントアウトしてください。

②「宛名ラベル」を切り取り線にしたがって、ハサミ等で切り取ってください。

③住所・氏名・郵便番号・入試区分を記入してください。
(日本国内の住所に限る)

④各「宛名ラベル」に必要な切手をのりで貼付してください。
(切手貼付欄の注意事項をよく読んでください。)

⑤市販の長形3号の封筒(120mm×235mm)に貼り付けてください。
(郵送中に剥がれてしまうことの無いよう、強くのり付けしてください。)
- ①Please print this label in color.

②Along the cut line, cut it with scissors etc.
(……切り取り線……=cut line)

③Please write address in right space(Only the address in Japan), your name on the above of <様>, zip code in □□□-□□□□, and desired division in <入試区分> squarespace.

④Please paste necessary stamps by glue in the column for pasting postage stamp. Please confirm the notes in the column.

⑤Please prepare standard "3号"envelope (Size:120mm×235mm), and paste each label. Paste strongly not to come off.
Please make arrangement these envelopes to be able to receive in Japan.